

会長のページ 気温と人体	河野 雅行	3
日州医談 女性医師の管理職登用について		
～多様な視点での意思決定につなげるために～	上山 貴子	4
隨 筆 ケチの神様	谷口 二郎	6
津久見市観光	石橋 俊秀	8
エコー・リレー(604)	金田 和豊, 佐藤 新五	17
メディアの目 高千穂通り車暴走から10年	黒木 裕司	18
身近なお困りごと相談室	高山 桂	19
宮崎大学医学部だより 病態解析医学講座 -救急・災害医学分野-	落合 秀信	26
専門分科医会だより 東洋医会	川越 宏文	27
ニューメンバー	新宮 正巳	44
診療メモ 非心原性脳梗塞の二次予防:抗血小板薬はこう使い分ける	河野 朋宏	70
宮大医学部学生のページ タイでの研究室留学	佐川 日菜	72

叙勲・祝賀	10
表彰・祝賀	12
あなたできますか？(令和6年度医師国家試験問題より)	16
宮崎県感染症発生動向	20
日赤だより	23
各都市医師会だより	24
令和7年度女性医師支援・ドクターバンク連携九州ブロック会議	28
九州医師会連合会令和7年度第1回勤務医連絡協議会	30
九州医師会連合会令和7年度第1回連絡協議会	32
全国医師会医療秘書学院連絡協議会第75回定例総会・令和7年度第1回運営委員会	34
第2回各都市医師会長協議会	36
宮崎県医師会親善ゴルフ大会	38
日医インターネットニュースから	40
会員の異動・変更報告	42
ベストセラー	43
理事会日誌	46
県医の動き	50
ドクターバンク情報	51
行事予定	57
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	59
令和7年総目次	74
あとがき	98
<hr/>	
お知らせ	
日医ペイハラ・ネット相談窓口を開設しました	15
年末・年始の休館について	31
令和7年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生採用のお願い	35
宮崎の偉人 高木兼寛公の功績を未来へ。	
顕彰演劇「須く、一歩進む」ご協賛のお願い	45
医師年金ご加入のおすすめ	49
日州医事へのご意見・ご感想	55
日本医師会作成 院内掲示用ポスターについて	69
宮崎県医師会マーリングリストのご案内	91
都市医師会への送付文書	92
医療勤務環境改善支援センター	96
日州医事原稿募集のお知らせ	97

医師の心得

1. 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成14年3月12日制定)

〔表紙作品：写真〕

帰路に就くエゾジカ

宮崎と比べ90分程早く日が沈む冬。まだ16時前なのに日が沈む。今歩いている所は凍りついた海です。

撮影場所：野付半島

都城市 山路 健

会長のページ

気温と人体

かわ の まさ ゆき
河 野 雅 行

先日の死体検案研修会で県警によれば気温が原因となる死亡として、真夏の熱中症と真冬のヒートショックによる例が多いそうです。ヒートショックとは急激な寒暖の差に体が同調できずに不調となることです。冬場に暖かい部屋から寒いトイレに入ったり、入浴時に寒い環境下で熱い風呂に浸かったりと急激な温度差により血圧の変動が起り心血管障害や脳梗塞などが発生することです。統計によれば、年間の温度変化に関連した死亡者数は交通事故によるものを上回ります。

特に近年の夏の暑さは異常です。私が少年のころは30°C程度が最高気温であった記憶があります。TVによると本年7月初めでもすでに日本全国が30°C以上に達し、真夏には40°Cと驚くような地域が多数ありました。7月に秋田県で全国学会があり参加しましたが、九州よりも暑く、東北の涼しいイメージが壊れてしまいました。今夏の平均気温は全国的に平年よりも2.3°C高かったそうです。7月初めには東京で熱中症搬送が1日で70数件ありました。8月には全国で1週間に5,000件超が救急搬送され、半数が高齢者で、しかも屋内で発症した例が多かったと報告されています。その後も頻繁に熱中症が報告されました。戸外での運動や活動は制限せざるを得ないのみならず、屋内でも油断はできません。暑さに耐え得る体に慣らすのも必要ですが、鍛えるにも限度があります。現代はエアコンのない生活は考えられませんし、上手に使用することで熱中症の発症が防げます。脱水との関連も強くいわれており、適度な水分補給は絶対に必要です。ただし、アルコール飲料は例外です。若いころ、真夏ゴルフ昼食時のビールで、後半は酷い目にあったことがあります。

なぜ暑くなったのか？専門家はさまざまな理由を挙げて、地球全体の気温が上昇する温暖化現象と説明しています。地球の歴史では温暖期と寒冷期が周期的に繰り返されてきたそうですが、現在の温暖化は多分に人為的なものとも指摘されています。極地や高山の氷河が以前に比べて大分消滅したそうです。このまま地球全域の氷が溶けてしまえば海面が数十メートル上昇して消滅する国や地域が多数あり、我が国でも多くの県や大都市が水没すると予測されています。なお、寒冷期の戸外活動や登山での死亡は事故やヒートショックなどを除けば低体温によるものが多いようです。現在は極地に近い場所から赤道直下まで人が住むことは可能です。しかし、気温に対してある程度の順応性はあっても、設備や衣類がなければ私たちのハビタブルゾーンは、非常に狭い範囲に限られるようです。皆様も気温の変化には充分なご注意を。

(令和7年11月14日)

日州医談



女性医師の管理職登用について ～多様な視点での意思決定につなげるために～

宮崎県医師会 理事 上山 貴子

令和7年度 日本医師会女性医師支援・ドクターバンク連携九州ブロック会議の今回のテーマは「女性医師の組織内での昇進やキャリアラダーの現状と課題について」であった。県内基幹型臨床研修病院8施設（宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院、県立日南病院、県立延岡病院、古賀総合病院、宮崎生協病院、藤元総合病院、宮崎市郡医師会病院）に女性医師の管理職登用について病院長と勤務医向けに回答していただいた内容を発表したので報告したいと思う。

1) 病院長向けアンケート調査から

県内基幹型臨床研修病院に勤務する部長・科長を含む医師の管理職の男女の割合は男性医師91.5%，女性医師8.5%，年齢層では50代が最も多く続いて60代，40代，平均年齢は54.2歳。全体の50%がこの5年間で女性医師の管理職が増えたと回答。管理職登用におけるジェンダー平等を意識した施策について最も多かったのが「育児や介護との両立支援制度（短時間勤務、在宅勤務など）」で既に4施設が取り組んでいた。「男女を問わずのマネジメント研修」「特に施策はない」という回答が2施設。女性医師の管理職登用については、「意思決定の多様性が高まり組織の健全性が向上する」「女性の視点が反映されサービス医療質が高まる」「若い世代へのロールモデルとして好影響がある」などすべての病院が前向きで「特に意義を感じな

い」と答えた病院はなかった。

女性医師の管理職登用を進めるうえでの課題は、「管理職候補となる女性の人数が少ない」「長時間労働や転勤など働き方の問題」「育児や家庭との両立の難しさ」といった働き方や人員体制の課題に加え、「女性医師はワークライフバランスを重視する傾向が強い」「昇進意欲が低い/希望しない」といった女性医師側の意識に課題を感じるという回答が一定数あった。多くの病院が管理職登用におけるジェンダー平等の推進に前向きな姿勢を示しており制度整備も進められている。しかしながら、現状は管理職候補となる女性医師の数が少なく、管理職として求められる働き方と女性医師が希望する勤務条件との間にギャップがあり、特に子育て世代の女性医師にとっては時間的・精神的な負担が大きい。

女性医師の管理職登用を進めるために制度面の整備、キャリア支援、意識啓発を含めた多面的なアプローチが求められる。女性医師の管理職に占める割合が今後高まることで、多様な視点での意思決定が可能となり、組織の柔軟性や課題対応能力の向上につながり、結果的には男性医師を含めた医師の働き方が改善・向上する可能性があると考えられた。

2) 勤務医向けのアンケートから

県内基幹型臨床研修病院8施設の勤務医

1,030人中回答数132人、女性医師28%、男性医師72%から回答を得た。年齢層は30代、40代、50代が中心で、勤務形態は常勤が女性医師75.7%，男性医師92.6%，非常勤が女性医師24.3%，男性医師7.4%，勤務年数は男女とも5年未満が最も多かった。

現在のキャリアに「非常に満足」「やや満足」「どちらともいえない」の合計割合は、女性医師94.6%，男性医師91.5%，男女とも同じ割合で、女性医師は「キャリアとプライベートのバランスが良い」「ワークライフバランスがとれている」「仕事にやりがいを感じる」、男性医師は「キャリアを活かすことができる」「やりがいを感じる」「自分がやりたいことをやらせてもらえる職場環境であると感じる」であった。「あまり満足していない」「全く満足していない」理由は男女とも「忙しい」「時間外労働が多い」「給与が安い」といった業務や待遇に関する理由であった。

ライフイベント（結婚・出産・育児・介護）がキャリア形成に影響したか、女性医師54.1%，男性医師46.3%と、わずかながら女性医師のほうが男性医師よりキャリア形成に影響した割合が高く、その場合のサポートは男女とも「パートナー」「家族・親族」で「外部サービス」という回答もあった。

現在の勤務環境に女性医師64.9%，男性医師57.9%が「満足している」が、女性医師29.7%，男性医師42.1%が「満足していない」と回答。男性医師のほうが不満を感じている割合が高かった。

勤務先は働きやすい環境づくりがなされているか、女性医師64.9%，男性医師55.8%が「はい」と回答。具体的な取組みは男女ともに「短時間勤務」「育児休暇」「時間外勤務抑制」「託児

所」「介護休暇」で、その他の意見は女性医師が「上司達が実際に利用し制度を利用するよう積極的に勧めてくれた」、男性医師が「休暇がとりやすい」「必要に応じて相互に勤務の交代、休暇の取得ができる」であった。「いいえ」は女性医師8.1%，男性27.4%で男性医師の割合が高く、男女ともに「時間外労働抑制」「短時間勤務」「ハラスメント防止」「勤務環境改善の窓口」などの取組みがあるとよいと回答している。

将来的に管理職を希望する医師の割合は、女性医師13.5%，男性医師23.2%で男性医師の割合が高く、理由は女性医師が「後輩医師の育成やチーム運営にかかわりたい」「責任ある仕事にやりがいを感じるから」、男性医師が「後輩医師の育成やチーム運営にかかわりたい」「組織に対する自分の意見や方針を反映させたい」「責任ある仕事にやりがいを感じるからから」であった。将来的に管理職を希望しない理由は、女性医師が「管理職の業務・責任が過大に感じられるから」、男性医師は「管理職に昇進しても待遇や報酬が見合わないと感じる」が最も多い結果であった。

将来的に管理職を希望する医師は男女とも低く、管理職志向の意識の低さやその背景にある働き方に対する待遇や報酬といった価値観の多様化、勤務環境への構造的な不満といったことが課題としてあげられた。また、ライフステージに応じた柔軟な働き方の整備、性別に関わらず多様なニーズに応える制度の構築、女性医師自身の意識改革も必要である。管理職として活躍する女性医師が今後ロールモデルとして多数輩出されることで管理職を志望する女性医師の増加が期待される。

隨 筆

ケチの神様

宮崎市 谷 口 二 郎

谷口家にはいくつかの家訓がある。その1つが僕約である。僕約というと聞こえはいいが、つまりケチになりなさいということである。

商人の街大阪では喉が渴いたら「つばでも飲んどき～」と冗談混じりに言うらしいが、谷口家では小さいころから「喉が渴いたら水を飲みなさい」と言わせ続けてきた。その習慣は大学に入っても続き、友人から「お茶でもしない？」と誘われても断ることが多かった。そのため友人も少なかった。なぜ一緒に行かなかったのか？ それはコーヒー一杯で150円もかかる。それがもったいないと思ったからだ。水だったらタダですむ。幼いときの家訓が脈々と生きていたのである。しかし卒業が近づいてくると、いろんな国家試験の情報をゲットしなくてはいけない。当時はその情報源は喫茶店だった。コーヒーを飲みながら同級生と情報を交換するのだ。そのためにコーヒーに150円も支払うのは仕方ないと考えを変えた。

国試が終わるまでは新宿西口にあった「ピオニ」という喫茶店を根城にし、毎日のように通った。しかし試験が終わると喫茶店には行かなくなった。また水の生活に戻ったのである。考えてみればもう何十年も喫茶店には行っていない。行く用事もなくなったというのもあるが、毎朝自宅でコーヒーを楽しむのでその必要がなくなった。

医師になってゴルフを始めた。当然ゴルフ

シューズが要る。当時の靴はすべて足底にスパイクが付いている靴だった。それは金属で出来ている。ゴルフ場のコンクリートのカート道は硬いので、その上を歩くとスパイクがすり減ると考え、芝の上ばかりを歩いていた。今はほとんどがスパイクレスなので、もし当時それがあれば堂々とコンクリート道の上を歩いたのにと思う。今考えればバカみたいな話だ。スコアよりスパイクを気にするなんて…。そのせいかその後スコアは伸びることなくやめてしまった。

歯みがきチューブは最後の一しぶりをしたらハサミで切る。これで3回分は使える。切ったばかりのチューブを家内がゴミと思い捨ててしまい、夫婦げんかになったことがある。チューブ式のワサビのチューブも同じようにしていた。だがいい方法を考えついた。それは出てこなくなったら、そのまま醤油の皿の中につけ、中身をスポットみたいに吸い上げる。これで余裕で2回分は使える。やっぱりチューブの中が空になるのは気分がよい。

スーパーに行くと食品ロスを意識しているのか、おつとめ品コーナーが増えてきた。最近はそのコーナーに一言書いてあるのが多い。先日は「おつとめ品コーナー」と書いてあり、その下に「あと少しの命です…どうかお助けください」と野菜が並べてあった。

スーパーではタイムサービスというのがある。その時間になると安くなることがあるが、

夕方とか午前中は賞味期限が近づくため安くなっていることがある。最初は10%引きからであるが、それが20%，30%に増えていく。それでも売れないときは半額となる。生鮮食品が多い。しかしそのタイミングが難しい。半額になる前に売り切れることがある。だが半額品をゲットした喜びは何にも代えがたい。それでつい多く買ってしまい結局食べきれない。

先日は熟し柿5個で200円というのがあり飛びついて買ったら、持って帰る途中袋の中でぐじゅぐじゅに潰れていた。まあそれでも食べることができたのでよかった。なんといっても熟柿大好き人間だからだ。

デパートもタイムセールがある。6時までは定価で販売しているが、閉店1時間前から安くなる。3割引きまでしかない店もあれば、それを閉店ギリギリにする店もある。しかしそれを狙っている私みたいな種族の人が多く、行ってみるともう店頭に何もなかったりする。そんなときは「グヤジー」と心の中で叫ぶ。

先日夫婦で車で出かけたらトイレに行きたくなかった。家内が「コンビニでも寄ってトイレ借りたらいいんじゃないの？」と気を遣ってくれた。しかし私は断った。なぜならトイレを借りる際、何か買物をしないと気の毒だ。だがトイレを借りるだけにお金を払いたくない。そのため近くの公園を探した。なぜなら必ず公衆トイレがあるからだ。ところがなかなか街の中での公園がない。もう漏れそうだ。やっぱりコンビニに行った方がよかったと後悔していたらようやく見つけた。慌てて車を停め駆け込んだ。ナイアガラの滝みたいな勢いで尿が出て一件落着。自分でもここまでしなくとも反省した。

私は蚊が大嫌いだ。だから夏は出かける際、防虫スプレーを体中にふりかけて出かける。しかしあるときそれもちょっともったいないと思、足の一部にかけないで出かけた。するとそこに蚊の集中攻撃。帰ってくるころには何か所も蚊に喰われものすごく痒かった。けちらずに十分にふっておけばそんなこともなかったと反

省し、自分でも可笑しかった。

街角でよくポケットティッシュを配っている。店の宣伝が印刷してある例のヤツだ。通りがかりの人に配るのだが、意外と受け取る人が少ない。私は必ず受け取るようにしている。そして「うちは子どもを含めて5つもらえますか？」とお願いするとニコニコして渡してくれる。それは早くティッシュを配り終えたいからだ。彼女らのバイト代は時給ではなく一個につきなので、早く配り終わりたい。できたら10個くらいまとめて配りたいのだが、そういうのが見つかったらこっぴどく怒られる。だから5つも受け取ってくれる人には感謝、感謝なのだ。

私には大分に兄がいる。同じ産婦人科医で大分県病院の院長まで務め上げた。その兄もやはり同じようにスーパーでは半額ものを買うらしい。元院長だった人がそんなに生活に困っているとは思えないが、ついクセで買ってしまうらしい。そういえば一度兄の自宅に遊びに行ったとき、入口に缶ビールが山積みになっていた。お中元にでももらったのか尋ねてみると、近くのスーパーで安かったから買ったという。しかもつまみなどのいろんな景品も一緒に付いている。安いからといってこんなにビールを爆買いしたら、飲み切るのにきっと半年もかかるだろう。そのころにはせっかく買ったビールも鮮度が落ち、味も落ちているに違いない。そしてこんな大量のビールを飲み切るかも心配になった。しかしそれを見た瞬間、やはり兄と私は同じ血で繋っていると確信した。なぜならやることが似ているからだ。

そういえば、谷口家にはお年玉、七五三、お中元、お歳暮などの習慣はない。何せイトコだけで50人以上もいる多産系だからだ。そんなことをしている余裕はない。私がそういう習慣があるのを知ったのは大人になってからだ。

ある日叔父に言われた。「谷口家はケチだと思われている。ケチと思われない僕約を心がけなさい」。ケチと僕約は紙一重。神様はそれを分かってくれているだろうか。

隨 筆

津久見市観光

延岡市 井上病院 いし ぱし とし ひで
石 橋 俊 秀

大分県津久見市は佐伯市と臼杵市の間に位置する人口約15,000人の小都市だ。私が医師になったころは津久見高校が甲子園に春夏通算18回出場し、2回も優勝した。

延岡市の雑誌に第13回豊後水道河津桜まつり「2025年2月8日(土)～3月2日(日)」が紹介されていたので、津久見市に2月24日に行ってみた。

ちなみに、河津桜は静岡県賀茂郡河津町が発祥で、津久見市のは九州で一番の早咲きと言われている。平成16年台風水害の翌年、復興のシンボルとして四浦住民が植樹を始め、今では2月上旬～3月上旬に約5,000本が咲き誇る。

大漁桜が長目半島（開花時期は3月中旬）に、牡丹桜が彦の内地区に新たに植樹された。また、ヤマザクラ（3月中旬～4月上旬）とソメイヨシノ（3月中旬～4月上旬）が青江地区ほか市内一円で約1万本が咲く。これで、2月上旬から4月下旬まで長期にわたって桜見物ができる。

河津桜まつり

直前の河津桜の開花状況では、越智小学校と間元地区の桜が一部咲いていて、さくらSAなど他の所はまだ蕾ということだった。一旦、つくみイルカ島・さくらSAを通り過ぎ、9:40ごろに越智小学校に着いた。河津桜が綺麗に咲いている所があったので記念撮影をした（写真1）。四浦うみ畑で磯の味覚を使ったサザエやカキなどの海鮮丼はまだ準備中だったので、食べられなかったのが残念だった。間元地区に

行ってみると、まだ蕾が多く、開花している河津桜が少なくて寂しかった。



写真1 越智小学校の河津桜

つくみイルカ島

正式名は「うみたま体験パークつくみイルカ島」で、大分市の「うみたまご」と姉妹関係にある。この入口には売店があり、熱帯魚が歓迎してくれた。イルカなどのナイグルミやお菓子がたくさん販売されていた。そこを通り過ぎ、入場料（1,300円）を支払って中に入った。

「海の生き物と仲良くなろう！」というコーナーでは、ナマコ、ヒトデ、カニ、ヤドカリやいろんな魚と触れ合える。注意点をきちんと守ろうと書いてあった（OKとNG）。

ここではバンドウイルカが数頭、飼育されていた。これは海イルカの1種だ。海イルカは全体で約35種類、川イルカは5種類だそうだ。鯛や鰯に餌をやる「魚餌やり体験」のコーナー（100円）があり、女児が興じていた。近くに「イルカにえさポン！」のコーナー（500

円) や「ファミリーフィッシング」のコーナー(500円)もあった。「アドベンチャーイルカボート(2,000円)」では、ボートを操ってイルカを間近に見ることができる。親子で楽しめそうだ。

11:00、待ちかねた「イルカパフォーマンス」が特設のパフォーマンススタンドで始まった。司会者が3頭のイルカの名前を紹介した。観客をリラックスさせるために、観客に手足をブラブラさせた。それに合わせて、イルカたちがムナビレやオビレを上手に動かしたので、観客から拍手が沸き起った。

次に3頭が一斉にジャンプした。屋内プールと違って高さに制限がなく、伸び伸びとしたジャンプを堪能できた。その後、口先でフランフープを上手に回し、最後に司会者に受け渡した。長い棒を飛び越すショーも披露した。その後、1頭ずつ、高くジャンプした(写真2)。どこに飛び出してくるか、分からぬので写真撮影や動画撮影が非常に難しかった。



写真2 イルカのジャンプ

11:15から「イルカとぱちり」のコーナーでは、イルカを直接タッチすることができる(500円)。ここでしか体験できないので、私も参加した(写真3)。

その後11:30から「イルカとあそぼ!」のコーナーではイルカと握手をしたり、体に触ったりできる手軽トレーナー体験ができる。11:45から「イルカと泳ごう・スペシャル」では、イルカと一緒に泳げる。

売店に桜にちなんだ土産物(桜だんご、桜餅、桜クリーム大福、桜まんじゅう、桜しぐれ、桜の舞、桜葉せんべい、ひねりさくら餅な

ど)がたくさん並んでいた。その中で期間限定販売の「桜餅」を買って食べた。

「つくみイルカ島」前の「さくらSA」で協賛イベント「つくみマルシェ河津桜フェア(2月8日~3月2日)」が開催されていた。屋台やキッチンカーでいろんな物が販売されていた。から揚げ、牛すじカレー、焼もろこし、ハンバーガー、焼きそば、サザエ飯弁当、さくら餅や桜弁当(800円)などが販売されていた。

ちょうど、昼時だったので桜弁当(写真4)を買って食べた。これは幕の内弁当のようで、いろんなおかずが入っていた。気になっていた、サザエ飯、散らし寿司、混ぜご飯、卵焼き、ポテトサラダなど。一番変わっていたのは、寒天に去年の桜の花びらが入っていたことだ。割とすっきりして美味しかった。



写真3 イルカと著者



写真4 桜弁当

叙勲・祝賀

旭日双光章

はら だ ゆう いち
原 田 雄 一 先生 (宮 崎)

令和7年11月3日、保健衛生功労により旭日双光章をお受けになりました。
衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



瑞宝小綬章

いし かわ ただし
石 川 正 先生 (宮 崎)

令和7年11月3日、保健衛生功労により瑞宝小綬章をお受けになりました。
衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



瑞宝双光章

いな はら めい し
稻 原 明 肆 先生 (日 向)

令和7年11月3日, 学校保健功労により瑞宝双光章をお受けになりました。
衷心より祝意を表しますと共に, 今後ますますのご活躍を祈念いたします。



表彰・祝賀

国民健康保険事業により国民健康保険中央会表彰

た ばた なお と 田 畑 直 人 先生 (宮 崎)
かわ ごえ ひろ ふみ 川 越 宏 文 先生 (宮 崎)

令和7年8月29日、国民健康保険事業により国民健康保険中央会表彰をお受けになりました。
衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



田畠 先生



川越 先生

国民健康保険関係功績により厚生労働大臣表彰

なか ざき しゅう じ 中 崎 秀 二 先生 (宮 崎)
ひめ じ だい すけ 姫 路 大 輔 先生 (宮 崎)

令和7年10月27日、国民健康保険関係功労により厚生労働大臣表彰をお受けになりました。
衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



中崎 先生



姫路 先生

学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰

はま だ よし おみ
濱 田 義 臣 先生 (都 城)
なが い しょう
長 井 章 先生 (西 諸)

令和7年11月20日、学校保健功労により文部科学大臣表彰をお受けになりました。
衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



濱田 先生



長井 先生



労働基準行政関係功労により厚生労働大臣表彰

おち あい ひで のぶ
落 合 秀 信 先生 (宮大医)

令和7年11月23日、労働基準行政関係功労により厚生労働大臣表彰をお受けになりました。
衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



労働基準行政関係功労により厚生労働省労働局長表彰

た はら のり ひと
田 原 徳 人 先生 (西 諸)

令和7年11月23日、労働基準行政関係功労により厚生労働省労働局長表彰をお受けになりました。
衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



日本医師会会員 / 会員が開設・管理する医療機関の医療従事者 /
会員が開設・管理する介護サービス施設・事業所の従業員の皆様へ

日医ペイハラ・ ネット相談窓口 を開設しました!

ご相談は
こちらから!



日本医師会ペイシェントハラスメント・ネット上の悪質な書き込み相談窓口

昨今、インターネット上(Google Map等の口コミやSNS等)で悪質な書き込み被害が増加しており、対応に苦慮している先生方や医療機関も多くあることと存じます。2024年10月に会員向けに実施したアンケート調査では、総回答数4,730のうち、Google Mapやその他の医療機関検索サイト、SNS等でご自身の医療機関に対する誹謗中傷等の書き込みをされた医療機関が約8割という結果でした。このような状況を踏まえ、SNS等の誹謗中傷に関する書き込みをはじめ、医療機関でのペイシェントハラスメント全般に関する相談窓口を創設いたしました。

相談料無料・
回数制限なし

このような場合にご相談いただけます!

事例1



医療上の指示・指導などの受け入れを拒否され、怒鳴られるなど暴言を受けた。

事例2



インターネットやSNSで誹謗中傷、脅迫された。

お気軽にご相談ください!

制度対象者

日本医師会会員 / 会員が開設・管理する医療機関の医療従事者 /
会員が開設・管理する介護サービス施設・事業所の従業員

相談内容

インターネット上の悪質な書き込みを含むペイシェントハラスメント全般

相談受付方法

WEBフォーム・電話

- ご相談に際しては会員確認をさせていただきます。会員本人以外からのご相談の場合(会員が開設・管理している医療機関の医療従事者等の場合)は、勤務先の医療機関の開設者または管理者が会員であることを事前にご確認いただくようお願いいたします。
- 無料で回数制限等なくご相談いただけます。

WEB
フォーム

<https://forms.gle/GgKkT837gCyfiVgL6>

※受付の当日または翌営業日以降に相談窓口より電話またはメールにてご連絡いたします。
お問い合わせの対応状況により、数日お時間を頂戴する可能性がございます。



電話

0120-830-870

電話受付時間: 平日9時~18時

※ネット上の誹謗中傷等の書き込みの場合は、該当箇所を確認するため、WEBフォームにて関連のURL等をご記載ください。

このご案内は概要の説明となります。詳しい内容については下記をご確認ください。

〈日医ペイハラ・ネット相談窓口の詳細について〉

日本医師会ホームページおよびメンバーズルーム
をご覧ください。

<https://www.med.or.jp/doctor/sonota/sonota/etc/011988.html>

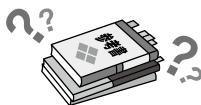


〈日医ペイハラ・ネット相談窓口全般に関するお問い合わせ先〉

日本医師会情報システム課

TEL: 03-3942-6135 FAX: 03-3946-6295

MAIL: josys@po.med.or.jp



あなたできますか？

—令和6年度 医師国家試験問題より—

(解答は44ページ)

1. 肩関節脱臼で正しいのはどれか。
 a 横隔神経麻痺の合併が多い。
 b 肩関節周囲炎の原因となる。
 c 後方に脱臼することが多い。
 d 再脱臼は若年者で生じやすい。
 e 肩関節内転位で脱臼することが多い。
2. Brugada症候群における突然死のリスクファクターはどれか。2つ選べ。
 a 喫煙歴：あり
 b 既往歴：糖尿病
 c 既往歴：原因不明の失神あり
 d 家族歴：父親が43歳で突然死
 e アレルギー歴：抗菌薬でアレルギーあり
3. 診療所長の医師が、実際には行っていない従業員への診療の報酬を繰り返し請求していたことが発覚した。厚生労働大臣はこの医師の保険医登録を取り消す処分を行った。
 処分にあたって最も問題とされたのはどれか。
 a 情報開示
 b 法の遵守
 c 労働者保護
 d 経営の健全性
 e 情報セキュリティ
4. 82歳の女性。肺癌肝転移のため緩和ケア病棟に入院中である。1週間前から食欲が低下し、徐々に食事摂取量が減少している。体重の変化はない。意識は清明。身長150cm、体重36kg、体温36.2°C。脈拍80/分、整。血圧108/58mmHg。皮膚のツルゴールは低下している。口腔内の衛生状態は不良で、乾燥している。腹部は平坦、軟である。下腿に浮腫を認めない。血液所見：赤血球320万、Hb9.2g/dL、Ht30%，白血球8,200、血小板23万。血液生化学所見：総蛋白5.8g/dL、アルブミン2.8g/dL、AST24U/L、ALT28U/L、尿素窒素28mg/dL、クレアチニン1.0mg/dL。栄養サポートチーム<NST>に介入依頼を行うことになった。
 この患者に対するNSTの活動で正しいのはどれか。
 a 胃瘻造設を提案する。
 b 口腔ケアの実施を提案する。
 c 緩和ケアチームとは独立して活動する。
 d 体重が4kg以上減少してから介入する。
 e 栄養療法の実施にあたり主治医の許諾は不要である。
5. 病院搬入時にショックを合併する鈍的外傷患者のエックス線撮影で、胸部とともに撮影する部位はどれか。
 a 頭部

- b 頸 椎
 c 腹 部
 d 骨 盤
 e 大腿骨

6. 41歳の初産婦（1妊0産）。妊娠40週4日、陣痛発来のため入院した。陣痛発来から16時間後に子宮口が全開し、3時間経過した。身長160cm、体重65kg。体温36.9°C。血圧138/84mmHg。陣痛間欠時は閉眼し、陣痛発作時にのみ唸り声をあげる。神経診察で異常を認めない。陣痛周期は5～6分、持続時間は20秒であった。児頭下降度はSP±0cm、2時方向に小泉門を触知した。胎児心拍数陣痛図で、胎児心拍数基線は140bpm、基線細変動は中等度、徐脈はなく、一過性頻脈を認める。
 次に行うのはどれか。
 a 吸引分娩
 b 経過観察
 c 帝王切開
 d 胎児圧出法
 e 子宮収縮薬投与
7. 下行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の周術期管理で誤っているのはどれか。
 a 手術前4週間以上の禁煙
 b 術前日の非吸収性抗菌薬の内服
 c 術後72時間以上のベッド上安静
 d 手術室搬入2時間前の浣腸排便処置
 e 手術室搬入3時間前までの経口補水液摂取
8. 長時間の碎石位による合併症で誤っているのはどれか。
 a 視力障害
 b 下肢の神経損傷
 c 深部静脈血栓症
 d 接地部の圧迫性潰瘍
 e 体位解除後の低血圧
9. 皮膚の構造や機能で正しいのはどれか。
 a Merkel細胞は免疫担当細胞である。
 b 皮脂の主成分はコレステロールである。
 c チロシナーゼはメラニン生成に必須である。
 d アポクリン汗腺の導管は表皮に直接開口する。
 e ヘミデスマゾームは表皮細胞間の接着に関わる。
10. 求心性視野狭窄をきたす疾患はどれか。
 a うつ血乳頭
 b 頭蓋咽頭腫
 c 加齢黄斑変性
 d 球後視神経炎
 e 開放隅角緑内障

エコー・リレー

(604回)
(南から北へ北から南へ)

私の習慣

宮崎市 かねだ眼科 金田和豊



もともと運動が好きであった私は、高校ではテニスにハマリ、大学ではアメリカンフットボール、医者になってからは、上司や父の影響もありゴルフにもハマリ（スコアは毎回100前後ですが）、体を動かすことがストレス解消です。

私の今の習慣は週に2回は10km以上走ることです。体が資本の職業だし、最初は「ちょっとジョギングしようか」くらいの気持ちで始めたのですが、完走後の爽快感がたまらず、気づけば毎回10キロ以上は走らないと気が済まないほどに。どうやら本格的にハマってしまったようです。

走っていると、普段は嫌でもいろんなことを考えている頭が、無になってくれます。ただただ季節を感じながら、走る前に自分に課せたノルマを遂行していく、途中苦しいのを我慢して成し遂げたときの自己満足がたまらない。結構マゾヒストなのかもしれません。走りながら心身の健康を保ち、気持ちを整え、翌日の診療、手術に臨む。そんなサイクルが、今の私にはちょうどいいペースです。

いつの間にか目標はホノルルマラソンの42.195kmの完走。頭のカレンダーにはその日の予定をしっかり書き込んであります。南国の風を受けながら、「ここまで走ってきてよかつたな」と思える日を夢見て、今日もランニングシューズを履いています。もちろんゴルフとテニスも。

[次回は、宮崎市の中山 恵介先生にお願いします]

山に挑み、山に救われる

都城市 吉松病院 佐藤新五



遠征登山を始めたのは2017年、58歳でした。末娘が東北インターハイの山岳競技に行くというので、山形県の鳥海山、月山に登りました。コロナ禍に入った2020年9月には燕岳、乗鞍岳、蓼科山。2022年7月甲斐駒ヶ岳、10月谷川岳、木曽駒ヶ岳。2023年9月新穂高温泉からの槍ヶ岳。2024年5月島根の三瓶山、鳥取の大山、秋に剣岳、立山。そして今年は7月北海道の樽前山、9月奥穂高岳に登頂しました。

いずれも単独行で、大山登山までは登山口まで軽自動車を運転していました。昨年秋の剣立山と今年の奥穂高岳は新幹線や高速バスなどを利用しました。印象に残った山はやはり剣岳。最高の天気に恵まれ、下山後に剣山荘裏のクロユリのコルから見た剣岳、夕日は忘れられません。うまくいかないときもあって、昨年7月の奥黒部山域の山行では毎日10時間くらい歩いて1つの頂上も踏めず。無理な計画と悪天候が原因で、ただただ薬師岳山荘、高天原山荘、三俣山荘と渡りました。現在、行程の時間は標準の4割増しで計画し、天候不良時、予定以上に時間がかかったときのプランも考えておきます。心身を整えるため月3回双石山に登ります。

今後の目標としては3,000メートルを超える山、23峰（山溪オンラインによる）。富士山は30代で登っているので残り17座。全都道府県1座登山には残り1都2府24県。自由にさせてくれる妻に感謝です。

[次回は、延岡市の塩月 裕範先生にお願いします]

メディアの目



高千穂通り車暴走から10年

宮崎日日新聞社編集局 次長 兼 報道部長

くろ き ゆう じ
黒 木 裕 司

あの日の午後、整理部長だった私は、高千穂通りに面した社屋の4階で、夜の紙面制作を控え、勤怠管理業務をしていた。秋晴れの空が広がり、街は穏やかな空気に包まれていた。だが、その静けさは突如として破られた。「歩道に車が突っ込んだ」との一報。私たちの時間軸は大きく変わり、ひりひりとした長い夜が始まった。

2015年10月28日、73歳の男性が運転する軽乗用車が、宮崎市中心部・高千穂通りの歩道を約700メートルにわたり暴走。通行人6人を次々とはね、2人が命を落とし、4人が重軽傷を負った。

あれから10年。事故現場には今年も、亡くなった女性（当時66歳）の兄（78歳）が花束と「妹よ！」と題されたメッセージを手向いた。取材に応じていただけるのも、事故の根絶を願う切実な思いがある。「10年ひと昔というが、私には逆だった。時が止まったままで」。兄は今も毎朝、空き家となった妹の家を訪ね、「おはよう」と声をかけるという。

取材記者によると、女性は秋の京都旅行を心待ちに、チケットを受け取るため街中を訪れていた。兄が車で送った後、「天気もいいし、足を慣らしとかなきゃ」と徒歩を選んだ。そしてJR宮崎駅前交差点で信号待ち中、事故に巻き

込まれた。「もし天が一つだけ聞いてくれるなら、事故に遭う1時間前に迎えに行きたい」。兄の後悔は尽きない。

今秋、女性の家の庭に極楽鳥花が初めて咲いたという。「花が好きだった妹が『もう悲しまないで』と言っているよう」と兄は語った。事故現場に手向けた花束の中にも、庭から摘んだ鮮やかなオレンジ色の極楽鳥花が添えられた。花言葉は「輝かしい未来」だ。

この事故では、宮崎大学医学部附属病院のドクターへリが市街地交差点に着陸するという全国初の事例も生まれた。昨年12月、同大学の落合秀信教授の許可を得て日本病院前救急診療医学会総会・学術集会を傍聴させていただき、今も希有な事例として注目されていることを知った。

県内の65歳以上の運転免許保有者は、事故当時の25%から33%に上昇。車社会の高齢化が進む一方で、簡単に免許を手放すことができない宮崎の現実も横たわる。この事故から教訓にすべきことは多岐にわたり、重い。

マスコミは“何年目”というタイミングでしか報道しないと揶揄されることがある。ただ、あの日の平穏な日常が一変した体験を忘れず、遺族の思いを伝え、記憶を風化させない役割は、私たち報道に携わる者にしか果たせないのではないかと思う。

身边なお困りごと相談室

本コーナーでは、「医療機関での身近な疑問や質問」について、各分野の専門家が回答いたします。

第52回 一般内科診療の際のセクハラ問題について



Q.

新型コロナ感染症以降、内科診察・健康診断などで服を脱がせての診察トラブル、セクハラによる逮捕例を報道などでよく見かけるようになりました。リスク管理のため、現在では服の上から聴診するようにしています。医学的な根拠でなく、法的な根拠が知りたいです。

「服を脱がせて診察する」行為は、医学的には必要な場合があるものの、法的には複数のリスクが存在します。そのため、以下では、服を脱がせて診察する際の法的根拠について回答いたします。

まず、刑法35条は「法令又は正当な業務による行為は、罰しない」と定めているため、医師の身体接触を伴う行為であっても、「医療目的に基づく正当な業務行為」であれば、犯罪にはなりません。ただし、この場合が認められるためには、次の3つの要件が満たされている必要があります。すなわち、①医療上必要性があること（医学的合理性）、②方法が相当であること（必要最小限・説明・同意がある）、③社会的相当性を逸脱していないことの3つです。これらを欠くと、「医療行為」を装った強制わいせつや準強制わいせつに問われるおそれがあります。実際に、胸部聴診の名目で下着をずらし長時間触診した事例では医学的必要性を欠くと判断されたケース、または健診で上半身裸を求め、胸を手で触れた事例では、聴診器を介さず、直接触れる必要性がなかったと判断されたケースでは、それぞれ強制わいせつ罪が認定されたものも存在します。

そのため、現在において、法的リスク回避（予防法務）の観点に限れば、服の上からの聴診が無難です。その具体的理由が以下のとおりです。

- ①「不要な身体接触」と誤解されるリスクを最小化
 - 特に健康診断・初診では「医学的必要性が低い」と判断されやすい。
- ②説明同意が得られにくい状況では「同意欠如」とみなされる
 - 健診など「流れ作業」の現場では、同意の確認が不十分になりがち。
- ③後日トラブル時の「防御困難性」
 - 患者側が「触られた」と主張した場合、反証が極めて困難。
- ④医師法・刑法上の正当業務行為の要件充足が不明確
 - 聴診が服の上からでも可能と判断された場合、「脱がせた必然性」が説明しにくい。

もっとも、医学的に服をずらして聴診すべき場合も存在するかと思います。そのような場合には、服を脱がせる際の事前説明と明確な同意（「胸の音を聴くために、服を少し上げてもよろしいですか？」などの声かけ）および性別の異なる患者の場合は、患者と同性の看護師の立会いは必ず行うように注意をしてください。

（回答 宮崎県医師協同組合顧問弁護士
弁護士法人きさらぎ 代表弁護士 高山 桂）

A.



【広報委員会より】

学校健診については、日医の学校保健担当、渡辺弘司常任理事が「脱衣と学校健康診断」というコラムでまとめられていますので、ぜひご覧ください。

<https://www.med.or.jp/japanese/members/chiiki/gakko/data.html>
(日医会員専用ページ内「学校医のすすめ」P45)



＜医療機関での身近な疑問、質問をお寄せください＞

- 文字数：200字以内
- 質問はメール（genko@miyazaki.med.or.jp）、FAX、郵送などでお送りください。
※匿名での掲載になります。採否は広報委員会にご一任ください。

宮崎県感染症発生動向～10月～

令和7年9月29日～令和7年11月2日（第40週～第44週）

■全数報告の感染症

- 1類：報告なし。
- 2類：○結核11例（男性6例・女性5例）：保健所別報告数は【図1】、病型別報告数は【表1】、年齢別報告数は【表2】のとおりであった。
- 3類：○腸管出血性大腸菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。無症状病原体保有者が1例であった。年齢は60歳代で、原因菌はO115（VT1）であった。
- 4類：○E型肝炎1例：日南保健所管内から報告があった。年齢は60歳代で、性別は男性であった。主な症状はなかった。
- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）2例：宮崎市、延岡保健所管内から報告があった。年齢は20歳代と70歳代で、性別はいずれも男性であった。主な症状として発熱、頭痛、筋肉痛、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、刺し口があった。
- 日本紅斑熱6例：宮崎市、都城（各2例）、延岡、小林（各1例）保健所管内から報告があった。年齢は80歳代が3例、70歳代が2例、60歳代が1例であった。性別は男性3例、女性3例であった。主な症状として発熱、頭痛、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常等があった。
- レジオネラ症1例：日向保健所管内から報告があった。年齢は60歳代で、性別は男性であった。病型は肺炎型であった。主な症状として発熱、咳嗽、肺炎がみられた。
- 5類：○アメーバ赤痢2例：宮崎市、都城保健所管内から報告があった。年齢は40歳代と60歳代で、病型はいずれも腸管アメーバ症であった。主な症状として粘血便、腹痛、大腸粘膜異常所見等がみられた。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1例：延岡保健所管内から報告があった。年齢は90歳代で、主な症状として尿路感染症、肺炎がみられた。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は50歳代で、主な症状としてショック、DIC、軟部組織炎がみられた。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症1例：日向保健所管内から報告があった。年齢は90歳代で、主な症状として肺炎等がみられた。
- 侵襲性肺炎球菌感染症1例：延岡保健所管内から報告があった。年齢は100歳代で、主な症状とし

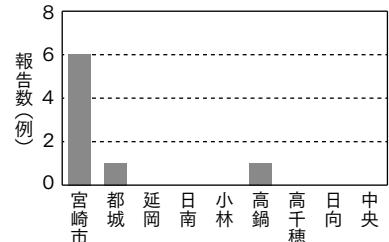
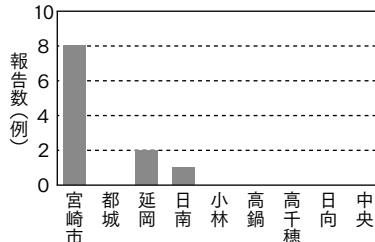


表1 結核 病型別報告数

肺結核	4
肺結核及びその他の結核 (結核性リンパ節炎, 粟粒結核)	2
その他の結核 (結核性ぶどう膜炎, 結核性胸膜炎, 粟粒結核)	3
無症状病原体保有者	2

表2 結核 年齢別報告数 (例)

年齢	報告数
20歳代	2
40歳代	1
50歳代	2
60歳代	1
70歳代	1
80歳代	1
90歳代	2
100歳代	1

表3 梅毒 病型別報告数 (例)

早期顕症梅毒Ⅰ期	1
早期顕症梅毒Ⅱ期	5
晚期顕症梅毒	1
無症状病原体保有者	1

表4 梅毒 年齢別報告数 (例)

年齢	報告数
20歳代	3
30歳代	2
40歳代	1
50歳代	1
60歳代	1

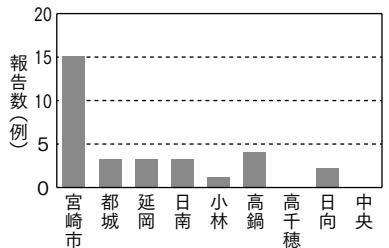


表5 百日咳 年齢別報告数 (例)

年齢	報告数
0～4歳	2
5～9歳	7
10歳代	12
30歳代	2
40歳代	3
50歳代	2
60歳代	1
70歳代	2

て発熱、咳、肺炎、菌血症がみられた。

- 梅毒8例（男性5例・女性3例）：保健所別報告数は【図2】、病型別報告数は【表3】、年齢別報告数は【表4】のとおりであった。主な症状として初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹、梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹、眼症状がみられた。
- 百日咳31例：保健所別報告数は【図3】、年齢別報告数は【表5】のとおりであった。主な症状として持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、スタッカート、ウーブ、嘔吐、肺炎等がみられた。ワクチン接種歴は有りが14例、不明が15例、無しが2例であった。

■ 5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数（急性呼吸器感染症は除く）は2,205人（定点あたり126.8）で、前月の89%、例年（新型コロナウイルス感染症・急性呼吸器感染症は除く）の103%であった。急性呼吸器感染症の患者報告総数は6,545人（定点あたり233.8）で、前月の約116%であった。

前月に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎及び伝染性紅斑で、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症であった。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はインフルエンザ、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び伝染性紅斑であった。

インフルエンザの報告数は344人（12.3）で前月の約8.2倍、例年の約7.3倍であった。延岡（41.0）、日向（14.5）、都城（12.3）保健所からの報告が多く、15歳未満が全体の約8割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は302人（20.1）で前月の約1.6倍、例年の約8.5倍であった。小林（39.0）、高鍋（30.0）、日向（24.0）保健所からの報告が多く、3歳から7歳が全体の約7割を占めた。

■ 病原体検出情報（微生物部）

★急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection : ARI）

検出病原体		検出数
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09 0
		AH3 6
	B型	ピクトリア系統 0
		山形系統 0
新型コロナウイルス		11
RSウイルス	A型	0
	B型	1
パラインフルエンザウイルス	1型	2
	2型	6
	3型	0
	4型	0
ヒトメタニューモウイルス		0
ライノウイルス		8
エンテロウイルス		0
アデノウイルス		0
検出せず ^{※2}		34
受付検体数		68

	前月との比較				
	2025年10月 報告数 (人)	2025年9月 定点当 たり(人)	2025年9月 報告数 (人)	2025年9月 定点当 たり(人)	例年との 比較
インフルエンザ	344	12.3	42	1.5	★
新型コロナ ^{※1}	553	19.8	1,628	58.1	
RSウイルス感染症	185	12.3	141	9.4	★
咽頭結膜熱	29	1.9	41	2.7	
溶レン菌咽頭炎 ^{※2}	152	10.1	149	9.9	★
感染性胃腸炎	498	33.2	417	27.8	
水痘	20	1.3	16	1.1	
手足口病	2	0.1	1	0.1	
伝染性紅斑	302	20.1	193	12.9	★
突発性発しん	26	1.7	36	2.4	
ヘルパンギーナ	13	0.9	35	2.3	
流行性耳下腺炎	3	0.2	2	0.1	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	66	11.0	75	12.5	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	1	0.1	1	0.1	
マイコプラズマ肺炎	11	1.6	13	1.9	
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
感染性胃腸炎（コロナウイルス）	0	0.0	0	0.0	
急性呼吸器感染症	6,545	233.8	5,654	201.9	

★例年同時期【新型コロナウイルス感染症流行前5年間（2015-2019）の平均】より報告数が多い

※1 新型コロナウイルス感染症

※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

○急性呼吸器感染症（ARI）^{※1}サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※1 急性呼吸器感染症（ARI）：咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※2 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

	検出病原体		件
	細菌	ウイルス	
細 菌	EHEC (O157:HNM VT1,2)		1
	Salmonella Thompson (O7:k:1,5)		2
	EHEC (O103:H2 VT1)		1
	Salmonella Bareilly (O7:y:1,5)		1
	Salmonella Agona (O4:f,g,s:-)		1
	Salmonella Haifa (O4:z10:1,2)		1
ウ イ ル ス	Coxsackievirus A4		1
	Adeno virus 2		1
	Adeno virus 41		1
	Respiratory syncytial virus (RSV) A		1

■月報告対象疾患の発生動向〈2025年10月〉

□性感染症

【宮崎県】定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は32人（2.5）で、前月比94%と減少した。また、昨年10月（3.9）の約0.6倍であった。

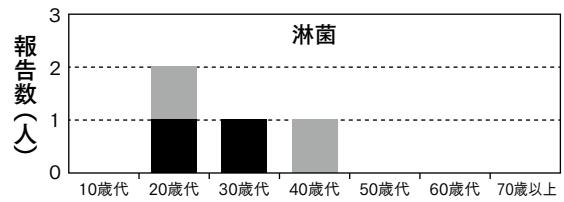
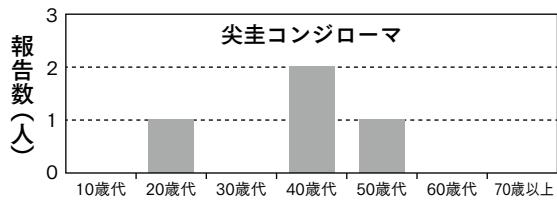
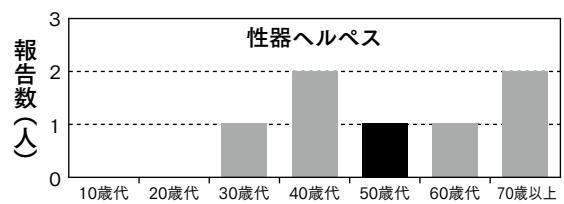
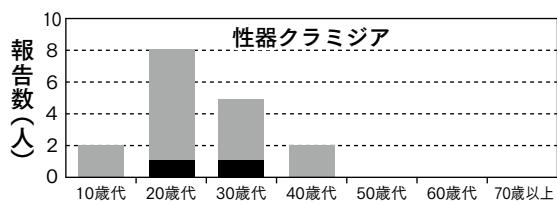
《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数17人（1.3）で、前月の約0.9倍、昨年10月の約0.6倍であった。20歳代が全体の約半数を占めた。（男性2人・女性15人）

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数7人（0.54）で、前月の約0.6倍、昨年10月の約0.8倍であった。（男性1人・女性6人）

○尖圭コンジローマ：報告数4人（0.31）で、前月の約2.0倍、昨年10月の約0.7倍であった。（女性4人）

○淋菌感染症：報告数4人（0.31）で、前月の約4.0倍、昨年10月の約0.4倍であった。（男性2人・女性2人）



■ 男 ■ 女

□薬剤耐性菌

【宮崎県】定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は26人（3.7）で、前月比124%と増加した。また、昨年10月（2.1）の約1.7倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数26人（3.7）で、前月の約1.2倍、昨年10月の約1.7倍であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

（宮崎県衛生環境研究所）

日赤だより

【日本赤十字社宮崎県支部】

寄付を通じて思いを託す

災害救護や平時の救急法講習など、日本赤十字社の活動は皆様の善意によって支えられています。各地への義援金・救援金の他、日本赤十字社の活動資金への寄付を通じて、皆様の思いを日本赤十字社に託してみませんか。

ご寄付については
こちらから ⇒



赤十字は、動いてる！

赤十字は、最前線に立つ人、それを背後で支える人、そして何よりも、活動を寄付で支援してくださる人、関わるすべてのみなさん一人ひとりと動き続けています。人間のいのちと健康、尊厳が守られる世界を信じて。これまでも。これからも、ずっと。



一緒になら、救える。 **TEAM SAVE365**



日本赤十字社宮崎県支部 総務課
TEL : 0985-22-4045 メール : miyazaki-info@miyazaki.jrc.or.jp

各都市医師会だより

都 城 市 北 諸 県 郡 医 師 会

2024年の日本の出生数は約68.6万人で統計開始以降初めて70万人を下回りました。2016年に初めて100万人を割り込んだというニュースから10年も経たないうちに30万人ほど減少しております。若者が減るということは、新規の医療従事者の誕生の減少にも直結し、全国の医師会系看護学校でも入学者の減少が目立っております。国は以前より経済連携協定（EPA）に基づきアジア3国との間で協定を結び看護・介護分野での受け入れを行ってきました。これは労働力不足を解消するための取組みではありませんが、看護や介護の有資格者に訪日前に日本語研修を行い、入国後は病院や介護施設で就労、研修を行い数年かけて日本の国家試験を受験し取得を目指す取組みです。この際に求められる日本語能力に関しては日本語能力試験N3～N5レベル（インドネシアN4程度以上、フィリピンN5程度以上、ベトナムN3以上）とばらつきがあります。N3は5段階の真ん中のレベルで日常的な場面で使われる日本語をある程度理解できるレベルです。一方で、EPA以外の国では自国で看護師資格を保持している外国人が日本で看護師国家試験を受験する際には日本語能力として日本語能力試験N1の認定が求められます。N1の試験に合格するのは非常に難しく、かなりハードルが高いものと予想されます。こういったばらつきが解消されることも必要なかもしれません。地域医療を支える働き手の確保、養成に向けて、いろいろな視点をもって取り組んでいきたいと思います。

（河野 仁彦）

宮 崎 市 郡 医 師 会

生涯教育委員会では、しののめ医学会特別講演会を開催し、最新の医療情報の提供と地域で連携した医療展開の一助となる活動を行っています。年3回の講演会のうち2回を、宮崎大学医学部に新たに赴任された教授をお招きし、専門分野の最新情報のご講演をいただいています。そして、1回をCOVID-19のパンデミックを契機に、行政、検疫、保健所などの関係機関との連携強化を目的とした講演と外来感染対策向上加算と老健施設での感染対策加算の要件となっている合同訓練を行っています。このたび、新型インフルエンザやコロナ以外の新たな呼吸器感染症の流行を想定した国と県の行動計画が全面改訂され、宮崎市でも改訂作業を行っています。新たな行動計画では、水際対策、蔓延防止や医療など13項目に及ぶ取組みを、平時の準備期、初動期、対応期に分けて示されています。この行動計画を実行性のあるものにする

ためにも、常日頃から関係機関の相互理解と関係性の構築が重要になります。皆様の積極的な参加をお願いします。

（眞柴 晃一）

延 岡 市 医 師 会

先日延岡看護専門学校第3期生入学試験が行われました。延岡市医師会立看護学校は今年度で医療専門課程は終了となり、令和8年度から3年制の看護学科へと完全移行いたします。全国的にも学生不足で定員割れしている医師会立看護学校も多く、閉校するところも出てきています。学生の質の低下、教員不足など問題も山積みですが、地域の看護師確保のために非常に重要な役割を果たしている施設ですのでしっかりと継続していかなければといけないと考えております。

（竹原 俊幸）

日向市東臼杵郡医師会

先日、NHK「鶴瓶の家族に乾杯」で日向市が紹介されました。番組では俳優の山本耕史さんが市内のジムを訪れ、トレーニングに励む姿が放送されました。近年、市内にはジムが増え、市民の健康意識も高まっています。一方で、肥満傾向者の増加、飲酒率・血压の高さ、野菜摂取量・歩数の少なさなど課題も多くあります。子どもの虫歯や朝食欠食率も高く、改善が必要です。私自身もベジファースト・カーボラストなどを意識し、健康づくりに努めています。一人ひとりの小さな行動が、健康で活力ある日向市の実現につながると感じます。

(古賀 正広)

児 湯 医 師 会

ドジャース大谷選手の人気は、抜群の成績だけではなく彼の持つ道徳観、倫理観、規範？その偉業を決して鼻にかけない行動や言動が評価されたのであろう。野茂さん、イチローさんのような昭和時代までの一流れ男とは“黙して語らず”であったが、アメリカでは“日本男児の理想像”は一種キワモノの扱いではなかったか。そこで大谷さんは、人種差別がいまだに当たり前の世界で、敵を味方に変える術を“和の心”でもって得たというのは邪推がすぎるだろうか。どなたかご指摘いただければ幸甚でございます。

(山口政一朗)

西 都 市 西 児 湯 医 師 会

在宅患者と、彼らを取り巻く医療介護・多職種のコミュニケーションツールであるメディカルケアステーション（MCS）の普及が、西都市西児湯地域包括ケア推進センター主導によって進められています。すでに活用されている機関もあり、多職種の共通のプラットフォームとして、ネットワークの構築が期待されます。12月13日には、当医師会の松本会長を講師として「骨粗鬆症について改めて考えてみよう」と題し、市民公開講座が開催されます。各所で行政と連携し、市民に住みよい地域づくりを目指します。

(片山 陽平)

南 那 珂 医 師 会

日南市では在宅ケア研究会を月1回開催しています。その中で、「認知症カフェ」の紹介がありました。認知症の人、家族、住民、医療や介護職の人などが気軽に集まり、つながり情報交換ができる場所で、日南市では8か所の認知症カフェが運営されています。食事やレクリエーションを楽しみながら、さまざまな体験や相談ができます。医療・介護の人材不足の地域だからこそ、住民同士が知恵を出し協力し地域の健康力アップ、そして、誰もが住みやすい地域になるとよいと思いました。

(飛松 正樹)

西 諸 医 師 会

霧島連山の一つである新燃岳は、古くから幾度となく噴火を繰り返してきた火山ですが、今年6月に約7年ぶりに噴火を開始しました。7月と8月には高さ5千メートルを超える噴煙も確認され、大量の降灰によって道路や車が真っ白になるほどでした。また、県は「二酸化硫黄注意報」を発令し、不要不急の外出や屋外での激しい運動を控えるよう呼びかける日もありました。活動がますます活発になるのではと心配していましたが、現在は落ち着きを取り戻しているように見えます。山の姿も穏やかで、このまま静かな状態が続いていると願うばかりです。

(園田 定彦)

西 臼 杵 郡 医 師 会

西臼杵医療センターが設置され、日之影町国民健康保険病院は3年前に病床機能を療養型へ転換し病床稼働率は倍増しています。しかし地域の過疎化が進み長期療養が必要な方々も減少しつつあるようです。これまで西臼杵郡内の入院患者様方を受け入れるだけで精一杯でしたが、最近では多少の余力が生じつつあり郡外の患者様も比較的短い待機期間で受け入れ可能な状態となっています。もし当院へ（転）入院希望の患者様がおられましたらぜひご紹介くださいとお願い申し上げます。

(上田 修三)

宮崎大学医学部だより

病態解析医学講座 - 救急・災害医学分野 -



おちあい ひでのぶ
落合 秀信 教授

宮崎大学医学部附属病院救命救急センターは、「いつでもどこでも地域に根差し高度な救急医療の提供」、「地域と連携し地域で最強の救急医を育成」、そして「世界を視野にいれた情報発信」をスローガンに掲げ、開所から14年目を迎えました。

この間徐々にスタッフや体制も充実し、厚生労働省全国救命救急センター充実段階評価では、新評価基準となって以降6年連続で「S」評価をいただくことができました。また、県内の救急科専門医数も、当センター開所当初は19名だったのが、今年は48名となりました。さらに7月1日には高度救命救急センターにも指定していただきました。これもひとえに連携・ご支援いただいている皆様方のおかげと深く感謝しております。現在スタッフは、大学勤務が20名、寄付講座2名、関連施設出向17名で、各診療科・各部署のご協力のもと、ER診療、病院前救急診療、重症外傷・内因性疾患などの集中治療、災害医療など幅広く展開しております。

診療面では、県全域を俯瞰して県北、県央、そして県西の救急医療における拠点施設の充実を図りつつ、当センターがハブとしてバックアップする体制を構築しています。その結果、当センター入院患者の重症率は常時70%を越えております。一方、「病院まで持たない命を救う」をコンセプトに開始したドクターへりも、これまで6,469件の要請をいただいています。ドクターへり運航開始当初は、現場出動した患者の約8割は大学へ搬送（Uターン）していました。しかし、救急医の育成と地域への派遣による連携を進めることで、地域でのドクターへり現場出動症例の受け入れ（Jターン）

も徐々に進み、現在は現場出動症例の約7割は地域の医療施設で受け入れていただいております。ドクターへりを活用した地域救急医療の活性化に少しでも貢献できたのではと思っています。一方ドクターカーもドクターへりの補完として県全域を対象に運用しています。さらに山中など陸路到達が困難な地域の救急事案にも、県との協定のもと防災ヘリコプターによる医師の現場投入を行い、全国でもトップレベルの病院前救急診療を展開しています。

教育面では、「地域で最強の救急総合医を育成」を合言葉に「For MIYAZAKI救急科専門研修プログラム」を立ち上げ、専門研修1年目の医師を診療チームのリーダーとする独自の教育方法を行ってきました。現在10名がこのプログラムにのって救急科専門医を目指しています。専門研修修了者にアンケートを行ったところ、「つらい面もあったが、指導医の掌の中で多くの症例を経験でき早く実力をつけることができた」という肯定的な意見を数多くいただきました。今後も専攻医からの意見を尊重しつつ、専攻医が“生き生きと輝いて後輩の憧れの的”となるような教育システムにできるようプラッシュアップしていく所存であります。今年度は新たに5名の医師がチームに加わってくれました。今後の成長がとても楽しみです。

今後は、昨今の救急医療の課題の1つである高齢者救急にも貢献していきたいと思っています。すでに救急患者連携搬送料加算の施設基準は取得しましたので、今後は地域との連携をさらに強化しこの課題に取り組んでいきたいと思っています。先日隣接医療圏を含めた救急告示医療機関に後方連携についてのアンケートを行ったところ、50を超える施設より協力していただけるという、とても心強い回答をいただきました。本取組みの充実に向けて調整を進めていきたいと思っています。

最後に、まだまだ若い救命救急センターではありますが、皆様方のおかげで少しずつ前進することができました。今後も教室員一同、微力ではありますが求められるニーズに柔軟に対応しつつ本県の救急に最大限に貢献できるよう精進していく所存ですので、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

専 門 分 科 医 会 だ よ り

(東洋医会)



かわごえ ひろふみ
川越 宏文 会長

東洋医会の川越でございます。故 井上博水会長の急逝をうけ、当時副会長であった私が会長の席を汚させていただいています。そろそろ次の方にバトンタッチしたいと思っています。

しかし、当会は他の診療科単位の専門部会と異なり、新規入会の方も少なく、主体的な広報活動なども難しい状況です。さらに会の運営にご協力いただいた有力な会員の先生が急逝されたり、閉院等々の都合で退会されるという状況で困惑しています。ぜひ、県医師会の先生方や役員の先生のご理解、ご協力を賜りますようお願いします。

専門部会そのものの存在自体が危ぶまれている状況に反して、世界的には漢方や伝統医学に強い追い風が吹いています。それはICD11に東アジアの伝統医学という章が新たに加わり、漢方を含む東アジアの伝統医学も西洋医学的とともに現代医学の1つの柱となったことです。世界的なニーズに応えるため、宮崎を含んだ九州全体の漢方医療に当たる医師の臨床レベル向上は急務です。

今後の卒後教育について、まずは漢方薬や鍼灸などを含めた伝統医学の基礎を学んでいただけの講演会の企画を行っています。まず宮

崎大学については、産婦人科教室の桂木主任教授、山口特任教授、救急医療部の落合教授、医学教育担当の安倍先生、医療安全部教授で漢方専門医でもある綾部教授のお力添えをいただきさらに充実していくことが期待されています。また、私もかつて開催されていた漢方基礎講座をオンラインで再開しました。さらに年度末には、毎年好評の延岡出身で東京慈恵会医科大学教授の上園保仁教授による「漢方がなぜ効くのか、その基礎的メカニズム等」についての為になる講義がございます。これはアンチ漢方の先生にもぜひご覧いただきたい内容で、現代医学で国際的な期待感が増している漢方の実情を肌で感じ取っていただけるものと確信しています。

なお、当会では以下のような先生の入会を大歓迎です

- 1 漢方にご興味があるがどこから始めていいかわからないという先生
- 2 保険請求などでお困りの先生
- 3 かかりつけ医時代に対応するため、ご自身の守備範囲を広げたい先生

令和7年度女性医師支援・ ドクターバンク連携九州ブロック会議

と き 令和7年9月13日(土)

と こ ろ ホテルコレクティブ(那覇市)

開会にあたり田名会長(沖縄県医), 角田副会長(日医), 松岡常任理事(日医)より挨拶があり, 次第に沿って報告・協議が行われた。

報告・協議

1 日本医師会女性医師支援センターからの取組報告

日本医師会 常任理事 松岡かおり

女性医師バンクは, 平成19年に開設された無料職業紹介事業であり, 男女問わずすべての医師が利用可能である。日本全国, 専任コーディネーターによるマッチングを行っており, 昨年度から都道府県医師会ドクターバンク(愛知・岐阜・沖縄), ハローワークとの連携を開始した。有効求人数は, 昨年度月平均約2,000件から令和7年度は約2,300件へ増加している。有効求職者数は, 昨年度月平均517名から640名へ増加, 就業成立数も月平均18件から25件へと増加傾向にある。

再就業講習会事業は, 都道府県医師会や医学会・医会, 郡市区医師会を対象に, 講習会や座談会を行った際の費用の一部補助を行っている。医学生, 研修医などをサポートするための会や女性医師などの勤務環境の整備に関する病院長, 病院開設者・管理者などへの講習会は上限20万円を助成しているため, 開催をご検討いただきたい。医師会主催の研修会などへの託児サービス併設費用補助事業は, コロナ禍で申請件数が減少していたが, 研修会の現地開催も増加していることから, 積極的にご活用いただきたい。

調査事業は, 今年度は全国の病院および有床診療所の施設長・病院等管理者を対象としている。医師不足・偏在の解決に向けた示唆を得るために, 病院および有床診療所における女性医師・シニア医師の雇用実態や労務管理面での工夫, 今後の課題を明らかにする目的で実施しており, 調査への協力をお願いしたい。



広報活動などについては, 令和3年度より「医師の多様な働き方を支えるハンドブック」を作成し, 医学生, 研修医などの若手医師はじめ多くの医師に活用いただいている。日本呼吸器学会や日本皮膚科学会といった学会などにもブース出展し, 広報活動を行っている。

令和7年4月から, 厚生労働省より受託し, 医師偏在是正に向けた広域マッチング事業を開始する。本事業は女性医師バンクと一体化して運営し, 令和7年11月1日より「日医ドクターバンク」に名称を変更する。地域ドクターバンク(都道府県単位で設置されたドクターバンク)とのネットワーク化を目指し, 業務提携することで, 求人・求職情報, 地域の医師偏在情報の共有を図りたいと考えている。女性医師支援センターも「日医ドクターサポートセンター」へ名称を変更し, 女性医師支援事業と全国医師マッチング事業を行っていく。名称変更することでインパクトを与えるとともに, 民間の大手広告代理店と提携し, ブランディングを

強化していく予定である。8月28日には都道府県の行政および医師会を対象に事業説明会を行った。本事業に関するアンケート調査や個別打合せを経て、業務提携の流れとなる。引き続き、業務提携を含めた協力をお願いしたい。

2 各県医師会からの取組報告、情報交換及び問題提起

※1), 2) は一括協議

1) ドクターバンク事業について

各県から令和6年度の斡旋成立数、課題解決への取組みや今後の計画について報告された。

認知度が低く積極的なアプローチができていないため斡旋成立数が伸びないという県が多くあった。斡旋成立数が多い鹿児島県では、県医師協同組合のドクターバンクのホームページをリニューアル、月1回発行される会報に最新の求人・求職情報を掲載することなど、会員が常に最新の情報を確認できるよう広報活動に力を入れていることが紹介された。

2) 女性医師支援について

各県から女性医師支援の取組みについて報告がされた。多くの県では、日医の再就業講習会事業の助成を活用し、セミナーや意見交換会を実施しており、大分県からは、管理者向けに「男性育休取得促進」をテーマに研修を行い、男性医師の育休取得の意識づけができたと報告があった。熊本県からはテーマ設定の難しさや参加者数の確保が課題として挙げられた。

松岡日医常任理事

ドクターバンク事業は各県によって進捗状況に差があるが、鹿児島県ではコーディネーターが不在の中で多くの成立件数があり、その取組みは印象的であった。日医の広域マッチング事業においてコーディネーターの配置は非常に重要であると考えている。今後は、コーディネーター業務の在り方も少しずつ進歩させ、将来的には、各県での取組みや課題などを共有するコーディネーター会議のような連絡会の開催を検討したい。引き続き各県からの意見を伺いながら事業を進めていきたい。

3) 女性医師の組織内での昇進やキャリアラダーの現状と課題について

各県において、基幹型臨床研修病院の病院長および勤務医を対象に2種類のアンケート調査を実施し、その結果や調査を通じて見えてきた課題などについて各県ごとに発表が行われた。どの県においても調査結果は同様の傾向であった。

病院長向けアンケートでは、管理職である女性医師の割合は低い状況にあるが、意志決定の多様性が高まり、組織の健全性が向上するなど、女性医師の管理職登用は重要であるとの認識が多くみられた。しかし、管理職候補となる女性医師が少ないことがどの県においても課題として挙げられた。日医や国に対する要望として、診療報酬や病院経営に関する要望が多く寄せられ、病院の存続が担保されて初めて女性管理職増加などの重要課題に集中して取り組めるとの意見もあった。

勤務医向けアンケートでは、ライフィベント（結婚・出産・育児・介護・病気など）がキャリア形成に影響したと回答した医師は、男性より女性の割合が高く、引き続き女性医師への支援は必要であるとの意見があった。管理職を希望する医師の割合は男女ともに低く、その理由として、業務量・責任が過大であること、待遇や報酬が見合わない、ワークライフバランスの両立が困難といった点から管理職に対するネガティブな印象が多く、意識改革が必要であるとした。

角田日医副会長

調査結果の中で、女性医師の働く環境が過去に比べてある程度改善したという意見があり、一定の進歩を感じられた。勤務環境の整備にはリーダーシップを持った管理職の理解が非常に重要である。

日医や国に対する要望にもあったが、病院や診療所の経営は厳しい状況にあり、医療提供体制の存続が危ぶまれている。こうした状況をふまえ、来年度の診療報酬改定に向け国と交渉を行っている。社会保障審議会や中医協でも強く訴えていきたい。

また、若手医師は、診療報酬や医療制度などを知る機会が少ないと現状であるため、都道府県医師会と協力して、医療界が危機的状況にあるということを正しく理解してもらうことが必要である。

3 次期担当県の選出

次年度は大分県が担当県となり開催することが承認され、三島常任理事（大分県医）より挨拶があった。

出席者－河野会長、金丸副会長、上山理事、福田主事

九州医師会連合会令和7年度第1回勤務医連絡協議会

と き 令和7年9月27日(土)

と こ ろ グランドハイアット福岡

戸次常任理事（福岡県医）の司会で開会し、蓮澤会長（福岡県医）の挨拶の後、座長に一宮副会長（福岡県医・日医勤務医委員会委員長）が選出された。

はじめに座長より趣旨説明があり、事前の調査結果をまとめた「九州各県医師会における組織強化（勤務医支援）の取組み実施状況」をもとに各県からの追加発言や意見交換がなされた。最後に藤原常任理事（日医）より総括があり、終了した。

蓮澤福岡県医会長

医師会は、成り立ちや地域医療・地域保健を担う観点から、当初は開業医の団体としての側面が強く、今もなおそう感じている方も多いようである。しかし、勤務医が組織全体の8割を占める今、勤務医視点のアクションが今後の医療界には不可欠であると考えている。

日医は、近年、重点項目として開業医勤務医の隔てなく、すべての医師が一丸となって作る組織を目指して組織改革を進めている。九医連の組織強化・勤務医支援に取り組み、医師会のあり方を刷新し、真に医師の団体として発展できるようにやってまいりたいと考えている。

本日の協議が、将来を担う医師たちが希望を持って安心して医療が提供できる環境を整えるために必要な、政策提言や実行につながるよう先生方の忌憚のないご意見をいただくようお願い申し上げる。



趣旨説明

日医勤務医委員会の会長諮問は、「勤務医の医師会活動への参画」の組織強化であって、これまでたくさんの提言をしてきたが、なかなか実現できていない。

この九医連勤務医協議会は、日医と都道府県、都市医師会の双方の情報共有と意思疎通により、これらのことが実現の一助となるよう設立されたものである。

藤原日医常任理事

医師会が目指す組織強化の真の目的は、今と将来の地域医療を担う志ある医師が集結し、互いに励まし合い、高め合いながら現場で直面している課題を乗り越え、さらには医師が誇りと希望を持ってつないできた地域を守る・地域医療を守る、ひいては国民の健康を守る仕組みを持続可能な形で次世代につなぐことと考えている。

今年は法に基づく2年に一度の医師届けの結果をふまえ、医師数を分母に医師会の組織率が算出される。直近の組織率は51%前後で、ギリギリ過半数を超えているところであるが、18万人に及ぶ医師が個人の資格で任意で参加する組

織というのは医師会以外にはないため、国が医療に関する仕組みを作り、また手を加えようとするときに、ほとんどの場合に医師会は意見を求められ、必要に応じて発言をしている。

国の仕組みは、一度決まった仕組みが容易に変わることはなく10年20年と続くことも稀ではないため、常に緊張感を持って慎重に発言をしている。

これから医療現場を担う若い医師にとって、自らが依って立つ仕組みを作るところに関わることができることこそが、医師会員になるメリットだと考えている。ぜひそのことを若い皆さんにお伝えいただけたらと思う。

(参考) 九州各県医師会における組織強化(勤務医支援)の取組み実施状況の内容

1. 組織
2. 具体的な支援
3. 会員優待
4. 大学等との連携
5. 日医との協力
6. 入会障壁の緩和・撤廃
7. 広報
8. その他

出席者－河野会長、金丸副会長、
大塚・玉置・落合常任理事、
田畠理事、竹崎局長、
松本・牧野・野尻課長

お知らせ

年末・年始の休館について

県医師会館(医師会、医師国保、医師協同組合、病院企業年金基金)は年末・年始休業のため、下記のとおり休館いたしますのでお知らせします。

期 間 令和7年12月27日(土)～令和8年1月4日(日)

緊急連絡先 総務課長 090-1512-9002
事務局長 090-9572-1385

九州医師会連合会令和7年度第1回連絡協議会

と き 令和7年9月27日(土)

と こ ろ グランドハイアット福岡

瀬戸専務理事（福岡県医）の進行により開会、一宮副会長（福岡県医）の挨拶後、座長に一宮副会長が選出された。

本協議会はこれまで各種協議会という名称で、地域医療、医療保険、介護保険の3つの対策協議会に分かれて協議していたが、今回は1つのテーマで九州各県が報告発表し、その後、全体協議を行い、江澤・濱口常任理事（日医）がコメントした。

1 テーマ

「持続できるのか？地域医療介護提供体制と医療機関等の経営」

2 趣 旨

人口減少・高齢化により地域医療介護の需要構造は変化しているが、住民の生命・健康を守る医療介護提供体制の維持は依然として最重要課題である。

一方、物価上昇や賃金高騰にともなう経営コスト増加が医療機関・介護施設の経営を圧迫し、地域医療の継続性に影響を及ぼす懸念がある。国においても、規制改革推進会議や地方創生2.0基本構想などのもと、地域医療や介護提供体制の見直しが進められており、医師の働き方改革として2024年度から施行された時間外労働の上限規制も、今後の医療提供体制に大きな影響を与える見込みである。



これらをふまえ、地域医療構想を基軸に、行政の総合計画など各種計画との整合性を図りつつ、地域の実情に即した医療介護提供体制の再編と医療機関などの経営持続性の確保を推進することが不可欠である。これには、診療報酬制度の適切な見直しをはじめ、経営環境の改善に資する包括的な政策的支援が必要である。

本協議会では九州各県の現状を共有し、今後の医療機関等経営、持続可能な地域医療介護の提供体制構築に向けた政策提言について協議する。

3 各県報告

各県から、①医業経営の現状と課題、②医業経営に関する医師会としての取組み、関わり方、③日医及び国への政策提言について報告が行われた。

ほとんどの県で医業経営に係る調査が実施されていた。物価高騰や人件費増加により医業費用が増加し利益が減少して厳しい経営状態にあることが明らかとなった。さらに、看護師などの医療人材不足や後継者不足などを理由に、今後、閉院や事業売却などを予定している医療機

関が少なくないことが示された。また、医療DXの急速な推進により経費や人的負担が増しているとの報告もあった。

医療提供体制の維持は国民の安心安全に直結することから、医療機関の現状について国民の理解を得るために広報活動の重要性を指摘する意見があった。あわせて経営悪化で医療機関の存続が危ぶまれる今こそ、組織強化を図る必要があるとの意見も多く挙がった。

医師会の取組みとしては、経営改善の自助努力を促すための医業経営セミナーの開催や、医療機関の厳しい現状を県や国へ伝える役割として県知事・県議会、自民党県連への要望活動などが行われていた。

なお、沖縄県では、医師会立看護学校の公立化、福岡県ではシルバー人材センター連合会との協定締結など、他県には見られない取組み事例も報告された。

国民の健康を守り地域医療提供体制を持続させるためには、物価高騰に対応した診療報酬の増額、医療機関に対する税制上の軽減措置、医療DX推進にともなう費用補助などの対策が必要であるとして、これらについて日医を通じた国への政策提言が行われた。

江澤日医常任理事

現在、銀行経営が厳しいため、医療機関が2年連続赤字になると融資が滞り、長期借用金の返済が困難になる。さらに赤字が増えて運転資金が確保できなくなると倒産に至るという大変厳しい状況である。医療機関の閉院は国民にとって大変不幸なことである。支援を要請していきたい。

今、病院の約7～8割が赤字の状態にある。日医が実施した令和7年診療所の緊急経営調査

結果（回答：11,103施設）では、診療所も経常利益部分で4割が赤字となっており、かつてない事態に陥っている。まずは、今年度の補正予算への要望を行い、来年度の診療報酬改定の財源確保に向け、理解を求めるながら医師会として総力を挙げて取り組んでいく。

日医の要望は、現在の診療報酬を減額せず上乗せすることだが、財務省は減額して上乗せする考え方であり、日々活発な協議を行っている。

インフレ下では、2年に1回の診療報酬改定を待っていられないため、期中にも改定を組み入れていくべきと考えている。財務省は1点10円を引き下げる地域を設けたい考えだが、日医としては、初・再診や入院基本料の増額を勝ち取るべく協議を重ねているところである。医師会一丸となって取り組んでいくのでご理解をお願いしたい。

濱口日医常任理事

医業承継に関する意識調査では、「承継する」が20数%、「将来的に閉院する」が54%に上った。診療所も含めすべての医療機関が厳しい経営状況である。これを打開するためには予算要望と税制上の要望が不可欠である。

組織強化について、現在（9月22日）の会員数は178,022名である。日医としては18万人を目標としているので、先生方の協力をお願いしたい。

出席者－河野会長、小牧・金丸副会長、

荒木・市来・吉田・池井・大塚・

吉見・玉置・落合常任理事、

田畠・山中理事、竹崎局長、

松本・牧野・野尻課長

全国医師会医療秘書学院連絡協議会 第75回定例総会・令和7年度第1回運営委員会

と き 令和7年10月18日(土)

と こ ろ 名古屋東急ホテル（名古屋市）

令和7年度の全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会は、愛知県医師会の担当で開催された。

協議会会长挨拶

愛知県医師会長 棚木 充明

本協議会は昭和40年の設立以来、今年で60年を迎える。現在、働き方改革や人口減少の影響を受け、医療人材の確保と育成が重要な課題となっている。

中でも「教科書の改訂問題」と「医療秘書学院の存続」は喫緊の課題であり、現場に即した教材の見直しや、生徒数の減少による学院の存続について、早急な対応が求められている。

愛知県医師会においては、本事業制度の見直し案を作成済みであり、本日は各位のご意見をぜひ伺いたい。

来賓祝辞

日本医師会 常任理事 江澤 和彦

松本会長より挨拶を預かっているので代読させていただく。

日頃より医療秘書の養成へのご尽力に感謝する。団塊の世代が75歳以上となり、若年人口の減少により医療・介護・保育分野の人材確保が課題となっている。医療DXやAIによる業務効率化は進んでいるが、患者対応には「思いやりの心」が重要である。日本医師会が認定する医療秘書は質の高い教育を受け、即戦力として期待されている。今後も各県医師会と学校関係者が連携し、活躍の場を広げる必要がある。日本医師会も働きやすい職場環境の整備に努める。最後に、本会の開催に尽力された関係者に敬意を表し、皆様のご健勝とご発展を祈念する。



報 告

1 令和6年度会務報告について

令和6年度担当県である静岡県医師会より、会務状況の報告があった。

2 第1回常任委員会について

総会・運営委員会前に開催された第1回常任委員会について報告があった。

3 日本医師会医療秘書認定試験委員会について

第46回医療秘書認定試験を令和8年2月1日に実施する。試験科目は従来と同じで、3月2日に合格発表を行う予定。

4 令和7年度各学院の現況調査結果について

当該報告については、口頭報告が省略され、資料配布のみが行われた。

5 第29回医療保険請求事務実技試験について

試験日については、統一することは難しいと判断し、5日間の期間中に（令和7年10月27日～10月31日）適宜実施する。宮崎県は、宮崎学園短期大学を試験会場として10月31日に実施する。

協 議

1 令和6年度収支決算について

（会計監査報告）

2 令和7年度事業計画（案）について

3 令和7年度会費の賦課徴収について

- 4 令和7年度収支予算（案）について**
1～4については、原案どおり承認された。
- 5 次期当番県の決定について**
次期当番県は富山県に決定した。
- 6 日本医師会医療秘書の今後について**
学院を開設する医師会や医療秘書認定試験の受験者は減少傾向にあり、若年人口の減少や医療人材養成環境の変化が背景にある。また、教科書内容と現場で求められる実務との間にズレが生じていることも大きな課題となっている。こうした状況を受け、「教科書の改訂問題」および「医療秘書学院の将来」について活発な議論が行われた。

なお、宮崎県唯一の養成校である宮崎学園短期大学はカリキュラム再編にともない令和7年度をもって養成を終了する予定であり、これにともない宮崎県医師会も令和8年度以降、連絡協議会を退会することを伝達した。

総 括

日本医師会 常任理事 江澤 和彦

多くの意見をふまえ、関係者が医療秘書学院の存続に対して前向きな姿勢を示していることを確認した。また、医療職志望者の減少傾向に対する強い危機感が共有され、これに対して国による財政的支援の必要性が強く指摘された。今後も引き続き協議を重ね、日本医師会としても適切な対応を進めていく所存である。

次期当番県医師会長挨拶

富山県医師会長 村上美也子

来年の定例総会は、令和8年9月12日に開催予定。

閉 会

愛知県医師会長 棚木 充明

出席者－池井常任理事、松崎主事

お知らせ

令和7年度日本医師会認定医療秘書養成制度 卒業生採用のお願い

宮崎県医師会では、日本医師会認定医療秘書養成を宮崎学園短期大学に委託しております。

貴院におかれまして、医療事務職員採用のご予定がございましたら、何卒、宮崎学園短期大学よりご採用いただきますようご検討をお願いいたします。

なお、採用に関するお問い合わせなどにつきましては、直接担当者までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

令和8年3月末卒業予定者

【就職希望者】 6名（男0人、女6人）

【就職希望地】 宮崎市内4名、都城1名、
西都・高鍋1名

【連絡先】 〒889-1605

宮崎市清武町加納丙1415番地

TEL：0985-85-0146

現代ビジネス科 講師 山本 優子
キャリア教育センター センター長 河野 豪

第2回各都市医師会長協議会

と き 令和7年10月28日(火)

と こ ろ 県 医 師 会 館

1 開 会

市来常任理事の司会により開会し、報告・協議に入った。

2 報告および協議

1) 県医師会から

①10/21(火)都道府県医師会長会議について

河野会長から次のとおり報告があった。

今回のテーマは、有料職業紹介事業についてであり、活発な討議が行われた他、事前に寄せられた意見および質問に対して日医執行部から回答があった。今後、国に対し適切な対処を求めていき、医療界を挙げて現在の状況を打破していくため、会員への情報提供と、問題事例、好事例の情報共有に協力いただきたいとのことであった。

②高木兼寛公顕彰演劇宮崎公演への協賛について

河野会長から次のとおり報告があった。

宮崎市の主催で、令和8年4月に公演が開催される。特に若い世代に観ていただくため高校生以下は無料で招待したいので、ぜひ、協賛をお願いしたい。

③かかりつけ医機能報告に係る研修会等の開催について

金丸副会長から次のとおり報告があった。今年度から開始された「かかりつけ医機能報告制度」に関して、日医今村常任理事をお招きして研修会を12月8日に開催する。ぜひ多くの方に参加していただきたい。



2) 各都市医師会から

①人件費対応について（延岡市医師会）

延岡市の佐藤会長から「人件費負担と経営の両立という極めて難しい課題に直面している。各医師会でどのように工夫しているかをお聞きしたい」と意見があった。医師会立病院を運営している医師会から報告していただいた後、池井常任理事から、本会も日医に運動して行政に要望を行っている。医療勤務環境改善支援センターでも専門家がアドバイスできるので利用していただきたいとの回答があった。

②ドクターバンクの斡旋業務について

（日向市東臼杵郡医師会）

日向市東臼杵郡の今給黎会長から「女性医師の産休代用や、スポットの当直医の斡旋を希望する」と意見があった。赤須常任理事から、ドクターバンク求人票にそのような希望を書く欄があるので記載をお願いしたい。本県と日医のドクターバンクが業務提携を行い、広域でマッチングを進めていく取組みが始まっている、求職医師の増加が期待できる

との回答があった。

③医療・介護人材の雇用について

(南那珂医師会)

南那珂の中村会長から「近隣医療機関からの職員引き抜きが起こらないためのルールづくりが必要ではないか」との意見があった。赤須常任理事から、独禁法などの関係で明確なルールづくりはできないが、近隣医療機関に迷惑をかけないよう配慮する必要があるとの回答があった。

④防犯カメラ等の設置の推奨について

(南那珂医師会)

南那珂の中村会長から「プライバシーに配慮したうえでの防犯カメラなどの設置を県医師会が推奨してはどうか」との意見があった。市来常任理事から、現時点で推奨する予定はないが、医療機関が適切に対応できるよう医師協との情報共有を行い、信頼できる業者を選定するなどの検討を進めたい。なお、国が行っている「医療施設等経営強化緊急支援事業」の中で防犯カメラの設置補助が行われているとの回答があった。

⑤宮崎大学医学部附属病院の診療体制について

(宮崎大学医学部医師会)

宮崎大学医学部の賀本会長から、附属病院の現状と令和8年度からの診療体制について説明があり、質疑応答が行われた。

出席者

各都市医師会長等

高村（宮崎）・田口（都城）・

佐藤（延岡）・今給黎（日向）・

北村（児湯）・松本（西都）・

中村（南那珂）・賀本（宮大医）会長

井尻（西諸）・佐藤（西臼杵）副会長

県医師会

河野会長、小牧・金丸副会長

荒木・市来・吉田・池井・高木・嶋本・

赤須・大塚・吉見・玉置・落合常任理事

峰松・佐々木・上山・田畠・山中・

河原・松岡理事

事務局

竹崎局長、小川・久永次長

松本・牧野・野尻・湯浅課長

杉田医師協事務長、園山医師協次長

鳥井元医師協課長

宮崎県医師会親善ゴルフ大会

と き 令和7年11月3日(月)

と こ ろ ハイビスカスゴルフクラブ

毎年恒例の親善ゴルフ大会は、爽やかな秋晴れの下、ハイビスカスゴルフクラブにおいて開催され、17名の先生方が熱戦を繰り広げました。競技方法は、18ホールズストロークプレイ、ダブルペリア方式（同ネットの場合は年長者を上位）で、今大会も、来年5月に岐阜で開催される「第8回全国医師ゴルフ選手権大会（チャンピオン戦）」の出場を掛けた戦いとなりました。

団体戦は宮崎チームが優勝、個人戦は、年齢別にA・B・Cの3組に分けて行い、A：田口利文先生（都城）、B：福留真二先生（宮崎）、C：月野浩昌先生（宮崎）がそれぞれ優勝され、総合優勝は、福留真二先生となりました。また、「第8回全国医師ゴルフ選手権大会」には、江夏剛先生（都城）と大崎泰先生（延岡）が出場される予定です。

成績は以下のとおりです。

（敬称略）

団体戦	都市名	NET合計	各都市医師会NET 上位3名					
優勝	宮崎	217.0	福留 真二	70.4	岩本 秀安	72.8	月野 浩昌	73.8
準優勝	延岡・日向・西都	225.8	渡邊 裕之	73.0	大崎 泰	74.6	公文 崇詞	78.2

※団体戦は県医師会役員を除いて計算しております。

個人戦		氏名	OUT	IN	GROSS	HD	NET	備考
A	優勝	田口 利文	48	43	91	18.0	73.0	
	準優勝	大崎 泰	37	40	77	2.4	74.6	
	3位	賀本 敏行	43	45	88	13.2	74.8	
B	優勝	福留 真二	42	38	80	9.6	70.4	総合優勝
	準優勝	岩本 秀安	41	39	80	7.2	72.8	
	3位	渡邊 裕之	44	41	85	12.0	73.0	
C	優勝	月野 浩昌	44	43	87	13.2	73.8	
	準優勝	井上 知宏	51	49	100	22.8	77.2	
	3位	公文 崇詞	41	42	83	4.8	78.2	
BG賞		江夏 剛	76					
NP賞		岩本秀安（3）、江夏剛、公文崇詞、福留真二						

※NP賞は五十音順

団体戦優勝 宮崎チーム

写真は左から順に、

福留真二先生、岩本秀安先生、月野浩昌先生

今年は天候にも恵まれ、和やかな雰囲気の中で大会が開催されました。初参加でしたが、宮崎市郡医師会（福留真二先生、月野浩昌先生）の優勝に貢献できて嬉しく思います。ニアピン賞を3個、バーディーを4個取ることができ、スコアは80と微妙でしたが、自分としては大満足の1日でした。最後に、大会を運営してくださった事務局の皆様に心より感謝申し上げます。

宮崎市郡医師会 岩本 秀安

総合優勝 宮崎市郡医師会 福留 真二 先生

今年も気持ちのよい天候の下、同伴していただいた先生方のおかげで、とても楽しいゴルフができました。私より江夏先生、大崎先生の方がよいプレーをされたのですが、日頃の行いがよかったです（笑）、ハンドをたくさん頂いて総合優勝を頂くことができました。結果的には2回のダブルボギーが幸いしたのだと思われます。団体戦優勝とのダブルタイトルと豪華な景品を頂き、ありがとうございました。参加された先生方、運営の皆様、大変お世話になりました。いつもありがとうございます。江夏先生、大崎先生、全国大会トップ10を目指して頑張ってください！



日医インターネットニュースから

■現役世代の負担増「問題意識を共有」

— 高市首相 —

高市早苗首相は11月4日の衆院本会議で、首相の所信表明に対する日本維新の会の藤田文武共同代表の質問に答え、「社会保障関係費の急激な増加に対する危機感と、現役世代を中心とした過度な負担上昇に対する問題意識を共有し、社会保障改革に取り組んでいきたい」と述べた。

高市首相は社会保障改革について、自民党、公明党、維新が6月に結んだ合意書を踏まえて検討していくと説明。具体的には▽OTC類似薬を含む薬剤自己負担の見直し▽金融所得の反映など応能負担の徹底▽電子カルテの導入を通じた効率的で質の高い医療の実現――などについて迅速に検討し、「現役世代の保険料負担の抑制につなげていく」と述べた。

医療機関への支援に関する立憲民主党の野田佳彦代表の質問には「診療報酬改定の時期を待たず、経営の改善や職員の待遇改善につながる補助金を措置し、効果を前倒しする」と改めて表明。補正予算で対応する姿勢を示した。「国民の命を守り、安心して必要なサービスを受けていただくために、経営難が深刻化する医療機関への支援は急を要する」と強調した。

野田氏の質問を受け、高額療養費制度の見直しについても言及した。「患者の経済的な負担が過度なものとならないよう配慮をしながら、一方で増大する高額療養費を負担能力に応じて

どのように分かち合うかという観点から検討を丁寧に進めていく」と述べた。給付付き税額控除の制度設計を含めた税と社会保障の一体改革について議論する国民会議を設置することにも改めて触れた。

(令和7年11月7日)

■食事療養費、3年連続引き上げか

— 中医協、「質への配慮」も —

中医協総会は11月7日、入院時食事療養費について議論した。次期改定で基準額を引き上げると、「3年連続で患者の自己負担増になる」と支払い側は指摘。その場合「食事の質へ最大限の配慮をすることが必要」とくぎを刺した。診療側は、医療現場にとって基準額の引き上げは必須の状況にあると主張し、次期改定で対応すべきと強調した。

入院時食事療養費の基準額は、昨年6月に1食当たり30円引き上げられ670円に、今年4月に1食当たり20円引き上げられ690円になった。

4月以降の状況について厚生労働省は、総務省の食料支出・消費者物価指数（CPI）の動向から「足元の食料支出は引き続き伸びており、食材費等の高騰は続いている」と説明。そうした背景を踏まえ、この日の論点として「次期診療報酬改定での食費の基準額の見直しの考え方」や「嚥下調整食の評価の在り方に対する考え方」などを挙げた。

●引き上げ必須、嚥下調整食はより評価を

基準額について診療側の江澤和彦委員（日医常任理事）は「直近で2回引き上げられたが、米の高騰もあり、1食当たり690円は限界を超えていた。引き上げが必須だ」と主張。嚥下調整食の評価を、より充実する必要性も訴えた。

支払い側の松本真人委員（健保連理事）は「現場の努力は理解するが、3年連続の自己負担増になった場合、患者の理解が得られるよう、食事の質には最大限の配慮を求める」と述べた。嚥下調整食については、厚労省の資料からも、エネルギー摂取量の増加やADL改善が認められるとし、「評価を充実する余地がある」と一定の理解を示した。

（令和7年11月11日）

■医師偏在、「全世代で対応を」 — 日医・松本会長 —

日医の松本吉郎会長は11月8日の講演で、医師偏在について「若い世代の医師だけに負担がかからないよう、中堅・シニア世代を含めた全世代で対応していく形が必要だ」との考えを示した。盛岡市で開催した全国医師会勤務医部会連絡協議会で登壇した。

医師偏在対策における国これまでの動きを振り返り、「地域ごとに医師の数を割り当てる

といった、若い世代の医師を中心に法で縛り付けるような方法は望ましくない」と強調した。

日医が昨年に提案し、医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージにも盛り込まれた「全国的なマッチング機能の支援」については、今月1日付で「日医女性医師バンク」を「日医ドクターバンク」に名称変更し、事業を拡大したと説明した。

日医の提案には、医師臨床研修後いきなり自由診療の世界に進むようなことがないよう「保険診療の実績要件」を盛り込んだことにも言及した。「医師になって、2年の臨床研修プラス3年の最低5年間は、病院で保険診療に従事することを要件にすべき」と指摘。「技量を磨くこと、地域医療に貢献すること、専門的かつ幅広い知識を習得することを、病院でしっかりと実践していただきたい。この問題は何とかしたい」と意気込みを示した。

（令和7年11月14日）

日医インターネットニュースは、日本医師会のホームページからご覧になれます（毎週火・金更新）。

日本医師会（<http://www.med.or.jp/>）>メンバーズ>日医インターネットニュース
メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザーID：会員ID（日医刊行物送付番号）の10桁の数字（半角）

◆パスワード：生年月日の「西暦の下2桁、月2桁、日2桁」の6桁の数字（半角）

11月のベストセラー（宮崎県）

集計：2025年11月1日～11月23日

1 変な地図	雨 堀 早 高 吉 俵 柚 伊 ビル・エマニ	穴 田 見 市 田 修 万 麻 幸・パーキンス ニュエル・トッド	双 吾 和 早 苗 一 智 子 太郎 キンス トッド	葉 SB 新潮 W A 朝日 新潮 新潮 双葉 ダイヤモンド社 文春 新書	社 Creative 文庫 A C 文庫 新書 文庫 双葉 社
2 科学的に証明されたすごい習慣大百科					
3 ザ・ロイヤルファミリー					
4 日本を守る強く豊かに					
5 国宝（上・下）					
6 生きる言葉					
7 BUTTER					
8 さよならジャバウォック					
9 DIE WITH ZERO					
10 西洋の敗北と日本の選択					

あなたできますか？（解答）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
d	c, d	b	b	d	e	c	a	c	e

お知らせ

宮崎の偉人 高木兼寛公の功績を未来へ。 顕彰演劇「須く、一步進む」ご協賛のお願い

このたび、宮崎が誇る偉人・高木兼寛公の偉大な功績を、演劇という誰もが楽しめる形で広く後世に伝えるため、顕彰演劇「須く、一步進む」が上演されます。

本公演は、令和6年3月の東京公演でも成功を収めた作品の再演であり、東京慈恵会医科大学からのご推薦も頂くなど、学術的な裏付けもしっかりした内容で、高木兼寛公の功績を深く理解できる作品となっています。

本公演につきましては、本会も実行委員会構成団体として参画しております。趣旨にご賛同いただき、未来を担う子どもたちへ夢と感動を届けるこの舞台へ、温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

高木兼寛公顕彰演劇宮崎公演実行委員会 会長 河野 雅行



協賛・寄付にご協力いただけた場合は、公式ホームページおよびチラシをご覧ください。

【公式ホームページ】



<https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/life/activities/takaoka/405736.html>

【協賛・寄付募集チラシ】



https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/fs/8/6/4/0/1/8/_/864018.pdf

宮崎公演の概要

日 程	令和8年4月3日(金)夜公演、4月4日(土)昼・夕公演(計3回)
会 場	メディキット県民文化センター(県立芸術劇場) 演劇ホール
内 容	演目名:「須く、一步進む」 主 催:高木兼寛公顕彰演劇宮崎公演実行委員会 劇 団:Live Up Capsules(ライブ・アップ・カプセルズ)
入場料	一般:3,000円 / 高校生以下:無料
特 色	食事と脚気発生率を比較する疫学調査を実施した脚気論争をテーマに高木兼寛公の半生を描いた内容



令和7年10月7日(火) 第13回全理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 12/8(月) (県医) 新たな地域医療構想を見据えたかかりつけ医機能報告に係る研修会及び地域医療委員会・救急災害医療対策委員会の開催について
案のとおり開催することが承認された。
2. 令和7年度宮崎県公衆衛生功労者表彰の被表彰候補者の推薦について
多年にわたり公衆衛生活動に携わりその功績が顕著な方に対する表彰で、4名を推薦することが承認された。
3. 10/28(火) (県医) 各都市医師会長協議会の提案事項に対する対応について
延岡市医師会からの提案事項①は池井常任理事、日向市東臼杵郡医師会からの提案事項②と南那珂医師会からの提案事項③については赤須常任理事、南那珂医師会からの提案事項④については市来常任理事が回答することが承認された。
4. 11/28(金)・29(土) (福岡) 九州医師会連合会「第426回常任委員会」、「第130回臨時委員総会」並びに「九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会」の開催について
常任委員会の提案事項については、議題

があれば事務局を経由して会長に提出し、取扱いについては会長一任とすることが承認された。各会議の出席者については事務局で取りまとめて提出することが説明された。

5. 審査委員の任期途中退任に伴う後任審査委員の適任者の推薦依頼について

社保審査員の任期途中退任に伴う推薦依頼で、推薦母体の県外科医会に推薦を依頼することが承認された。

6. 12/6(土) (日医) 家族計画・母体保護法指導者講習会の開催について

「多様化する社会の中で母体保護法指定医師が考えるべきこと」をテーマに開催される講習会で、嶋本常任理事と上山理事が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 9月末日現在の会員数について
3. 10/2(木) (県防災庁舎) 県立病院事業評価委員会について
4. 10/2(木) (県医) 日医SNSの活用に関する勉強会について
5. 10/4(土) (県医) 日医臨時代議員会について
6. 10/6(月) (県歯科医師会館) 三師会 県立学校医等の報酬基準額に関する打合せ会について
7. 10/2(木) (九州厚生局宮崎事務所) 社会保険医療担当者の新規個別指導について
8. 10/3(金) (国富町・新富町) ロコモ予防運動推進事業「ロコモ予防養成講座」について
9. 8/20(水) (県防災庁舎) 広域災害救急医療情報システム(EMIS) 操作研修会について
10. 10/4(土) (県医) ICLS指導者養成ワークショップについて
11. 10/5(日) (県医) ALS研修会について
12. 10/3(金) (県医) 地域医療現場における働きやすい環境を考える会について
13. 10/6(月) (宮大医学部) 医局員に対する医師会活動説明会について

令和7年10月14日(火) 第6回常任理事協議会**医師会関係****(議決事項)****1. 業務委託について**

- ①令和7年度かかりつけ医等発達障害対応力向上研修事業の委託契約について
→診断を行う医療機関を確保し、発達障がいの早期診断・早期発見を図ることを目的に医療従事者に対して研修を行う事業で、契約を締結することが承認された。
- ②令和7年度HTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）母子感染対策事業に係る業務の委託契約について
→HTLV-1の母子感染を減らすこと目的に、HTLV-1キャリアの実態調査や研修会等を実施する事業で、契約を締結することが承認された。

2. 生活情報紙「きゅんと」への寄稿のお願いについて

主に女性及びファミリー層向けに月1回発刊される生活情報誌の健康コラム欄について、専門分科医会等へ執筆依頼を行い、協力することが承認された。

3. 県立学校医等の報酬基準額の増額に関する三師会要望書について

学校医、学校歯科医、学校薬剤師の将来的な確保のため、三師会で県へ要望することが承認された。

4. 令和8年度地域医療介護総合確保基金（医療分）事業提案及び意向調査結果について

病院の機能分化・連携を推進するための基盤整備に係る事業実施意向調査に希望のあった3件について、県に回答することが承認された。

(報告事項)**1. 10/14(火)（県防災庁舎）県障害者施策推進協議会について**

2. 10/8(水)（県医）日医医師偏在是正に向けた全国広域マッチング事業に関する打合せ会について
3. 10/8(水)（日医）日医医療秘書認定試験委員会について
4. 10/10(金)（県医）県と市町村との妊婦健診等に関する協議会について
5. 10/13(月)（日医）診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修について
6. 10/8(水)（日医）都道府県医師会組織強化担当役員連絡協議会について
7. 10/10(金)（県医）スポーツドクター連盟総会・健康スポーツ医学セミナーについて
8. 10/9(木)（県医）在宅医療研修会企画小委員会について
9. 10/9(木)（県防災庁舎）県保健医療福祉調整本部図上訓練事前説明会について

令和7年10月28日(火) 第14回全理事協議会**医師会関係****(議決事項)****1. 本会外の役員等の推薦について**

- ①(仮称) 高木兼寛公顕彰演劇実行委員会委員の推薦について
→宮崎の偉人である高木兼寛公の偉大な功績を広く市民・県民に伝え郷土愛の情勢を図ることを目的に開催される宮崎公演の実行委員会で、河野会長を推薦することが承認された。

②県感染症発生動向調査委員会委員の推薦について

→感染症対策の評価を行い、疾病予防及び感染症蔓延防止に資することを目的に本県に設置される委員会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、県小児科医会、県産婦人科医会、県眼科医会に推薦を依頼することが承認された。

2. 業務委託について

- ①令和7年度県主治医研修業務の業務委託について
→要介護認定等の重要な審査資料である主治医意見書の適切な記載方法等の研修を行う事業で、契約を締結することが承認された。

3. 九州臨床心理学会第53回宮崎大会開催趣意書ならびに広告掲載のお願いについて

令和8年3月に開催される九州臨床心理学会宮崎大会からの広告協賛依頼で、見送ることになった。

4. 11/11(火) (県医) 県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会について

当日の進行方法や役割分担が確認された。また、県への要望書（案）を各担当役員で再確認し修正等ある場合は事務局を通して会長に申し出ることになった。

5. R8.2/1(日) (県防災庁舎) 令和7年度HIV・エイズ対策講習会について

地域の医療機関の医師、医療従事者等を対象に開催される講習会で、エイズ治療中核拠点病院である県立宮崎病院及び宮崎県と共に催をすること、医療機関への案内等に協力することが承認された。

6. 11/20(木) (県医) 「国民医療を守るために総決起大会」への参加依頼等について

「国民医療を守るために国民運動」が、日本医師会館をメイン会場として開催されるのに伴い、本県医師会館をサテライト会場とすることと、県地域医療・福祉推進協議会の42団体に出席を依頼することが承認された。

7. 11/28(金) 都道府県医師会自賠責保険担当理事連絡協議会の開催について

自賠責保険診療費算定基準の制度化に向けて、昨年度に実施した実態調査結果の報告および今後の取組方針等を共有するため開催される協議会で、新基準についての

再認識と、制度化に向けたこれからの取組み、そして実態調査への協力依頼などを共有することを目的に開催される連絡協議会で、赤須常任理事と河原理事がWeb出席することが承認された。

8. 11・12月の行事予定について

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 10/15(水) (支払基金) 支払基金審査運営協議会について
3. 10/21(火) (日医) 都道府県医師会長会議について
4. 10/25(土) (宮観ホテル) 宮崎江南病院創立70周年記念式典について
5. 10/26(日) 全国有床診療所協議会理事会・常任執行委員会について
6. 10/27(月) (県庁) 県立学校医等の報酬基準額に関する三師会要望について
7. 10/27(月) (宮崎市教育情報研修センター) 高木兼寛公顕彰演劇宮崎公演実行委員会について
8. 10/15(水)・20(月) (県医) 広報委員会について
9. 10/16(木) (日医) 日医広報委員会について
10. 10/16(木) (県医) 県訪問看護ステーション連絡協議会役員と各支部との意見交換会について
11. 10/18(土) (愛知) 全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会等について
12. 10/26(日) (県医) 人体シミュレータを用いた小児在宅医療実技講習会について
13. 10/26(日) (日医) 日医社会保険指導者講習会について
14. 10/28(火) (九州厚生局宮崎事務所) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について
15. 10/21(火) (県医) 組織強化・将来構想委員会小委員会について
16. 10/23(木) (国保連合会) 県国保等はり、きゅう及びあん摩マッサージ療養費審査委員会について

17. 10/25(土)・26(日) (北海道) 日医未来医師会ビジョン委員会について
18. 10/26(日)イーレジフェアオンラインについて
19. 10/27(月) (宮大医学部) 宮大医学部附属病院専門研修プログラム連絡協議会について
20. 10/23(木) (第一宮銀ビル) 県後期高齢者医療広域連合療養費適正化研究会について
21. 10/16(木) (県医) 県糖尿病発症予防・糖尿病性腎症重症化予防研修会について
22. 10/21(火) (県医) 県プライマリ・ケア研究会学術広報委員会について
23. 10/18(土) (県防災庁舎) 保健医療福祉調整本部図上訓練について
24. 10/24(金) 日医救急災害医療対策委員会地域包括ケアシステムにおける救急医療ワーキンググループについて
25. 10/22(水) 宮崎大学・県獣医師会・県医師会によるSFTS連携協定の事前打合せについて
26. 10/12(日) (ニューウェルシティ宮崎) 宮崎から医師をめざそう!応援フォーラムについて
27. 10/23(木) (県医) 医療現場のワークライフバランスセミナーについて
28. 10/16(木) (県防災庁舎) 社会保険医療担当者の個別指導について
29. 10/23(木) (県医) 産業保健活動推進全国会議について
30. 10/20(月) (宮大医学部) 医局員に対する医師会活動説明会について

日本医師会 スマホ・パソコンで簡単手続き

医師年金

加入資格は日本医師会会員で64歳6ヶ月未満の方です
(申込みは、満64歳3ヶ月までにお願いします。) 

医師年金HP画面

アニメーションで仕組みを確認



シミュレーションで受給額や保険料を試算



一括払専用加入申込書プリントアウトで
申込み(保険料のお支払いは後日ご案内します)



20220401S23

お問い合わせ先

日本医師会 年金福祉課 ☎ 03-3942-6487(直通)(平日9時半~17時)



県医の動き

(11月)

2	糖尿病予防フェスタ (東京) 全医協連通常総会 (河野理事長他)	18	宮崎大学医学部医師キャリアセミナー (大塚常任理事) 宮大経営協議会 (会長) 医局員に対する医師会活動説明会 (消化器内科学) (大塚常任理事)
3	県医親善ゴルフ大会 (小牧副会長)	19	(日医) 日医地域医療対策委員会 (金丸副会長) 広報委員会 (荒木常任理事他)
4	第7回常任理事協議会 (会長他)		県個人情報保護審議会 (荒木常任理事) 国民医療を守るために総決起大会 (Web会議) (会長他)
5	県立宮崎病院グランドオープン記念式典 (会長他) 地域医療連携懇談会 (会長他)	20	県国保等はり、きゅう及びあん摩マッサージ療 養費審査委員会 (大塚常任理事) 医師クラーク育成・スキルアップ研修会 (Web会議) 医師協同組合会計監査 (河野理事長他)
6	(日医) 日医予防接種・感染症危機管理対策委員会 (峰松理事) 医師会立看護学校担当理事連絡協議会 (金丸副会長他)	21	(神奈川) 全国学校保健・学校医大会会長招宴 (会長)
8	(岩手) 全国医師会勤務医部会連絡協議会 (金丸副会長他) 県整形外科医会研修会	22	(神奈川) 全国学校保健・学校医大会 (会長他) 産業医研修会 (実地) (池井常任理事)
9	(岩手) 勤務医交流会 (金丸副会長他) 県民健康セミナー (会長他)	25	医師協理事会 (Web会議) (河野理事長他) 医師協理事・運営委員合同協議会 (Web会議) (河野理事長他) 第16回常任理事協議会 (Web会議) (会長他)
10	県医療事故調査支援団体連絡協議会・県医医療 事故調査支援委員会合同会議 (会長他)	26	日医救急災害医療対策委員会地域包括ケアシス テムにおける救急医療ワーキンググループ (Web会議) (落合常任理事) 労災診療指導委員会・労災部会理事会 (赤須常任理事他) 医師を目指す学生のためのキャリアセミナー (荒木常任理事)
11	第15回全理事協議会 (会長他) 県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会 (会長他)	27	社会保険医療担当者の個別指導 (山中理事) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 (鳴本常任理事)
12	日医救急災害医療対策委員会 (Web会議) (落合常任理事) 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業運営協議会 (高木常任理事) 宮崎大学医学部附属病院医師研修管理委員会 (金丸副会長) 支払基金審査運営協議会 (会長) 広報委員会 (荒木常任理事他) 九州各県医師会学校保健担当理事者会 (Web会議) (高木常任理事)	28	都道府県医師会自賠責保険担当理事連絡協議会 (Web会議) (赤須常任理事他) (福岡) 九医連常任委員会 (会長) (福岡) 九医連臨時委員総会 (会長他)
13	県産婦人科医会常任理事会 (鳴本常任理事他) 医師国保組合理事会 (秦理事長他)	29	(福岡) 九医連委員・九州各県医師会役員合同協議会 (会長他) (福岡) 九州医師会総会・医学会 (会長他) 宮崎大学医学部附属病院研修ローテート等説明会 (大塚常任理事)
14	みやざき愛の献血運動推進県民大会 (金丸副会長) 県外医会秋期講演会 (Web会議) 四役会 (会長他)	30	(福岡) 九州医師会医学会分科会・記念行事 (東京) 全国有床診療所協議会理事会・臨時社 員総会・医師連盟執行委員会 (会長)
15	九州学校検診協議会専門委員会・全体協議 (Web会議) (高木常任理事)		
16	(都城市) 県総合防災訓練 日医かかりつけ医機能研修制度応用研修会		
17	鹿児島県医師会との災害医療に関するワーキンググループ (Web会議) (金丸副会長他) 組織強化・将来構想委員会小委員会 (小牧副会長他)		

ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

令和7年11月4日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク（求人・求職等の情報提供）を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおりの情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申し込み・お問い合わせは当紹介所へ直接お願ひいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

1. 求職者登録数 12人

希望診療科目	求職数	常勤	非常勤
内 科	1	0	1
外 科	1	1	0
整 形 外 科	2	2	0
精 神 科	1	0	1
消 化 器 内 科	2	0	2
放 射 線 科	1	0	1
総 合 診 療 科	1	0	1
産 婦 人 科	1	0	1
老 健	2	1	1

2. 幹旋成立件数 108人

	合 計
令和7年度(4/1~11/4)	4
平成16年度から累計	108

3. 求人登録 100件 282人

募集診療科目	求人数	常勤	非常勤	(人)
内 科	89	67	22	
外 科	19	17	2	
整 形 外 科	19	16	3	
精 神 科	12	11	1	
脳 神 経 外 科	2	2	0	
循 環 器 科	14	11	3	
消 化 器 内 科	19	15	4	
麻 醉 科	5	5	0	
眼 科	10	6	4	
放 射 線 科	9	9	0	
小 児 科	3	2	1	
呼 吸 器 科	0	0	0	
在 宅 診 療	4	3	1	
総合診療科・内科	11	8	3	
脳 神 経 内 科	2	2	0	
呼 吸 器 内 科	10	8	2	
リハビリテーション科	5	3	2	
救 命 救 急 科	7	5	2	
募集診療科目	求人数	常勤	非常勤	
消 化 器 外 科	4	2	2	
乳 腺 外 科	2	2	0	
健 診	2	2	0	
泌 尿 器 科	4	3	1	
産 婦 人 科	0	0	0	
検 診	0	0	0	
皮 膚 科	0	0	0	
婦 人 科	0	0	0	
呼 吸 器 外 科	0	0	0	
人 工 透 析	12	8	4	
リ ウ マ チ 科	2	1	1	
臨 床 病 理 科	0	0	0	
形 成 外 科	0	0	0	
診 療 科 目 不 問	8	4	4	
緩 和 ケ ア	0	0	0	
内 分 泌 糖 尿 病 内 科	3	3	0	
そ の 他	5	3	2	
合 計	282	218	64	

求 人 登 錄 者 (公開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、
無料職業紹介所（ドクターバンク）へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
160013	医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市	整,リハ,神内,循内,脳外	5	常勤・非常勤
160017	医)宮崎博愛会 さがら病院宮崎	宮崎市	乳外,緩和	5	常勤・非常勤
160020	財)弘潤会 野崎病院	宮崎市	精	1	常勤
160031	社医)同心会 古賀総合病院	宮崎市	内,外,整	4	常勤・非常勤
170048	社医)慶明会 けいめい記念病院	国富町	内	2	常勤・非常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮崎市	内,神内,整,消内,腫内,放	6	常勤
190087	公社)宮崎市郡医師会病院	宮崎市	消内,呼内,総診	5	常勤
190094	社医)耕和会 迫田病院	宮崎市	内,外	2	常勤
190095	社医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮崎市	眼	1	常勤
200104	社医)善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市	救急,外,呼内,消内,糖内	5	常勤・非常勤
200105	医)誠友会 南部病院	宮崎市	外,内,放	3	常勤
210110	医)幸秀会 大江整形外科病院	宮崎市	整	1	常勤
230139	社福)介護老人保健施設 サンフローラみやざき	国富町	内,外	2	常勤
230144	生協)宮崎生協病院	宮崎市	消内,腎内,透,循内,呼内,内,健診	13	常勤・非常勤
230146	財)潤和リハビリテーション振興財団潤和会記念病院	宮崎市	整,脳外,緩和,救急	4	常勤
230164	宮崎県保健所	宮崎市	公衆衛生	1	常勤
230177	医)社団尚成会 近間病院	宮崎市	内,消内,消外,放	2	常勤
230185	医)朋詠会 獅子目整形外科病院	宮崎市	整,内	2	常勤
230194	医)財団シロアム会 新城眼科医院	宮崎市	眼	2	常勤・非常勤
230196	医)社団高信会 辰元病院	宮崎市	内	1	常勤
230209	財)弘潤会 野崎東病院	宮崎市	内	1	常勤
230213	医)聖美会 南宮崎ヤマト腎泌尿器科	宮崎市	泌,内,透(いずれか)	1	常勤
230214	医)聖美会 青島リゾートクリニック	宮崎市	内,外,リハ(いずれか)	1	常勤
230215	医)社団紘和会 平和台病院	宮崎市	糖内,消内	3	常勤
230217	医)けいあい かいクリニック	宮崎市	整,リハ,リウ	6	常勤・非常勤
230220	医)社団 宮崎医療センター病院	宮崎市	総診,内,消内,呼内,整(いずれか)	2	常勤
230224	医)雅会 河野整形外科	宮崎市	内	1	非常勤
230227	医)マナビヤ マナビヤ在宅クリニック「un」	宮崎市	不問	3	常勤・非常勤
230230	医)りっか会 ピア・ささき病院	宮崎市	精	2	常勤・非常勤
230231	認N)ホームホスピス宮崎	宮崎市	内	2	常勤・非常勤
230235	医)青葉会 のざきクリニック	宮崎市	内	5	常勤・非常勤
230240	医)順養会 海老原病院	国富町	内	1	常勤
230241	医)慈光会 宮崎若久病院	宮崎市	精	1	常勤
230242	さくらメンタルクリニック	宮崎市	精	1	常勤
230243	医)よしき会 どんぐりこども診療所	宮崎市	小	1	常勤
230246	医)灯仁会 あおやま訪問・救急クリニック	宮崎市	救急,内,在宅,総診,不問	10	常勤・非常勤
160010	特医)敬和会 戸嶋病院	都城市	内	1	常勤
160018	医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都城市	整,消内,消外,麻,循内	5	常勤
170057	医)清陵会 隅病院	都城市	内,整,訪診	3	常勤
180064	国立病院機構都城医療センター	都城市	消内	1	常勤
190092	公社)都城市郡医師会病院	都城市	内,呼内,消内	6	常勤
210114	一社)藤元メディカル藤元病院	都城市	精,内	3	常勤
230127	医)倫生会 三州病院	都城市	内,消内,消外,乳外,麻,緩和	6	常勤・非常勤
230137	医)宏仁会 海老原内科	都城市	内	1	常勤
230162	一社)藤元メディカル藤元総合病院	都城市	内,循内,救急,呼内,放	10	常勤
230179	医)与州会 柳田病院	都城市	外	1	常勤
230181	医)社団牧会 介護老人保健施設はまゆう	三股町	内	1	常勤

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
230192	医)社団明暉会 速見泌尿器科内科医院	都城市	腎内	1	常勤・非常勤
230208	医)社団樺の葉 ホームクリニックみまた	三股町	内	1	常勤・非常勤
230216	一社)藤元メディカルシステム大悟病院	三股町	精,内	2	常勤
230225	医)社団明恵会 早水公園クリニック	都城市	内	2	常勤・非常勤
230244	医)社団清風会 清風会クリニック	都城市	血内,泌,腎内	6	常勤・非常勤
160012	医)伸和会 延岡共立病院	延岡市	整,内	3	常勤
160021	医)建悠会 吉田病院	延岡市	精	1	常勤
190086	医)早田病院	延岡市	消内,循内	2	常勤
200100	医)育生会 井上病院	延岡市	小	1	常勤
200102	一社)延岡市医師会病院	延岡市	内,消内,消外,放	4	常勤
210109	一社)延岡市夜間急病センター	延岡市	内,小	2	非常勤
230186	医)隆誠会 延岡保養園	延岡市	精,内	2	常勤
230189	特医)健腎会 おがわクリニック	延岡市	泌,透	2	常勤
230203	医)杉杏会 杉本病院	延岡市	内	1	非常勤
230210	医)あつきこころ 大貫診療所	延岡市	内,外(いすれか)	1	常勤
230219	財)延岡リハビリテーション病院	延岡市	内,整,リハ	3	常勤
230238	医)en. 縁・在宅クリニック	延岡市	不問	2	常勤・非常勤
230245	医)健寿会 黒木病院	延岡市	消内, 消外	2	非常勤
160039	医)誠和会 和田病院	日向市	外	2	常勤
210111	福)恩賜財団宮崎県済生会 日向病院	門川町	内,外	2	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美郷町	内,整	3	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美郷町	内,整	2	常勤
230200	医)おざきメディカルアソシエイツ 尾崎眼科	日向市	眼	1	常勤・非常勤
230201	医)洋承会 今給黎医院	日向市	内,循内,呼内,糖内	4	非常勤
230232	医)社団弘文会 松岡内科医院	日向市	透	1	非常勤
230239	稻原眼科医院	日向市	眼	1	非常勤
160023	医)宏仁会 海老原総合病院	高鍋町	内,外,麻,健診	4	常勤・非常勤
230187	国立病院機構宮崎病院	川南町	総診,救急,呼内,循内,神内,整	12	常勤・非常勤
230223	医)聖山会 川南病院	川南町	内,腎内	3	常勤
160024	医)隆徳会 鶴田病院	西都市	内,外,整,総診,透,循内	6	常勤
150002	社医)慶明会 おひ中央病院	日南市	内,リハ	3	常勤・非常勤
160022	医)愛鍼会 山元病院	日南市	内	1	常勤
160037	医)十善会 県南病院	串間市	精,内	2	常勤
170047	日南市立中部病院	日南市	内,外,整,在宅,眼	5	常勤
180071	串間市民病院	串間市	内,外,総診,消内,腎内,呼内	6	常勤
230149	社医)介護老人保健施設 おびの里	日南市	内	1	常勤
230188	医)春光会 春光会記念病院	日南市	内,整	4	常勤・非常勤
230211	医)秀英会 介護老人保健施設長寿の里	串間市	不問	1	常勤
230222	宮崎県立日南病院	日南市	消内	2	常勤
230236	医)和真会 東内科クリニック	日南市	透	1	常勤
160019	医)相愛会 桑原記念病院	小林市	循内,内,外	4	常勤・非常勤
170043	医)和芳会 小林中央眼科	小林市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小林市	放,内,総診,麻	6	常勤
180076	医)けんゆう会 園田病院	小林市	外,内,総診	6	常勤・非常勤
190091	医)友愛会 野尻中央病院	小林市	内,眼	3	常勤・非常勤
230169	医)連理会 和田クリニック	小林市	内	1	常勤
230197	医)友光会 整形外科押領司病院	小林市	整,内,循内	3	常勤・非常勤
230218	医)養気会 池井病院	小林市	腎内	1	常勤
230229	国民健康保険高原病院	高原町	内	1	非常勤
230237	医)東陽会 整形外科前原病院	小林市	整	1	常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内,外	2	常勤
180070	高千穂町国民健康保険病院	高千穂町	内,眼,小	3	常勤
190088	日之影町国民健康保険病院	日之影町	内,外(いすれか)	1	常勤

病院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡、賃貸希望の物件を紹介いたします。

令和7年11月4日現在

1. 譲渡 物件	① 宮崎市阿波岐ヶ原町前田2633番, 2634番 土地のみ: 2,022.17m ² (612.77坪)	所有者: 児湯医師会員 (医) 崇雲会 林クリニック
	② 西都市中央町2丁目6番地 土地: 2,280.83m ² (691.16坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 674.74m ² 2階 547.79m ² 3階 177.95m ² 計 1,400.48m ² (424.38坪) ※別途駐車場あり (20台)	所有者: 西都市西児湯医師会員 図師医院跡
	③ 延岡市無鹿町1丁目710 土地: 1,654.58m ² (501.38坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根4階建 1階 145.76m ² 2階 338.70m ² 3階 330.69m ² 4階 14.25m ² 計 829.40m ² (251.33坪) ※駐車場あり (50台)	所有者: (医) 社団 隆豊 江崎医院跡
	④ 日向市財光寺615 土地: 1,704.79m ² (515.70坪) 建物: 鉄筋コンクリート2階建 1階 333.69m ² 2階 117.27m ² 車庫 36.60m ² 計 487.56m ² (147.49坪) ※駐車場あり (16台)	所有者: 日向市東臼杵郡医師会員 吉田クリニック
	⑤ 延岡市本町2丁目3-5 土地: 893.18m ² (270.19坪) 建物: 木造スレート葺2階建 1階 173.08m ² 2階 44.72m ² 計 217.80m ² (65.89坪) ※駐車場あり (15台)	所有者: 延岡市医師会員 (医) 社団 戸島クリニック
	⑥ 宮崎市原町12-1 土地: 459.69m ² (139.06坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 249.20m ² 2階 184.38m ² 3階 15.55m ² 計 449.13m ² (135.86坪) ※駐車場あり (6台) 別途、賃貸の駐車場 (22台)	所有者: 宮崎市郡医師会員 (医) 青翠会 山本医院
2. 賃譲 貸渡 物又 は	① 児湯郡川南町大字平田1402-74 土地: 4,449m ² (1,348.18坪) 建物: 鉄骨セメント造平屋建 1階 825.66m ² (250.20坪) ※駐車場あり (70台)	所有者: 児湯医師会員 (医) 崇雲会 林クリニック
3. 賃貸 物件	① 都城市東町10街区18号 土地: 614.18m ² (186.11坪) 建物: 鉄筋コンクリート造3階建 1階 324.30m ² 2階 322.11m ² 3階 322.11m ² 計 968.52m ² (293.49坪) ※駐車場あり (3台) 別に隣接病院駐車場あり (応相談) ※賃貸部分は、2階、3階 (グループホームやすらぎ)	所有者: 都城市北諸県郡医師会員 (医) 与州会 柳田病院
	② 宮崎市大字本郷南方字榎田2541番地1 土地: 750.44m ² (227.40坪) 建物: 木造スレートぶき2階建 1階 255.27m ² 2階 73.50m ² 計 328.77m ² (99.62坪) ※駐車場あり (15台)	所有者: 宮崎市郡医師会員 (医) 健心会 滝口内科医院 (旧)のぞみ医院跡
	③ 宮崎市大字本郷南方2456番地1 土地: 1801.76m ² (545.03坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 282.52m ² (85.46坪) ※駐車場あり (20台)	所有者: 宮崎市郡医師会員 平部整形外科医院跡

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

- 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し、求職者は県外でも結構です。
- 紹介受付は、月～金の9時～12時及び13時～17時です。
- 申込み方法は、所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
- ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
- 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
- 斡旋成立時の紹介料は、「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先 ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 (宮崎県医師協同組合)

TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179 E-mail: isikyou@miyazaki.med.or.jp

日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

宮崎県医師会広報委員会

E-mail : genko@miyazaki.med.or.jp

FAX : 0985-27-6550

TEL : 0985-22-5118

き
り
と
り
せ
ん

日州医事では、読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や、読みたい記事のご提案など、忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお、いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注：FAXの際は、このページを切り取り、
裏面の原稿用紙もご利用になれます。

宮崎県医師会広報委員会 行 FAX: 0985-27-6550

お名前：

ご所属：

TEL:

FAX:

きりとりせん

宮崎県医師会行事予定表

令和7年11月25日

12月									
1	月	16:00	予防接種事務のデジタル化に係る担当理事連絡協議会（Web会議）	13	土	9:00	指導医のための教育ワークショップ		
		19:00	土曜会（報道機関支局長の会）との懇談会			13:35	指導医のための教育ワークショップ記念撮影		
		19:00	介護保険委員会（Web会議）			14:55	県産婦人科医会ひむか性教育シンポジウム（Web会議）		
						15:00	（日医）日医未来医師会ビジョン委員会		
2	火	8:00	（東京）自民党議員連盟「国民医療を守る議員の会」	14	日	8:30	指導医のための教育ワークショップ		
		19:00	第8回常任理事協議会	15	月	17:00	地域医療対策協議会プログラム運用部会		
3	水	19:00	医学賞選考委員会（Web会議）			18:00	地域医療対策協議会		
4	木	13:30	都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会（Web会議）	16	火	18:30	自殺対策うつ病研修会（Web会議）		
		16:00	（日医）日医医療秘書認定試験委員会			19:00	労災部会自賠委員会（Web会議）		
		19:00	県医中間監事監査	17	水	13:30	日医公衆衛生委員会（Web会議）		
		19:00	日産婦医会性教育指導セミナー全国大会実行委員会（Web会議）			16:00	支払基金審査運営協議会		
						19:00	広報委員会		
5	金	18:00	医師クラーク育成・スキルアップ研修会（Web会議）	18	木	10:00	（高鍋町）ロコモ予防運動推進事業普及講座		
6	土	13:00	（日医）家族計画・母体保護法指導者講習会			14:00	（日医）日医広報委員会		
		14:30	産業医研修会（TV会議）			19:00	日医社保指導者講習会伝達講習会（Web会議）	社 保 査	国 保 査
7	日	16:00	病院部会・医療法人部会合同理事会	19	金	13:00	（東京）九州各県アイパンク連絡協議会		
		17:00	病院部会・医療法人部会合同研修会			14:00	（東京）全国アイパンク連絡協議会		
		9:00	人体シミュレータを用いた在宅医療研修会			18:00	県死因究明等推進協議会		
		11:00	（北九州）自見はなこ政策セミナー			19:00	（都城市）都城市北諸県郡医師会忘年会		
8	月	13:30	県社会福祉審議会児童福祉専門分科会	20	土				
		19:00	新たな地域医療構想を見据えたかかりつけ医機能報告に係る研修会（Web会議）	21	日				
		20:00	地域医療委員会・救急災害医療対策委員会（Web会議）	22	月	17:00	宮大医学部地域枠全体ミーティング		
9	火	19:00	組織強化・将来構想委員会小委員会	23	火	14:30	県国保等はり、きゅう及びあん摩マッサージ療養費審査委員会		
10	水	19:00	広報委員会			14:30	地方公務員災害補償基金宮崎県支部審査会		
11	木	14:00	県保険者協議会			18:30	医師協理事会（Web会議）		
		14:00	社会保険医療担当者の個別指導			19:00	医師協理事・運営委員合同協議会（Web会議）		
		14:00	県保険者協議会			終了後	第18回全理事協議会（Web会議）		
		15:00	宮崎地方労働審議会						
		18:00	県医療審議会及び医療法人等部会	24	水		（会館大掃除）		
		19:00	外国人患者受け入れに関する研修会（Web会議）			15:00	労災診療指導委員会・労災部会理事会		
		19:00	県産婦人科医会全理事会（Web会議）	25	木	15:00	（日医）日医有床診療所委員会		
		19:00	（延岡市）延岡市医師会会員忘年会			18:00	九州地方社会保険医療協議会宮崎部会		
12	金	18:00	指導医のための教育ワークショップ打合せ会	26	金		仕事納め式		
		19:00	県産婦人科医会HTLV-1母子感染対策事業研修会（Web会議）	27	土				
				28	日				
				29	月		（年末休業）		
				30	火		（年末休業）		
				31	水		（年末休業）		

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。

宮崎県医師会行事予定表

令和7年11月25日

1月		
1 木	(年始休業)	
2 金	(年始休業)	
3 土	(年始休業)	
4 日		
5 月	仕事始め式	
6 火	19:00 第9回常任理事協議会	
7 水		
8 木		
9 金	18:00 県地域医療構想調整会議	
10 土	19:00 三師会合同新春懇談会	
11 日	9:00 (日医) 日医JMAT研修会(基本編)	
12 月	(成人の日)	
13 火	19:00 第19回全理事協議会(Web会議)	
14 水	16:30 支払基金審査運営協議会(会長) 19:00 広報委員会(荒木常任理事他)	
15 木	16:30 日医医業経営検討委員会(Web会議) 19:00 発達障害診断医養成研修会 19:00 県産婦人科医会常任理事会(Web会議) 19:30 宮崎市郡整形外科医会新年会	
16 金		
17 土	14:00 (福岡)九州ブロック災害医療研修会 17:00 (福岡)九医連救急・災害医療担当理事連絡協議会	国保審査
18 日		
19 月		
20 火	14:20 (日医)都道府県医師会長会議	
21 水	15:00 (日医)日医地域医療対策委員会 17:30 医局員に対する医師会活動説明会(皮膚科学)	
22 木	14:30 県国保等はり、きゅう及びあん摩マッサージ療養費審査委員会 19:00 広報委員会 19:00 医師国保組合定例事務監査	
23 金	16:00 日医財務委員会(Web会議) 17:30 県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会 19:00 医療安全対策Webセミナー(Web会議)	社 保 審 査
24 土	15:00 県産婦人科医会冬期定時総会・講演会(Web会議)	
25 日	9:00 人体シミュレータを用いた在宅医療研修会	
26 月		
27 火	18:00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 18:00 医師協理事会 18:30 医師協理事・運営委員合同協議会 終了後 第20回全理事協議会 19:00 各都市医師会長協議会	
28 水	15:00 労災診療指導委員会・労災部会理事会	
29 木	18:00 医師クラーク育成スキルアップ研修会 (Web会議) 18:30 勤務医部会理事会(Web会議) 19:00 勤務医部会後期講演会(Web会議) 19:00 医師国保組合理事会	
30 金	14:00 都道府県医師会学校保健担当理事連絡協議会(Web会議) 19:00 高次脳機能障がい講演会(Web会議)	
31 土	14:30 産業医研修会(TV会議) 16:00 日医未来医師会ビジョン委員会	

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。

医 学 会 • 講 演 会

日本医師会生涯教育講座認定学会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数、CC：カリキュラムコード（当日、参加証を交付）

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会（胃・大腸・肺・乳）

アンダーラインの部分は、変更になったところです。

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
宮崎県皮膚科医会 学術講演会 (Web講習会) 12月3日(水) 18:50~20:30 宮崎観光ホテル ※受講は現地またはWeb	当科における結節性痒疹の治療実態 宮崎大学医学部 感覚運動医学講座 皮膚科学分野 講師 西川 陽太郎	26 (0.5)	◇主催 宮崎県皮膚科医会 ◇共催 ※サノフィ(株) ☎03-6301-3000 リジェネロン・ジャパン(株)
	アトピー性皮膚炎における角層バリア機能の重要性と Balistad試験 筑波大学医学医療系 皮膚科 教授 乃村 俊史	73 (1.0)	
延岡医学学会学術講演会 ～LDL<55mg/dl 時代を見据えて～ 12月3日(土) 19:00~20:30 エンシティホテル 延岡3階山水	若年の繰り返すACS患者に対するPCSK9阻害薬の使用経験 県立延岡病院 循環器内科 副医長 伊豆元 心太郎	75 (0.5)	◇主催 延岡医学学会 ◇共催 ノバルティスファーマ(株) (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
	急性冠症候群に対する積極的な脂質低下療法 ～PCSK9製剤による早期介入のエビデンスと実践～ 宮崎市郡医師会病院 循環器内科 部長 西平 賢作	75 (0.5)	
令和7年度県西地域結核医療従事者 研修会 (Web講習会) 12月3日(水) 19:00~20:40 都城保健所 ※受講はWebのみ	低蔓延化を見据えた結核対策、早期発見・診断のポイント(仮) 結核予防会 結核研究所 対策支援部 企画・医学科 科長 平尾 晋	8 (1.5)	◇主催 ※宮崎県都城保健所 ☎0986-23-4504 ◇共催 宮崎県小林保健所

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
宮崎市郡内科医会 学術講演会 (Web講習会) 12月 4日(木) 19:00~20:00 住友ファーマ(株)宮 崎集会所 ※受講はWebのみ	2型糖尿病治療におけるオゼンピックの有用性 平和台病院 内科・糖尿病内科 西 勇一	9 (1.0)	◇主催 宮崎市郡内科医会 ◇共催 住友ファーマ(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎0985-77-9100
宮崎市郡医師会産 業医部会研修会 12月 6日(土) 14:15~17:20 宮崎市郡医師会館 1階講堂	労働衛生の現状等について 宮崎労働基準監督署 安全衛生課 課長 田邊 圭 ----- 職場における糖尿病対策 日南市立中部病院 病院長 中津留 邦展	11 (1.5) 76 (1.5)	◇主催 ※宮崎市郡医師会 ☎0985-77-9100
宮崎県医師会病院 部会・医療法人部 会合同研修会 12月 6日(土) 17:00~18:05 シーガイアコンペ ンションセンター 3階「瑞洋」	縮みゆく社会の中で病院の持続可能性を考える 全日本病院協会 会長 神野 正博	0 (1.0)	◇主催 ※宮崎県医師会病院 部会・医療法人部会 ☎0985-22-5118
第93回宮崎県精神 科医会懇話会 12月 6日(土) 17:30~19:00 アートホテル宮崎 スカイタワー 3 F	不眠症診療における新たな治療薬への期待と課題 琉球大学医学研究科 精神病態医学講座 教授 高江洲 義和	20 (1.5)	◇主催 ※宮崎県精神科医会 ☎0982-37-0126 ◇共催 塩野義製薬(株)
第200回宮崎心臓 病研究会 (Web講習会) 12月 8日(月) 19:00~20:10 宮崎市郡医師会病 院大会議室 2 ※受講はWebのみ	心房生検によって明らかになった心房細動の本体 佐賀大学医学部 循環器内科 准教授 山口 尊則 他	9 (1.0)	◇主催 宮崎心臓病研究会 ◇共催 アボットメディカルジャパン(仮) (連絡先) 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-77-9101

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
いろはに漢方～初級・中級者コース～ (Web講習会) 12月10日(水) 19:00～20:00 宮崎県医師会館 ※受講はWebのみ	近ごろ気になる「気」のトリセツを考える ちぐさ東洋クリニック 院長 川越 宏文	83 (1.0)	◇主催 宮崎県医師会東洋医会 ◇共催 ※クラシエ薬品(株) ☎092-291-8131
宮崎県医師会産業医研修会 12月10日(水) 19:00～21:00 串間市総合保健福祉センター	健康経営を導くワークライフバランス 産業保健相談員 串間市民病院 内科 江藤 敏治 生涯研修の専門研修会：2単位	11 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
令和7年度外国人患者対応に関する研修会 (Web講習会) 12月11日(木) 19:00～20:15 宮崎県医師会館 ※受講は現地またはWeb	外国人患者受入れに必要な多言語対応の実際 メディフォン(株) 事業本部 医療支援部 北村 純 他	7 (1.0)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
第255回宮崎県泌尿器科医会学術講演会 12月11日(木) 19:00～21:00 宮崎観光ホテル東館2階「紅の間」	宮崎大学医学部附属病院の「診療日変更」について ～経緯説明とお願い～ 宮崎大学医学部 泌尿器科 教授 賀本 敏行	0 (1.0)	◇主催 ※宮崎県泌尿器科医会 ☎0985-85-2968
令和7年度HTLV-1母子感染対策事業研修会 (Web講習会) 12月12日(金) 19:00～20:00 宮崎県医師会館 ※受講は現地またはWeb	HTLV-1と皮膚のかかわり 古賀総合病院 皮膚科 天野 正宏 専門医共通講習－感染対策：1単位	8 (1.0)	◇主催 ※宮崎県産婦人科医会 ☎0985-22-5118

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
令和7年度宮崎県 緩和ケア研修会 12月13日(土) 8:30~17:10 県立日南病院2階 講堂	e-learningの復習・質問 県立日南病院 副院長 市成 秀樹 全人的苦痛に対する緩和ケア 【グループ演習/ワークショップ】(アイスブレイキング含む) 宮崎大学医学部附属病院 麻酔科 外来医長 山賀 昌治 コミュニケーション 【ロールプレイング/ワークショップ】 宮崎大学医学部附属病院 精神科 副科長 船橋 英樹 療養場所の選択と地域連携 【グループ演習/ワークショップ】 県立日南病院 副院長 木佐貫 篤	15 (0.5) 10 (1.5) 4 (1.5) 12 (1.5)	◇主催 ※県立日南病院 ☎0987-58-2152
宮崎市郡内科医会 学術講演会 (Web講習会) 12月13日(土) 17:00~18:15 MRTmicc ※受講は現地またはWeb	高血圧関連(仮) 宮崎大学医学部 血液浄化療法部 准教授 菊池 正雄 高血圧管理・治療ガイドライン2025(JSH2025)のポイントとMR拮抗薬への期待 近畿大学医学部 腎臓内科 主任教授 有馬 秀二	73 (0.5) 73 (0.5)	◇主催 宮崎市郡内科医会 ◇共催 第一三共(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎0985-77-9100
宮崎市郡外科医会 冬期講演会 12月15日(月) 19:00~20:00 宮崎観光ホテル東 館2階「初雁の間」	運動器の痛み診療アップデート 宮崎大学医学部 整形外科 教授 亀井 直輔	19 (1.0)	◇主催 宮崎市郡外科医会 (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎0985-77-9100
宮崎県医師会産業 医研修会 12月17日(水) 19:00~21:00 宮崎県医師会館	健康経営を導くワークライフバランス 産業保健相談員 串間市民病院 内科 江藤 敏治 生涯研修の専門研修会: 2単位	11 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
宮崎市郡内科医会 学術講演会 (Web講習会) 12月18日(木) 19:00~20:00 田辺三菱製薬宮崎 営業所 ※受講はWebのみ	減量を目指した現代の低エネルギー食に潜む課題 ～肥満症治療薬を最大限に活かすための食事療法～ 淡海医療センター 肥満外科治療センター 糖尿病内分泌内科 山本 有香子	23 (1.0)	◇主催 宮崎市郡内科医会 ◇共催 田辺三菱製薬(株) 日本イーライリリー(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎0985-77-9100
令和7年度日本医師 会社会保険指導者講 習会伝達講習会 (Web講習会) 12月18日(木) 19:00~21:10 宮崎県医師会館 ※受講は現地またはWeb	病診連携と多職種で取り組む日本のCKD対策 宮崎大学医学部 医療環境イノベーション講座 特別教授 藤元 昭一	73 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	アトピー性皮膚炎 - 病態理解と治療に関する最近の進歩 宮崎大学皮膚科 名誉教授 古賀総合病院 皮膚科 天野 正宏	26 (0.5)	
	睡眠障害についてかかりつけ医が知っておきたいこと 野崎病院長 宮崎大学 名誉教授 石田 康	20 (0.5)	
第212回宮崎県眼 科医会講習会 12月20日(土) 16:00~19:05 KITENビル8F コンベンション ホール大会議室 参加費:3,000円	糖尿病網膜症の治療戦略：硝子体手術と網膜光凝固の 役割を再考する 秋田大学医学系研究科医学専攻 病態制御医学系 眼科学講座 教授 岩瀬 剛	36 (1.0)	◇主催 ※宮崎県眼科医会 ☎0985-28-1015 ◇共催 大塚製薬(株)
	実践グラニア外来 緑内障と角膜の接点を診る 国際医療福祉大学 医学部眼科学 教授(代表) 国際医療福祉大学 成田病院 眼科 部長 臼井 智彦	36 (1.0)	
第91回宮崎整形外 科懇話会 12月20日(土) 17:30~18:30 宮崎県医師会館 参加費:1,000円	骨軟部腫瘍の診断と治療～基本から最新トピックスまで～ 福島県立医科大学 整形外科学講座 主任教授 松本 嘉寛	61 (1.0)	◇主催 宮崎整形外科懇話会 ◇共催 宮崎県整形外科医会 旭化成ファーマ(株) (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科 ☎0985-85-0986

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
第201回宮崎心臓病研究会 (Web講習会) 1月7日(水) 18:30~19:30 宮崎市郡医師会病院大会議室2 ※受講はWebのみ	心臓病地域連携パスを用いた動脈硬化の包括的管理に向けた取り組み 長崎大学医歯薬学総合研究科 循環器内科学 教授 前村 浩二	75 (1.0)	◇主催 宮崎心臓病研究会 ◇共催 大塚製薬㈱ (連絡先) 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-77-9101
第82回宮崎県耳鼻咽喉科懇話会臨床セミナー (Web講習会) 1月8日(木) 18:30~20:00 ホテルJALシティ宮崎「オルソ1」 ※受講は現地またはWeb 参加費：1,000円	アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎に対する安全で効果的な経鼻内視鏡手術をみんなに広めたい 島根大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 坂本 達則	39 (1.0)	◇主催 宮崎県耳鼻咽喉科懇話会 ◇共催 ※杏林製薬㈱ ☎0985-27-3300 ◇後援 日耳鼻宮崎県地方部会 宮崎県耳鼻咽喉科医会
西都市西児湯地域包括ケア推進センター学術講演会 (Web講習会) 1月9日(金) 18:30~20:00 西都市社会福祉協議会 ※受講は現地またはWeb	医療・介護・福祉のためのメンタルヘルスマネージメント ～メンタルヘルスを科学する～ 宮崎県立看護大学 精神看護学 教授 川村 道子	13 (1.5)	◇主催 西都市西児湯地域包括ケア推進センター ◇共催 ※西都市西児湯医師会 ☎0983-43-1687 西都市西児湯内科医会
宮崎県医師会産業医研修会 1月10日(土) 14:00~16:00 宮崎県医師会館	石綿(アスベスト)関連疾患診断技術研修会(専門研修) 「石綿関連疾患胸部画像診断の読影実習」 中部労災病院 副院長 松尾 正樹 他 生涯研修の実地研修会：2単位	45 (2.0)	◇主催 (独)労働者健康安全機構 ◇共催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
令和7年度依存症地域対策支援事業依存症支援者研修会 1月11日(日) 13:00~17:00 宮崎県精神保健福祉センター5階研修室	依存症の理解~困った人は困っている人~ あきやま病院 副院長 福田 貴博	5 (1.0)	◇主催 宮崎県障がい福祉課(吉田病院受託) (連絡先) 吉田病院 ☎0982-37-0126
	問題解決しない事例検討会の理念 全国の活動と宮崎県の取り組み 問題解決しない事例検討会 あきやま病院 副院長 福田 貴博	5 (3.0)	
宮崎県医師会産業医研修会 1月14日(水) 19:00~21:00 串間市総合保健福祉センター	産業医としての発達障がい者就労支援 産業保健相談員 串間市民病院 内科 江藤 敏治 生涯研修の専門研修会: 2単位	0 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
延岡医学会学術講演会 ~骨粗鬆症と高血圧診療を考える~ (Web講習会) 1月16日(金) 19:00~20:30 キャトルセゾンマツイ ※受講は現地またはWeb	骨粗鬆症の診断と治療~脊椎脊髄外科医の立場から~ いのうえ整形外科クリニック 院長 井上 英豪 臓器保護のための高血圧管理 ~MRBによる包括的治療戦略~ 宮崎大学医学部 内科学講座 循環器・腎臓内科学分野 教授 梅北 幸一	77 (0.5) 74 (0.5)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 第一三共(株) (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
第63回宮崎救急医学会 1月17日(土) 13:00~18:00 宮崎県医師会館 参加費: 1,000円	緊急手術疾患(Emergency General Surgery)のマネージメントのアップデート ~軟部組織感染症から急性腹症まで~ 東京科学大学病院 救命救急センター長 木下 幸治	14 (1.0)	◇主催 第63回宮崎救急医学会 (連絡先) 県立宮崎病院 ☎0985-24-4181
宮崎県医師会産業医研修会 1月21日(水) 19:00~21:00 宮崎県医師会館	産業医としての発達障がい者就労支援 産業保健相談員 串間市民病院 内科 江藤 敏治 生涯研修の専門研修会: 2単位	0 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
宮崎県医師会産業医研修会 1月23日(金) 14:00~16:00 宮崎県医師会館	労災事故を防ぐための保護具の正しい使用法 産業保健相談員 宮崎大学 国際連携機構・国際連携センター 客員教授 黒田 嘉紀 生涯研修の専門研修会：2単位	11 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
令和7年度宮崎県産婦人科医会・産科婦人科学会冬期定時総会・講演会 (Web講習会) 1月24日(土) 15:00~17:00 宮崎県医師会館 ※受講は現地またはWeb	妊娠高血圧症候群におけるプレコンセプションケアと インター・コンセプションケア 愛知医科大学 産婦人科学講座 教授 渡辺 員支	74 (1.0)	◇主催 ※宮崎県産婦人科医会 ☎0985-22-5118 ◇共催 宮崎県産科婦人科学会
宮崎県医師会産業医研修会 1月28日(水) 19:00~21:00 串間市民病院会議室	人生100年時代における高年齢労働者の安全対策 産業保健相談員 串間市民病院 内科 江藤 敏治 生涯研修の専門研修会：2単位	11 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
宮崎県医師会産業医研修会 1月29日(木) 13:30~15:30 延岡市職業訓練支援センター	この一年間(令和7年)の産業保健の動向 産業保健相談員 労働衛生コンサルタント 矢崎 武 生涯研修の更新研修会：2単位	6 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
南那珂医師会生涯教育医学会 (Web講習会) 1月29日(木) 19:00~20:00 南那珂医師会館2階大ホール ※受講は現地またはWeb	プライマリでできるアルツハイマー型認知症治療 ～ドネペジル貼付剤(アリドネパッチ)の使いどころを考える～ 宮崎大学医学部 臨床神経科学講座 精神医学分野 講師 船橋 英樹	29 (1.0)	◇主催 ※南那珂医師会 ☎0987-23-3411 ◇共催 興和(株)

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
令和7年度宮崎県 医師会勤務医部会 後期講演会 (Web講習会) 1月29日(木) 19:00~20:40 宮崎県医師会館 ※受講は現地またはWeb	病態からシンプルに考えるめまい疾患への対応 宮崎大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室 教授 高橋 邦行	31 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 ◇共催 宮崎県医師会勤務医部会
	橋橋を独力私費で架けた医師福島邦成の生涯と大淀川 潤和会記念病院 リハビリテーション科医長 認知症ケアチームリーダー 田代 学	1 (0.5)	
令和7年度高次脳 機能障がい講演会 (Web講習会) 1月30日(金) 19:00~21:00 宮崎県医師会館 ※受講は現地またはWeb	高次脳機能障害の診断・治療・支援について 錦海リハビリテーション病院 副病院長 橋本 圭司	29 (2.0)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
宮崎県医師会産業 医研修会 2月4日(水) 19:00~21:00 串間市総合保健福祉センター	リスクを軽減する職場巡視の方法 産業保健相談員 串間市民病院 内科 江藤 敏治 生涯研修の実地研修会：2単位	11 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
宮崎県医師会産業 医研修会 2月5日(木) 13:30~15:30 都城市北諸県郡医師会館	この一年間(令和7年)の産業保健の動向 産業保健相談員 労働衛生コンサルタント 矢崎 武 生涯研修の更新研修会：2単位	6 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
宮崎県医師会産業 医研修会 2月12日(木) 14:00~16:00 宮崎県医師会館	この一年間(令和7年)の産業保健の動向 産業保健相談員 労働衛生コンサルタント 矢崎 武 生涯研修の更新研修会：2単位	6 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先
宮崎県医師会産業 医研修会 2月18日(水) 19:00~21:00 宮崎県医師会館	リスクを軽減する職場巡視の方法 産業保健相談員 串間市民病院 内科 江藤 敏治 生涯研修の実地研修会：2単位	11 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
延岡医学会学術講 演会 (Web講習会) 2月20日(金) 19:00~20:00 エンシティホテル 延岡 ※受講は現地またはWeb	呼吸器感染症のプライマリーケア 宮崎大学医学部 内科学講座 呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野 教授 宮崎 泰可	46 (1.0)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 インスマッド(台) (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300

日本医師会生涯教育カリキュラム

カリキュラムコード (略称: CC)

1 医師のプロフェッショナリズム	29 認知能の障害	57 外傷
2 医療倫理：臨床倫理	30 頭痛	58 褥瘡
3 医療倫理：研究倫理と生命倫理	31 めまい	59 背部痛
4 医師－患者関係とコミュニケーション	32 意識障害	60 腰痛
5 心理社会的アプローチ	33 失神	61 関節痛
6 医療制度と法律	34 言語障害	62 歩行障害
7 医療の質と安全	35 けいれん発作	63 四肢のしびれ
8 感染対策	36 視力障害、視野狭窄	64 血尿 (肉眼的、顕微鏡的)
9 医療情報	37 目の充血	65 排尿障害 (尿失禁・排尿困難)
10 チーム医療	38 聴覚障害	66 乏尿・尿閉
11 予防と保健	39 鼻漏・鼻閉	67 多尿
12 地域医療	40 鼻出血	68 精神科領域の救急
13 医療と介護および福祉の連携	41 嘎声	69 不安
14 災害医療	42 胸痛	70 気分の障害 (うつ)
15 臨床問題解決のプロセス	43 動悸	71 流・早産および満期産
16 ショック	44 心肺停止	72 成長・発達の障害
17 急性中毒	45 呼吸困難	73 慢性疾患・複合疾患の管理
18 全身倦怠感	46 咳・痰	74 高血圧症
19 身体機能の低下	47 誤嚥	75 脂質異常症
20 不眠 (睡眠障害)	48 誤飲	76 糖尿病
21 食欲不振	49 嘉下困難	77 骨粗鬆症
22 体重減少・るい痩	50 吐血・下血	78 脳血管障害後遺症
23 体重増加・肥満	51 嘔気・嘔吐	79 気管支喘息・COPD
24 浮腫	52 胸やけ	80 在宅医療
25 リンパ節腫脹	53 腹痛	81 終末期のケア
26 発疹	54 便通異常 (下痢・便秘)	82 生活習慣
27 黄疸	55 肛門・会陰部痛	83 相補・代替医療 (漢方医療を含む)
28 発熱	56 熱傷	0 最新のトピックス・その他

お知らせ

日本医師会作成 院内掲示用ポスターについて

日本医師会では、2025年度に以下4点のポスターを作成しております。無料でダウンロードが可能ですので、下記URLまたは二次元コードよりダウンロードのうえ、待合室に掲示いただくなど、ご活用をお願いいたします。

<https://www.med.or.jp/people/opinion/000002.html>



OTC類似薬を保険適用外にすることの問題点を指摘したポスター 2点



カスハラへの注意喚起を目的としたポスター 2点



診療メモ



非心原性脳梗塞の二次予防： 抗血小板薬はこう使い分ける

宮崎大学医学部 臨床神経科学講座 脳神経外科学分野

かわ の とも ひろ
野 河 朋 宏

はじめに

近年の脳卒中死亡の内訳として脳梗塞が56.5%（脳出血：29.7%，くも膜下出血：11.2%，その他2.5%）を占めており、脳卒中治療の主役は脳梗塞といつても過言ではありません。また、脳梗塞の病型別内訳としては心原性脳梗塞栓症の27%に対して、ラクナ梗塞やアテローム血栓性脳梗塞、その他の脳梗塞など非心原性脳梗塞が73%と大部分を占めています。

非心原性脳梗塞の二次予防として抗血小板薬が主に使用されますが、適切に使用するには各薬剤の特徴や再発予防のペネフィットと出血リスクのバランスに留意する必要があります。

各血小板薬の特徴と使い分け（私見を含みます）

本邦で非心原性脳梗塞に対して使用する主な

抗血小板薬は、アスピリン、シロスタゾール、クロピドグレル、プラスグレルの4剤であり、それぞれに特徴があります（表1）。

一般的に使用頻度の高いアスピリンは急性期の脳梗塞再発絶対リスク減少は0.7%と小さく、慢性期においても2.5%程度です。再発予防には確かに有効ではあるもののその効果は限定的です。

シロスタゾールは他剤に少ない頭痛・動悸・頻脈の副作用が比較的高頻度で出現するため急性期の第一選択薬としては使いづらい側面がありますが、少量（50～100mg/日）から漸増することで副作用を回避できる場合があります。脳梗塞予防効果はアスピリンとほぼ同等で出血合併症は少ないため、出血リスクが高い患者で忍容性があれば使用を検討します。また、動脈

表1 各抗血小板薬の特徴

	アスピリン	シロスタゾール	クロピドグレル	プラスグレル
投与量	75～150mg/日	200mg/日	75mg/日	3.75mg/日
効果発現	・粉末、噛み碎くと30分 ・バイアスピリンは腸溶錠のため3～4時間	3～6時間	60～72時間	1～2時間
効果持続時間	7～10日	可逆的血小板凝集抑制＝48時間以内に効果消失	7～10日	7～10日
主な副作用	消化管出血	頭痛・動悸・頻脈（10～25%）	消化管出血（アスピリンよりはやや少ない可能性）	消化管出血

狭窄に対する血管拡張作用が期待されていますが、十分なエビデンスは確立されていません。さらに、抜歯や白内障手術などの小手術時には抗血小板薬内服は継続が望ましい一方、出血高危険度の消化管内視鏡治療の場合で血栓塞栓症の発症リスクが高い症例では、シロスタゾールへの置換を考慮します。他剤と比較して出血リスクの高い処置時の休薬期間はシロスタゾールにおいては1日間と短い点も重要です。

クロピドグレルはローディング投与（初回300mg）でなければ効果発現までに約3日を要することに注意が必要です。脳梗塞予防効果はアスピリンとほぼ同等です。薬物代謝酵素CYP2C19の遺伝子多型が関与することによって日本人を含むアジア人の20～30%に不応症が存在する点にも注意しなければなりません。

クロピドグレルと同様の機序で作用するプラグレルはCYP2C19の影響を受けず、効果発現が1～2時間と速いことが特徴です。虚血性脳血管障害後の再発抑制として使用されますが、適応は脳梗塞再発リスクが高い場合に限られます。

繰り返しになりますが、非心原性脳梗塞二次予防に関して抗血小板薬の明確なエビデンスはあるものの、絶対リスク低下率は小さく出血リスクとのバランスが重要です。すなわち出血リスクが高い患者では、無理に抗血小板薬を使用せず、動脈硬化リスク因子を厳重にマネージメントすることで二次予防を図る選択も考慮すべきです。脳梗塞予防効果については各薬剤間の差は小さく、効果発現までの時間や持続時間、副作用の頻度など特徴を把握して使い分けるこ

とが重要です。また、どの薬剤においても「開始後いつまで続けるべきか」に関する確立したエビデンスはありません。

抗血小板薬の併用について

抗血小板薬2剤併用（アスピリン+クロピドグレル）は、一過性脳虚血発作や軽症の非心原性脳梗塞患者の亜急性期（1か月以内）までの治療法として推奨されます（図1）。3剤以上の併用は出血リスクを高めるため推奨されません。また、慢性期の2剤併用は単剤と比較して有意な脳梗塞再発予防効果が示されておらず、むしろ出血性合併症のリスクが上回るため勧められません。ただし、単剤で脳梗塞を繰り返す、または複数の血管危険因子を有する場合には、出血リスクの少ないシロスタゾールを含む抗血小板薬2剤併用の長期継続は妥当です。

おわりに

非心原性脳梗塞の二次予防は、再発抑制と出血防止の両立を要します。生活習慣や動脈硬化因子の管理を併行し、各抗血小板薬の特徴を把握したうえで適応と期間を個別化し、単剤投与や2剤併用を状況に応じて使い分けることが最も重要です。

2. 抗血小板薬2剤併用（アスピリンとクロピドグレル）投与は、発症早期の軽症非心原性脳梗塞患者の、亜急性期（1か月以内を目安）までの治療法として勧められる（推奨度A エビデンスレベル高）。

宮大医学部学生のページ



タイでの研究室留学

宮崎大学医学部 医学科3年 佐川ひな

このたび、私は1か月間、タイ南部のハートヤイに位置するプリンス・オブ・ソンクラ大学（Prince of Songkla University）の研究室に留学する機会を頂きました。私は受験生のときからこの宮崎大学医学部の海外留学プログラムに参加したいという思いがありました。また、将来的に臨床の中で海外と関わる機会を持ちたいという思いもあり、今回の留学を志望しました。

留学中には法医学、免疫・感染症の研究室に配属させていただきました。実験手技や施設などは日本の大学と共通する部分も多くありましたが、その進められ方は私にとって大きな刺激となりました。特に印象的だったのは、研究に関するコミュニケーションがすべて英語で行われていたことです。

研究室のミーティング、進捗報告、スライド資料、質疑応答すべてが英語で進行していました。タイの医学生は、講義は母国語で受けていますが、使用している教科書の多くは英語であると聞きました。教授、研究者、大学院生にとっては「英語で説明すること」が前提となっていて、研究室に関わる人たちは母国語と英語の二言語を自然に使い分けていました。私は日本で英語学習にある程度取り組んできたつも

りでしたが、実際に現地で研究に参加してみると、日常会話だけでなく、専門的な内容を正確に表現し、議論に加わるための英語運用力がまだ不十分であることを痛感しました。

免疫・感染症の研究室では、私自身も研究の途中経過を研究室のミーティングで発表する機会を頂きました。慣れない環境での発表に緊張しましたが、研究室のメンバーは私の発表内容を理解しようと真剣に耳を傾けてくださいました。その後の研究員と教授のディスカッションでは、研究の仮説設定や結果の数値の考察について鋭い質問が飛び交っていました。学部生である私にとっては難しい内容も多くありましたが、研究の難しさや教授の視野の広さを感じました。

また、言語が人と人との距離に与える影響の大きさも実感しました。研究室内だけでなく、街中や移動中でも、共通の言語があるだけで世界は一気に広がります。例えば、帰国の飛行機で隣席になったマレーシア人の女性と交わした些細な会話は、知らない世界を知ることができた温かい時間でした。私がタイで“外国人”として生活する中で感じた“話しかけてもらえることの嬉しさ”は、言語がもつ温かさそのもの

でした。

今回の留学を通して、私は“英語ができるかどうか”は単なる能力の問題だけではなく、“どれだけ世界に開いた姿勢を持てるか”という態度の問題でもあると考えるようになりました。自分は英語が得意だとどこかで慢心していましたが、世界に出てみると、それは特別ではなく、あくまでスタート地点に過ぎず、むしろ、“その言語でどれだけ相手と心を通わせられるか”が重要であると気づかされました。

今後は、6年次で予定されている臨床交換留学に向けて、医学知識はもちろん、英語による説明力・議論力をより高めたいです。また、英

語以外の言語にも挑戦したいと考えています。ある言語を話す人々と同じ言葉で会話できることは、相互理解を深め、関係性をより豊かにしてくれると感じました。

今回の留学を支えてくださった大学の先生方、現地で温かく迎えてくださった研究室の教授・学生の皆様に深く感謝申し上げます。今回の経験は、将来医師として働く際の価値観に確かに影響を与えました。今後も固定観念にとらわれることなく、柔軟に学び続け、異なる文化や考え方に対して開かれた姿勢を持ち続けていきたいと考えています。



免疫・感染症の研究室にてクミンの毒性実験をしている様子



大学の国際サークルのプロイさんとパンくん
現地でたくさんお世話になりました

令和7年 総目次 (No.905~No.916)

【表 紙】

道	宮崎市	大迫文子(会員家族)	1月号
丘の上のキタキツネ	都城市	山路 健	2月号
飛行機雲	都城市	淵脇 和男	3月号
五所稻高の桜	綾町	玉置 昇	4月号
トンネルを抜けると	宮崎市	佐々木 究	5月号
飫肥城大手門	宮崎市	大西敦子(会員家族)	6月号
風車の見える水辺の風景	宮崎市	黒川 基樹	7月号
爛渢訪周公美不值 (漢詩)	延岡市	平野佳芳(会員家族)	8月号
日 没	高鍋町	大森 史彦	9月号
かわいいミ~ちゃん	都城市	酒井桂子(会員家族)	10月号
干し柿はじめ	日南市	福岡周司	11月号
帰路に就くエゾジカ	都城市	山路 健	12月号
		会長 河野 雅行	

【会長のページ】

年頭所感		1月号
温故知新		2月号
大阪・関西万博		3月号
温泉と健康		4月号
医政 (再)		5月号
幸福度		6月号
災害時医療 (再)		7月号
予報・予測		8月号
医療安全・身の安全		9月号
2040年問題		10月号
地域医療の原点		11月号
気温と人体		12月号

【日州医談】

新たな地域医療構想	常任理事	池 井 義 彦	2月号
魅力ある学校医（地域での役割とやりがい）	常任理事	高 木 純 一	3月号
医療DXに備えて	常任理事	嶋 本 富 博	4月号
県内医師会共同利用施設について	常任理事	赤 須 郁太郎	5月号
宮崎県医師会「医師会組織強化・将来構想委員会」設置と活動報告（10か月）	常任理事	大 塚 康二朗	6月号
地域医療・介護体制の課題と展望	常任理事	吉 見 雅 博	7月号
宮崎刑務所視察委員会とは	常任理事	玉 置 昇	8月号
2025年4月6日に発生した医療搬送用ヘリコプターの墜落事故を受けてのドクターヘリの動きについて	常任理事	落 合 秀 信	9月号
スーツケース感染症（蚊媒介輸入感染症）にどう備えるか	理 事	峰 松 俊 夫	10月号
医師国保のメリット	理 事	佐々木 究	11月号
女性医師の管理職登用について～多様な視点での意思決定につなげるために～	理 事	上 山 貴 子	12月号

【挨 捶】

年頭所感	日本医師会長	松 本 吉 郎	1月号
年頭所感	顧 問	秦 喜八郎	1月号
年頭所感	顧 問	稻 倉 正 孝	1月号
年頭所感	宮崎市郡医師会長	高 村 一 志	1月号
年頭所感	都城市北諸県郡医師会長	田 口 利 文	1月号
年頭所感	延岡市医師会長	佐 藤 信 博	1月号
年頭所感	日向市東臼杵郡医師会長	今給黎 承	1月号
年頭所感	児湯医師会長	北 村 洋	1月号
年頭所感	西都市西児湯医師会長	松 本 英 裕	1月号
年頭所感	南那珂医師会長	中 村 彰 伸	1月号
年頭所感	西諸医師会長	内 村 大 介	1月号
年頭所感	西臼杵郡医師会長	植 松 昌 俊	1月号

年頭所感	宮崎大学医学部医師会長	賀 本 敏 行	1月号
年頭所感	内 科 医 会 長	比 嘉 利 信	1月号
年頭所感	小 児 科 医 会 長	高 木 純 一	1月号
年頭所感	外 科 医 会 長	白 尾 一 定	1月号
年頭所感	整形外科医会長	川 越 正 一	1月号
年頭所感	皮 膚 科 医 会 長	西 田 隆 昭	1月号
年頭所感	産婦人科医会長	川 越 靖 之	1月号
年頭所感	泌尿器科医会長	福 田 聰一郎	1月号
年頭所感	眼 科 医 会 長	中 村 彰 伸	1月号
年頭所感	耳鼻咽喉科医会長	坪 井 康 浩	1月号
年頭所感	精神科医会長	吉 田 建 世	1月号
年頭所感	放射線科医会長	杜 若 陽 祐	1月号
年頭所感	東 洋 医 会 長	川 越 宏 文	1月号
年頭所感	透 析 医 会 長	藤 元 昭 一	1月号
年頭のご挨拶	宮 崎 県 知 事	河 野 俊 嗣	1月号
年頭のご挨拶	宮 崎 大 学 長	鮫 島 浩	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(1区)	渡 辺 創	1月号
年頭のご挨拶	農林水産大臣・衆議院議員(2区)	江 藤 拓	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(3区)	古 川 稔 久	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(比例)	長 友 慎 治	1月号
年頭のご挨拶	参 議 院 議 員	松 下 新 平	1月号
年頭のご挨拶	参 議 院 議 員	長 峯 誠	1月号
年頭のご挨拶	参 議 院 議 員	羽生田 俊	1月号
年頭のご挨拶	参 議 院 議 員	自 見 はなこ	1月号
宮崎大学医学部 医学部長就任挨拶	宮崎大学医学部長	盛 武 浩	1月号

【退任教授挨拶】

宮崎大学医学部 感覚運動医学講座 皮膚科学分野

教 授 天 野 正 宏 7月号

【就任教授挨拶】

宮崎大学医学部 臨床神経科学講座 精神医学分野

教 授 平 野 羊 嗣 3月号

【隨想・隨筆】

壊れし日本の医師たちへー Broken medical system in Japan

日南市 北 村 和 生 1月号

仕事は薬 宮崎市 谷 口 二 郎 3月号

延岡市の銘菓を訪ねて 延岡市 石 橋 俊 秀 3月号

戦いすんで日が暮れてー Personal commentaries on the “COVID-19/Flu wars”ー

日南市 北 村 和 生 3月号

人との出逢い：恩師，友人の思い出 その4 熊本大学理学部乙入学

宮崎市 森 憲 正 4月号

しゃくなげの森 延岡市 石 橋 俊 秀 4月号

老衰へのあこがれ 宮崎市 谷 口 二 郎 5月号

綾の照葉大吊橋と龍の扉 延岡市 石 橋 俊 秀 5月号

贅沢な時間 日南市 山 口 和 正 6月号

広がる代行サービス 宮崎市 谷 口 二 郎 6月号

日本一の石段と二股橋 延岡市 石 橋 俊 秀 6月号

私と音楽とのさまざまな出会い 都城市 内 田 恒 久 9月号

都城志布志道路全線開通によせて 都城市 柳 田 喜美子 9月号

愛犬は飼い主の夢を見るか？ (Rhapsody編) – Adieu! Changii (Part 1)

日南市 北 村 和 生 9月号

火葬場のうらばなし 宮崎市 谷 口 二 郎 9月号

行縢山登山 延岡市 石 橋 俊 秀 9月号

高校野球大好きドクター 宮崎市 山 田 琢 也 10月号

愛犬は飼い主の夢を見るか？ (Requiem編) – Adieu! Changii (Part 2)

日南市 北 村 和 生 10月号

郵便受けからのメッセージ 宮崎市 谷 口 二 郎 10月号

猪八重渓谷 延岡市 石 橋 俊 秀 10月号

ハーバード大学医学部教授隨行記 日南市 山 口 和 正 11月号

老いに気付くとき 宮崎市 谷 口 二 郎 11月号

パックン岩 延岡市 石 橋 俊 秀 11月号

ケチの神様

宮崎市 谷 口 二 郎 12月号

津久見市観光

延岡市 石 橋 俊 秀 12月号

【新春隨想・俳壇・歌壇・川柳・絵画】

正月の想い出

川南町 宮 尾 雄 治 1月号

老いと生き方

延岡市 宝珠山 厚 生 1月号

礼 状

宮崎市 高 崎 真 弓 1月号

小さなボランティア

宮崎市 谷 口 二 郎 1月号

ギャンブル依存症

延岡市 安 藤 誠 1月号

オペラが好き

高鍋町 大 森 史 彦 1月号

日々感謝

宮崎市 田 中 宏 幸 1月号

ポインターを作る

宮崎市 田 中 善 久 1月号

また歳をとる

宮崎市 石 坂 裕司郎 1月号

2025年問題 到来

小林市 竹之内 剛 1月号

この時期に思い悩むこと

宮崎市 海 北 幸 一 1月号

宮崎の空

宮崎市 岡 田 守 生 2月号

魂呼び

延岡市 長 沼 弘三郎 2月号

還暦に寄せて—ネット詐欺

都城市 前 田 嘉 子 2月号

愛子さまと和歌と祖母の想い出

日南市 武 内 正 紀 2月号

ダルマ会

日向市 堀之内 和 代 2月号

日向ひょっこ夏祭り2024

延岡市 石 橋 俊 秀 2月号

自己家畜化と生成AI

宮崎市 早 稲 田 芳 男 2月号

ネットカフェ宿泊体験記

三股町 畠 中 道 己 2月号

趣味になるのかな？

高鍋町 鳥 原 康 治 2月号

昭和からしぶとく生き残るモノクロのアイツ

日向市 高 石 真那斗 2月号

抗老化

都城市 原 田 健 一 2月号

【はまゆう隨筆・短歌・俳句】

奴らは群れでやって来る

日南市 北 村 和 生 7月号

米国胸部学会ATS 2025サンフランシスコ参加報告

日之影町 重 永 哲 洋 7月号

春夏秋冬は永遠に続くか？

宮崎市 田 中 宏 幸 7月号

ネズミの実験	延岡市	塚 本 創一郎	7月号
小旅行-2	宮崎市	小 澤 仁 雄	7月号
じやがいもと私	宮崎市	田 島 直 也	7月号
「君の名は？」	宮崎市	南 嶋 洋 一	8月号
トタン屋根の診療所	西都市	大 塚 和 子	8月号
“オーイ， オーイ”	延岡市	長 沼 弘三郎	8月号
後期高齢者同士の飲み会	宮崎市	谷 口 二 郎	8月号
ある歌手の死	高鍋町	大 森 史 彦	8月号
早馬まつりと関之尾滝	延岡市	石 橋 俊 秀	8月号
祖父の思い出	都城市	前 田 嘉 子	8月号

【特 集】

令和6年度第55回全国学校保健・学校医大会

宮崎県医師会 学校保健担当理事 高 木 純 一 2月号

【寄 稿】

地震に備える	宮崎市	谷 口 二 郎	2月号
うつ病の症状と診断について～DSM5と罹病体験を含めての再学習～			
	宮崎市	友 成 久 雄	2月号

【叙位・叙勲】

令和6年1月～12月までの叙勲及び・表彰・祝賀受賞会員			1月号
旭日双光章	宮崎市郡医師会	山 村 善 教	6月号
瑞宝双光章	延岡市医師会	小 池 祐 一	6月号
旭日双光章	宮崎市郡医師会	原 田 雄 一	12月号
瑞宝小綬章	宮崎市郡医師会	石 川 正	12月号
瑞宝双光章	日向市東臼杵郡医師会	稻 原 明 肆	12月号

【表彰・祝賀】

労働基準行政関係功労により厚生労働大臣表彰	都城市北諸県郡医師会	林 要 人	1月号
公衆衛生事業功労により宮崎県知事表彰	宮崎市郡医師会	三 原 敬	3月号
公衆衛生事業功労により宮崎県知事表彰	都城市北諸県郡医師会	義 川 剛太郎	3月号
公衆衛生事業功労により宮崎県知事表彰	延岡市医師会	丸 山 洋一郎	3月号

公衆衛生事業功労により宮崎県知事表彰	西都市西児湯医師会	兒 玉 健 二	3月号
公衆衛生事業功労により厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	海老原 爲 博	3月号
公衆衛生事業功労により厚生労働大臣表彰	延岡市医師会	木 下 義 美	3月号
公衆衛生事業功労により厚生労働大臣表彰	西都市西児湯医師会	大 塚 和 子	3月号
公衆衛生事業功労により一般財団法人日本公衆衛生協会長表彰	都城市北諸県郡医師会	坂 口 健次郎	3月号
公衆衛生事業功労により一般財団法人日本公衆衛生協会長表彰	延岡市医師会	佐 藤 信 博	3月号
医療功労により県知事表彰	宮崎市郡医師会	高 村 一 志	7月号
医療功労により県知事表彰	都城市北諸県郡医師会	樋 原 進一郎	7月号
医療功労により県知事表彰	延岡市医師会	平 野 雅 弘	7月号
医療功労により県知事表彰	日向市東臼杵郡医師会	松 岡 敬 子	7月号
医療功労により県知事表彰	児 湯 医 師 会	内 田 俊 浩	7月号
医療功労により県知事表彰	西都市西児湯医師会	上 野 尚 美	7月号
医療功労により県知事表彰	南那珂医師会	外 山 望	7月号
労働基準行政関係功労者に対する厚生労働大臣感謝状	宮崎市郡医師会	永 吉 洋 次	8月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	宮崎市郡医師会	井 手 勝 彦	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	宮崎市郡医師会	小 緑 英 行	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	宮崎市郡医師会	杉 田 新	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	宮崎市郡医師会	福 永 隆 幸	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	都城市北諸県郡医師会	木 村 健	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	都城市北諸県郡医師会	濱 田 圭 一	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	都城市北諸県郡医師会	宮 田 和 典	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	延岡市医師会	高 尾 雄 平	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	延岡市医師会	野 田 寛	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	延岡市医師会	林 田 中	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	日向市東臼杵郡医師会	家 村 文 夫	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	日向市東臼杵郡医師会	中 村 剛 之	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	西都市西児湯医師会	黒 木 重 晶	10月号
救急医療事業功労により県知事表彰	宮崎市郡医師会	今 村 卓 郎	10月号
救急医療事業功労により県知事表彰	都城市北諸県郡医師会	森 山 拓 造	10月号

救急医療事業功労により県知事表彰	延岡市医師会	押領司 篤 茂	10月号
救急医療事業功労により県知事表彰	日向市東臼杵郡医師会	中 平 孝 明	10月号
救急医療功労により厚生労働大臣表彰	延岡市医師会	長 沼 弘三郎	10月号
産科医療功労により厚生労働大臣表彰	西臼杵郡医師会	寺 尾 公 成	10月号
国民健康保険事業により国民健康保険中央会表彰	宮崎市郡医師会	田 畑 直 人	12月号
国民健康保険事業により国民健康保険中央会表彰	宮崎市郡医師会	川 越 宏 文	12月号
国民健康保険関係功績により厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	中 崎 秀 二	12月号
国民健康保険関係功績により厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	姫 路 大 輔	12月号
学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰	都城市北諸県郡医師会	濱 田 義 臣	12月号
学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰	西 諸 医 師 会	長 井 章	12月号
労働基準行政関係功労により厚生労働大臣表彰	宮崎大学医学部医師会	落 合 秀 信	12月号
労働基準行政関係功労により厚生労働省労働局長表彰	西 諸 医 師 会	田 原 徳 人	12月号

【あなたできますか?】各 号

【エコー・リレー】

ヘッドギア?	小林市	遠 藤 穂 治	1月号
推し活	宮崎市	長 井 慎 成	1月号
なぞの王国 ヤマタイ	延岡市	赤 須 郁太郎	2月号
部活動の思い出	日向市	直 野 秀 和	2月号
時代が追いついた!?	西都市	大 塚 康二朗	3月号
耳鼻科のポリクリ	宮崎市	松 田 圭 二	3月号
悶々とする日々	川南町	山 中 聰	4月号
柚子の木の剪定に思う	高千穂町	佐 藤 祐 二	4月号
苦しいのにやめられない	都城市	吉 見 雅 博	5月号
内科なのでメスではなく半田ごて	宮崎市	鈴 木 斎 王	5月号
将棋 ○ 将棋 ● 将棋	都城市	西 浦 勇一郎	6月号
高齢者のひとりごと	宮崎市	岡 本 剛	6月号
音楽で結ばれた家族の絆	都城市	小山田 剛	7月号
宮崎市四社参り	日南市	長 友 安 弘	7月号
今の医学科の学生は	日向市	稻 原 芳 生	8月号

猛暑の夏の悪夢	延岡市	前 田 資 雄	8月号
医療環境に思うこと	日向市	稻 原 明 肆	9月号
目 標	三股町	小 牧 文 雄	9月号
クリニック建築のはなし	宮崎市	石 合 理 崇	10月号
思えば遠くへ来たもんだ	高鍋町	崎 濱 國 治	10月号
7月5日の大災難	宮崎市	杉 田 直 大	11月号
熊のいる山いない山	日南市	井 手 秀 幸	11月号
私の習慣	宮崎市	金 田 和 豊	12月号
山に挑み、山に救われる	都城市	佐 藤 新 五	12月号

【宮崎グルメ探訪】

No.15 tabibitoキッチン	宮崎市	稻 倉 琢 也	8月号
--------------------	-----	---------	-----

【旅行記】

日本縦断ドライブ その1	宮崎市	高 崎 真 弓	10月号
日本縦断ドライブ その2	宮崎市	高 崎 真 弓	11月号

【メディアの目】

105歳の郷土画家が描いた桜	MRT宮崎放送 報道部長	清 藤 太 輔	2月号
キャンプ地宮崎で県外ファンが望むもの	日本経済新聞社 宮崎支局長	曾 我 真粧巳	3月号

「ヴィアマテラス宮崎」快進撃を支えた地域との絆

NHK宮崎放送局 コンテンツセンター長	今 村 史 子	4月号	
宮崎での出会い 山、川と生き物たち	朝日新聞 宮崎総局長	後 藤 たづ子	5月号
移住者の課題は雇用、教育	共同通信社 宮崎支局長	満 野 龍太郎	6月号
ブタカツのすすめ～トンカツと、もうひとつの幸福論～			
時事通信社 宮崎支局長	前 田 憲 之	7月号	
長嶋さんと宮崎	読売新聞 宮崎支局長	村 岡 経 世	8月号
ガザのポリオ停戦	西日本新聞 宮崎支局長	神 屋 由紀子	9月号
地域ぐるみで支える	毎日新聞 宮崎支局長	加 藤 学	10月号
初めての入院、初めての断テレビ、初めてのオールネット社会			
テレビ宮崎 コンテンツプロデュース局長 兼 報道部長	寺 田 健 吾	11月号	

高千穂通り車暴走から10年

宮崎日日新聞社編集局 次長 兼 報道部長 黒木裕司 12月号

【身近なお困りごと相談室】

第40回：離婚争い中のカルテ開示請求について

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 1月号

第41回：予防接種（子宮頸がんワクチン）キャンセルの場合の費用負担について

宮崎市 親子保健課・健康支援課 2月号

第42回：医薬品の供給不足について

一般社団法人 宮崎県薬剤師会 副会長 青木浩朗 3月号

第43回：パワーハラスマントと主張する職員について

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 3月号

第44回：DNARの範囲と限界について

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 4月号

第45回：他院への情報提供と個人情報保護法

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 5月号

第46回：閉院に関する実務的課題

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 6月号

第47回：新聞記事の院内広報について

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 7月号

第48回：看護師に対する貸与金について

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 8月号

第49回：患者に対する説明義務対策について

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 9月号

第50回：九州大学病院における説明義務違反事例について

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 10月号

第51回：秘密録音の禁止について

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 11月号

第52回：一般内科診療の際のセクハラ問題について

宮崎県医師協同組合顧問弁護士 高山桂 12月号

【私の本】

二つの道 医学と文学で

宮崎市 大 西 雄 二 6月号

【宮崎県感染症発生動向】

各 号

【日赤だより】

7月30日より、細菌スクリーニングを導入した新規血小板製剤の供給が開始されました

宮崎県赤十字血液センター 9月号

献血へ血液確保へのご協力をお願いします

宮崎県赤十字血液センター 10月号

「活動資金」へのご協力のお願い

日本赤十字社宮崎県支部 11月号

寄付を通じて思いを託す

日本赤十字社宮崎県支部 12月号

【都市医師会だより】

宮崎大学医学部医師会

会 長 賀 本 敏 行 2月号

都城市北諸県郡医師会

理 事 三 嶋 和 也 2月号

延岡市医師会

会 長 佐 藤 信 博 3月号

日向市東臼杵郡医師会

理 事 田 代 慎二郎 4月号

児湯医師会

理 事 宮 尾 雄 治 5月号

西都市西児湯医師会

理 事 杉 尾 克 徳 6月号

南那珂医師会

会 長 中 村 彰 伸 7月号

西諸医師会

理 事 吉 村 雄 樹 8月号

西臼杵郡医師会

会 長 植 松 昌 俊 9月号

宮崎大学医学部医師会

会 長 賀 本 敏 行 10月号

宮崎市郡医師会

会 長 高 村 一 志 11月号

都城市北諸県郡医師会

理 事 河 野 仁 彦 12月号

【国公立病院だより】

日南市立中部病院

院 長 中津留 邦 展 3月号

日之影町国民健康保険病院

院 長 上 田 修 三 5月号

えびの市立病院

院 長 河 内 謙 介 7月号

宮崎大学医学部附属病院

病院長 賀 本 敏 行 9月号

都農町国民健康保険病院

院 長 吉 村 学 11月号

【宮崎大学医学部だより】

内科学講座 呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野	医局長	宮 内 俊 一	2月号
宮崎大学医学部附属病院 藥剤部	教 授	池 田 龍 二	3月号
感觉運動医学講座 顎顔面口腔外科学分野	教 授	山 下 善 弘	4月号
機能制御学講座 蛋白質機能学分野	教 授	和 田 啓	5月号
感觉運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	医局長	中 村 雄	6月号
血液・血管先端医療学講座	教 授	鶴 田 敏 博	7月号
病理学講座 構造機能病態学分野	教 授	山 下 篤	8月号
医療安全管理部	教 授	綾 部 貴 典	9月号
発達泌尿生殖医学講座 産婦人科学分野	教 授	桂 木 真 司	10月号
宮崎大学附属図書館医学分館	分館長	桂 木 真 司	11月号
病態解析医学講座 救急・災害医学分野	教 授	落 合 秀 信	12月号

【専門分科医会だより】

産婦人科医会	会 長	川 越 靖 之	3月号
透析医会	会 長	藤 元 昭 一	4月号
耳鼻咽喉科医会	会 長	坪 井 康 浩	5月号
泌尿器科医会	会 長	福 田 聰一郎	6月号
放射線科医会	会 長	杜 若 陽 祐	8月号
小児科医会	会 長	高 木 純 一	10月号
内科医会	常任理事	玉 置 昇	11月号
東洋医会	会 長	川 越 宏 文	12月号

【部会だより】

労災部会	部会長	佐 藤 信 博	7月号
園医部会	部会長	高 山 修 二	9月号

【報告（宮崎県医師会各種委員会）】

医学賞選考委員会	1月号
介護保険委員会	3月号
勤務医委員会	3月号
医学会誌編集委員会	4月号

救急災害医療対策委員会	5月号
健康スポーツ医学委員会	9月号
健康教育委員会	9月号
医学会誌編集委員会	11月号

【報告（諸会議）】

第2回各都市医師会長協議会	1月号
令和6年度女性医師支援・ドクターバンク連携九州ブロック会議	1月号
九州各県医師会勤務医担当理事連絡協議会	1月号
九州医師会連合会令和6年度第1回各種協議会	1月号
九州医師会連合会第419回常任委員会	1月号
令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会	1月号
令和6年度医師会立看護学校担当理事連絡協議会	2月号
九医連第128回臨時委員総会	2月号
九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員会合同協議会	2月号
第124回九州医師会総会・医学会	2月号
宮崎県医師会創立136周年記念医学会	4月号
九州医師会連合会第420回常任委員会	4月号
宮崎県医師会医学会役員会	5月号
九州医師会連合会令和6年度救急・災害医療担当理事連絡協議会	5月号
第9回九州ブロック災害医療研修会	5月号
九州医師会連合会令和6年度第2回各種協議会	5月号
九州医師会連合会勤務医連絡協議会	5月号
令和7年度都道府県医師会広報担当理事連絡協議会	7月号
宮崎県臨床研修医説明会・講演会/新研修医祝賀会	8月号
第182回宮崎県医師会定例代議員会（概要）	8月号
令和7年度第82回宮崎県医師会総会	8月号
九州医師会連合会第421回常任委員会	8月号
九州ブロック日医代議員連絡会議	8月号
令和7年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会	8月号

九州医師会連合会第422回常任委員会	9月号
九州医師会連合会第423回常任委員会	9月号
九州医師会連合会第424回常任委員会	10月号
第129回九州医師会連合会定例委員総会	10月号
九州医師会連合会第425回常任委員会	11月号
令和7年度女性医師支援・ドクターバンク連携九州ブロック会議	12月号
九州医師会連合会令和7年度第1回勤務医連絡協議会	12月号
九州医師会連合会令和7年度第1回連絡協議会	12月号
全国医師会医療秘書学院連絡協議会第75回定例総会・令和7年度第1回運営委員会	12月号
第2回各都市医師会長協議会	12月号

【報告（その他）】

第26回宮崎県医師会医家芸術展	10月号
宮崎県医師会親善ゴルフ大会	12月号

【宮崎県医師協同組合だより】

医師協同組合の事業内容について	1月号
医師協同組合取扱い保険について	3月号
医師協同組合の事業内容について	5月号
休診共済のご案内～医師の休業を補償します～	7月号
宮崎県医師協同組合 第41回通常総代会	8月号
宮崎県医師協同組合 創立40周年記念行事のご案内	9月号
宮崎県医師会グループ保険（団体定期保険）から全国型グループ保険制度（日本医師休業共済会）への移行について	9月号
宮崎県医師協同組合からのお知らせ	10月号
『クレーム対応費用保険』をご存じですか？	11月号

【宮崎県医師国保組合だより】

保険料納付済証明書について	2月号
令和7年度国民健康保険料賦課額について	4月号
国民健康保険法第116条の届出について	4月号
「第25回歩こう会」に参加して	宮崎市 河 原 勝 博 5月号

宮崎県医師国民健康保険組合第132回通常組合会	5月号
保健事業のご案内	6月号
医師国保組合加入者の所得調査について	8月号
宮崎県医師国民健康保険組合第133回通常組合会	9月号

【追悼のことば】

志戸本 宗 徳先生	西諸医師会	4月号
-----------	-------	-----

【ニューメンバー】

久 保 環 (くぼ たまき)	西都市	1月号
大久保 和 樹 (おおくぼ かずき)	新富町	7月号
船 元 太 郎 (ふなもと たろう)	宮崎市	8月号
眞 川 昌 大 (さながわ まさひろ)	宮崎市	8月号
西 本 紘嗣郎 (にしもと こうしろう)	宮崎市	10月号
新 宮 正 巳 (しんぐう まさみ)	宮崎市	12月号

【診療メモ】

遺伝性網膜ジストロフィに対する遺伝子治療

宮崎大学医学部 感覚運動医学講座 眼科学分野 池 田 康 博 1月号

がんの痛みに対するオピオイド（医療用麻薬）治療の変遷

宮崎医療センター病院 緩和ケアセンター 高 橋 稔 之 2月号

令和6年度診療報酬改定に伴う「人生会議（ACP）」の誤解と混乱

宮崎大学医学部 社会医学講座 生命・医療倫理学分野
宮崎大学医学部附属病院 中央診療部門臨床倫理部 板 井 孝壱郎 3月号

低用量ピル 県立宮崎病院 産婦人科 兼 地域医療科 高 村 一 紘 4月号

自験例を含めたいわゆる「浴槽内死亡」についての小考察

中山医院 中 山 健 4月号

社交不安症について 宮崎大学医学部 看護学科 吉 永 尚 紀 5月号

骨粗鬆症 ふなもと整形外科 船 元 太 郎 6月号

宮崎県脳卒中・心臓病等総合支援センター事業

宮崎県脳卒中・心臓病等総合支援センター 脳卒中部門 田 村 充 元 6月号

通院患者死亡時の警察対応と医師の留意点

MKクリニック
宮崎県警察医会幹事 柳田 美津郎 7月号

アトピー性皮膚炎について いきめ皮膚科 帖佐 宣昭 8月号

自験例を含むいわゆる「独居死」についての小考察 中山医院 中山 健 8月号

子どもの健やかな成長のために妊婦さんから睡眠教育を～睡眠は心と体の栄養～

はるやま医院 矢野 美由紀 9月号

アルドステロン產生病変の可視化

にしもと泌尿器科・内科・人工透析内科 西本 紘嗣郎 10月号

冬の感染症について 県立宮崎病院 内科 山中 篤志 11月号

非心原性脳梗塞の二次予防：抗血小板薬はこう使い分ける

宮崎大学医学部 臨床神経科学講座 脳神経外科学分野 河野 朋宏 12月号

【宮大医学部学生のページ】

第20回宮崎大学清花祭～歌舞歓楽～ 宮崎大学医学部 医学科4年 小天 迫勇 太力 1月号

これから地域医療 宮崎大学医学部 医学科5年 金城 由歩 2月号

部活動紹介～MUMET～ 宮崎大学医学部 医学科3年 坂口 優羽 3月号

医師国家試験と国試対策委員会の活動

宮崎大学医学部 医学科5年 相良 賢汰 4月号

現在の宮崎大学医学部について 宮崎大学医学部 医学科5年 宮本 貴由樹 5月号

令和7年度新歓委員会からのご報告 宮崎大学医学部 医学科4年 阿波根 直杜 6月号

部活動紹介～軟式テニス部～ 宮崎大学医学部 医学科3年 日高 想大 7月号

音楽祭実行委員長よりご報告

第22回宮崎大学医学部音楽祭実行委員会 実行委員長 横山 美緒 8月号
宮崎大学医学部 医学科4年

室内楽部活動紹介 宮崎大学医学部 医学科3年 笹田 佳歩 9月号

学生生活のご紹介 宮崎大学医学部 医学科3年 竹森 さくら 10月号

宮崎大学学園祭 第21回清花祭

清武祭清武キャンパス実行委員長 大出水 幹 11月号

タイでの研究室留学 宮崎大学医学部 医学科3年 佐川 日菜 12月号

【その他】

宮崎県国民健康保険診療報酬審査委員会委員名簿（医科）	2月号
社会保険診療報酬請求書審査委員会委員名簿（医科）	7月号
令和7年総目次	12月号

【お知らせ】

日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています	各号
都市医師会への送付文書	各号
宮崎県医療勤務環境改善支援センター	各号
日州医事原稿募集のお知らせ	各号
令和7年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生採用のお願い	1, 2, 4~12月号
医師の求人・求職は日本医師会女性医師バンクをご利用ください！	1, 3, 6~9月号
日本医師会医師年金ご加入のおすすめ	1, 3, 6, 8, 9, 11, 12月号
宮崎県医師会マーリングリストのご案内	1, 4, 8, 10, 12月号
カット・イラストの募集	1, 2月号
勤務医・研修医の先生へお知らせ～春の異動シーズンに備えて～（医師会・医師協同組合）	3月号
第26回宮崎県医師会医家芸術展作品募集！	4, 5月号
2025年4月より認定産業医・認定健康スポーツ医の各種手続きにはMAMISの登録完了が必要です	4月号
令和7年度宮崎県医師会諸会費について	4月号
宮崎県糖尿病発症予防・糖尿病性腎症重症化予防の取組みに係る医療機関対象調査について	4月号
地球温暖化防止対策（クールビズ）の実施について	5~10月号
「はまゆう随筆」原稿募集	5, 6月号
宮崎県医師会・医師国保組合・医師協同組合事務職員配置	5月号
第22回宮崎大学医学部音楽祭	6月号
第9回生命を見つめるフォト＆エッセー作品募集	7~9月号
第26回宮崎県医師会医家芸術展	7, 8月号
MAMIS稼働にあたっての留意点	7月号
県警察本部等との連携協定を締結	8月号
日本医師会作成 院内掲示用ポスターについて	9, 10, 12月号
日医ペイハラ・ネット相談窓口を開設しました	10~12月号

「新春隨想」原稿募集 10, 11月号

宮崎の偉人 高木兼寛公の功績を未来へ。顕彰演劇「須く、一歩進む」ご協賛のお願い 12月号

年末・年始の休館について 12月号

【ご案内】

宮崎県医師会臨床研究倫理審査事業の開始について 4, 5月号

令和7年度第82回宮崎県医師会総会 5月号

宮崎県医師会親善ゴルフ大会 8月号

宮崎県医師会臨床研究倫理審査事業について 8月号

宮崎県医師会メーリングリストのご案内

宮崎県医師会では「MMA通信」と「MMA交流（会員交流用）」の2本立てでのメーリングリストの運用をしています。

◆MMA通信

目的：県医師会から会員への情報提供（各種通知文書、研修会の案内など）

対象：会員本人、医療機関代表のアドレスなど

◆MMA交流

目的：会員同士の意見交換、会員からの情報提供

対象：会員本人のみ

◆登録方法について

県医師会事務局宛 office@miyazaki.med.or.jpにメールを送信してください。

折り返し、事務局から登録に関するメールを送信いたします。

災害が発生した場合、情報の収集および発信手段は複数確保することが必要です。

まだ登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

お問い合わせ先：宮崎県医師会 学術広報課

TEL 0985-22-5118

お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧いただくか、所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要ですので、県医師会地域医療課（TEL 0985-22-5118）にお問い合わせください。

またMMA通信（県医師会から会員への情報提供メーリングリスト）でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員の方はぜひご登録をお願いします。

送付日	文 書 名
10月31日	<ul style="list-style-type: none"> 「5学会による新型コロナウイルス感染症診療の指針」の周知について 高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う防疫作業従事者の発熱時の診療対応について（依頼） 第31回（令和7年度）日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会の開催について 厚生労働省令和7年度介護デジタル中核人材養成に向けた調査研究事業一式応募者多数につき「デジタル中核人材養成研修」の増設のお知らせ 令和7年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業」における「本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会」（第2回及び第3回）の実施について 令和7年度乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間の実施について 令和7年度「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」の実施について（協力依頼） 医療安全推進週間（11月23日～11月29日）について 業務用厨房施設における一酸化炭素中毒事故の防止について（周知依頼） 使用薬剤の薬価（薬価基準）の一部改正等について ペレマゲンゲペルパベク製剤に係る最適使用推進ガイドラインの策定に伴う留意事項について 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第四十九条第一項の規定に基づき厚生労働大臣の指定する医薬品の取扱い等について（通知）
11月4日	<ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカード活用等に向けた積極的な御協力のお願いについて（依頼） 救急医療に係る各種調査について 令和6年度九州学校検診協議会活動報告書について（送付） 医療機関等におけるレセプト請求及び受領委任払いを行う柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の施術所等における療養費請求に関する資格情報確認の留意事項について（周知依頼）
11月7日	<ul style="list-style-type: none"> 医療費控除に係るマイナポータル連携を活用した確定申告手続の周知について（周知協力依頼） 令和7年度「働く女性の健康支援事業」（厚生労働省委託事業）における作成資料の周知等への協力について（ご依頼） 令和7年度犯罪被害者月間にに関する啓発イベントについて（御案内） 科学的介護情報システム（LIFE）令和7年度第1回説明会の実施について 医療事故の再発防止に向けた提言第21号の公表について（通知） 公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについて 「医師法第十六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」の一部改正について

送付日	文 書 名
11月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・「かかりつけ医機能報告マニュアル」等の送付について ・新型コロナワクチンに関する周知資材等について ・要指導医薬品として指定された医薬品について ・フリーランス・事業者間取引適正化等法の周知について（協力依頼） ・医薬品等行政評価・監視委員会5周年シンポジウムについて（周知依頼） ・日本学校保健会が主催する研修会の開催要項の送付について ・「適切なケアマネジメント手法の普及推進に向けた調査研究事業（令和7年度老人保健健康増進等事業）」における『「適切なケアマネジメント手法』の手引きその3』解説セミナーのご案内等について
11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・有料職業紹介事業等に関する本会の対応及び会員への注意喚起のお願い ・医療費助成の受給者証及び診察券のマイナンバーカードへの一体化に関する補助金周知用リーフレットの更新について ・日本医師会サイバーセキュリティ支援制度「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策チェックリストの実践ガイド」改訂のお知らせ（周知） ・中小・小規模事業者への支援策について ・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率の改定について ・「介護情報基盤ポータル」の機能追加及び介護事業所等への支援策について ・介護保険施設等における事故予防及び事故発生時の対応に関するガイドラインについて（周知） ・次世代医療基盤法における死亡した本人の同性パートナーによる医療情報の提供停止の求めについて（通知） ・検査料の点数の取扱いについて ・第167回日本医学会シンポジウムの開催について（周知依頼） ・第38回日本医学会公開フォーラムの開催について（周知依頼） ・令和7年度交通事故被害者サポート事業「交通事故で家族を亡くした子どもの支援に関するシンポジウム」の開催について ・後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針の全部改正について（通知） ・「診療用放射線の安全利用のための指針策定に関するガイドライン」の一部改正及び「イットリウム-90微小球体の治験適正マニュアル」の周知について
11月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナ保険証を基本とする仕組みへの移行に向けた準備セミナー開催について（周知依頼） ・マイナ保険証を基本とする仕組みへの移行について（周知） ・今冬の急性呼吸器感染症（ARI）への総合対策の推進について ・介護老人福祉施設等における診療行為に係る報酬の給付調整に関する周知について

送付日	文　書　名
11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・松本会長が出演したテレビ出演が掲載されているYouTubeのご案内並びに周知のご依頼 ・在日外国人向け資料「マイナンバーカードの健康保険証利用について」の多言語対応について（周知依頼） ・令和7年度外国人患者受入れ医療コーディネーター養成研修事業「医療機関の管理者向け研修」の開催について（ご案内） ・感染症法の一部改正について（通知） ・性感染症に関する特定感染症予防指針の一部改正について（通知） ・「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」の一部改正について ・使用薬剤の薬価（薬価基準）の一部改正等について ・「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」等の一部改正について ・保険医療機関及び保険薬局の指定並びに保険医及び保険薬剤師の登録に関する省令の一部を改正する省令の公布について ・「厚生労働大臣が指定する病院の病棟における療養に要する費用の額の算定方法の一部改正等に伴う実施上の留意事項について」等の一部改正について ・令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災に伴う災害の被災者に係るマイナ保険証又は資格確認書等の提示等について ・令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災に係るオンライン資格確認等システムにおける「緊急時医療情報・資格確認機能」をアクティビ化する医療機関・薬局の範囲・期間について ・令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災の被災者に関する既往歴等の提供について ・令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災に伴う災害の被災者に係る各種母子保健サービスの取扱い等について
11月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・医療措置協定の措置に係る協定締結医療機関の運営の状況等の報告開始について（通知） ・令和7年度宮崎大学がんセンター医療連携講演会の開催について（案内） ・令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災に伴う災害により被災した要介護高齢者等への対応および被災者に係る被保険者証の提示等について ・令和7年11月18日大分市佐賀関における大規模火災に伴う災害にかかる介護報酬等の柔軟な取扱い（基準緩和等）について ・令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災に伴う災害の被災者に係る定期検査等の取扱いについて

送付日	文　　書　　名
12月1日	<ul style="list-style-type: none">・「「強い経済」を実現する総合経済対策」における医療分野の「医療・介護等支援パッケージ」及び「重点支援地方交付金」による支援について・かかりつけ医機能報告マニュアルの策定について（通知）・新型コロナウイルス感染症患者等の公費支援に係る取扱いについて・予防接種委託単価等調査（令和7年度）調査結果について・北里柴三郎NHK大河ドラマ実現プロジェクトへのご協力のご依頼・今冬の急性呼吸器感染症（ARI）への総合対策の推進について・第三者行為に係る診療報酬明細書（レセプト）の特記事項欄記載依頼文書の送付について（お願い）・新たに薬価基準に収載された医薬品の「薬価基準収載医薬品コード」について（通知）・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について・無資格者によるエックス線の照射等に関する医療法等における取扱い等についての周知について（通知）・エチオピア連邦民主共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について・性感染症に係る予防啓発資材の活用について（依頼）・医療事故の再発防止に向けた警鐘レポートNo.4の公表について・フリーランス・事業者間取引適正化等法の説明会等の開催について・性感染症に関する特定感染症予防指針の一部改正について・抗PD-1抗体抗悪性腫瘍剤に係る最適使用推進ガイドラインの策定に伴う留意事項の一部改正について・ダラキユーロ配合注、ビラフトビカプセル50mg及び同カプセル75mg、オータイロカプセル40mg及び同カプセル160mgの医薬品医療機器等法上の効能・効果等の変更に伴う留意事項の一部改正等について・令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災に係るオンライン資格確認等システムにおける「緊急時医療情報・資格確認機能」をアクティビ化する医療機関・薬局の範囲・期間について（延長）

医療機関の経営者・管理者の皆様へ

医療勤務環境 改善支援センターを ご利用ください

県下の社会保険労務士と医業経営コンサルタントが県内の医療機関からの医療勤務環境の相談内容に応じて専門的な助言・支援を行います。

医療労務管理相談

- スタッフが長く、安心して働ける職場にしたい！
- 育児・介護中の休み方、働き方は？
- 医師の負担を軽減させたい…

医業経営面

- スタッフのキャリアを磨きたい！
- 補助制度を上手に活用したい。
- 効率良く、経営を安定させたい。

相談
無料



まずは、お電話ください。

宮崎県医療勤務環境改善支援センター

公益社団法人宮崎県医師会内
月曜～金曜 午前10時から午後4時まで

TEL.0985-20-1211

FAX.0985-27-6550 E-mail iryou-kinmukaizen@miyazaki.med.or.jp

日州医事原稿募集のお知らせ

日州医事では、会員の皆様から随筆、旅行記、ご意見などさまざまな投稿を随時受け付けております。以下の要領に沿ってご投稿ください。

■ 隨想・随筆・旅行記

字数：3,000字以内

写真：執筆者顔写真、その他本文に関連した写真・イラストなども掲載可

■ 短歌・俳句・川柳・詩

字数：それぞれの一般的な文字数（500字以内）

写真：執筆者顔写真、その他本文に関連した写真・イラストなども掲載可

■ 宮崎グルメ探訪

題材：お気に入りのお店をご紹介ください。お店の雰囲気やお薦めの料理、思い出話など

字数：800字程度

写真：執筆者顔写真、その他料理などの写真（2枚程）

※掲載は白黒

■ 私の本/私が推薦する本

題材：書物の紹介、読みどころ、執筆の思い出・思い入れなど

字数：800字以内

写真：執筆者顔写真、書物の表紙写真

■ その他

- ・夏の「はまゆう随筆」、新年の「新春随想」はその時期に本誌で原稿募集の案内をいたします。
- ・随筆などに掲載する、カット・イラストも随時募集しています。

～上記のコーナーにご投稿いただくにあたっての留意事項～

■掲載の可否・方法につきましては広報委員会にご一任ください。

■原稿の趣旨を変えない範囲で、日州医事のルールにしたがって表記などの修正をさせていただく場合があります。

■日州医事は、各都道府県医師会や行政・図書館・報道機関などにも配布しています。

■すべての投稿について

広報委員会で以下のいずれかに該当すると判断した場合には、修正または掲載をご遠慮いただくことがあります。

- ・著作権をはじめ、法令に定める権利やプライバシーを侵害するもの
- ・誹謗中傷や差別など、他の団体、個人または読者に不利益や嫌悪感を与える可能性があるもの
- ・布教や政治活動など、特定の宗教上や政治上の信条に偏ったもの
- ・公序良俗に反し、法律で禁止されている行為など、その他不適切と判断されるもの
- ・事実誤認、難解、過度な宣伝広告など

【原稿送付・問合せ先】ご投稿は主にメールで受け付けております。

宮崎県医師会広報委員会 日州医事担当（弓削）

Tel 0985-22-5118 Fax 0985-27-6550 E-mail genko@miyazaki.med.or.jp

あとがき



さんの著書『ニッポンぶらり旅2』に登場する店で、おかみさんは松本深志高校女子山岳部の創設者。山を愛し、20年にわたり娘さんと店を支えてこられましたが、昨年亡くなつたと伺いました。

今は娘さんが一人で暖簾を守つておられます。「太田さんの本を読んで、おかみさんにお会いしたかったのです」とお伝えすると、穏やかに微笑み、太田さんが訪ねた日のことや母の登山の思い出を語ってくださいました。

肴は塩イカ胡瓜に、昼に採れた山のキノコ——雑きのこおろし、猪のジンギスカン。中でも“虚無僧”という名のキノコが印象に残りました。香り高く、土の力を感じる滋味でした。カウンターの端にはおかみさんの遺影が置かれており、手を合わせ盃をあげました。真澄と大雪渓、ともに柔らかく穏やかな余韻を残すお酒でした。

この日、太田さんのご実家跡の公園にも立ち寄りました。さすがに少しきストーカーチックかなと思いましたが、憧れの人の足跡をたどるのも、また一つの“推し活”なのかもしれません。松本の夜風は少し冷たく、しかし心は不思議と温かくなりました。

(永野)

* * *

私の故郷は長崎市です。親にも宮崎に来てもらひ、親戚も少なくなりましたが、時に帰りたくなります。ちゃんぽん、皿うどん、吉宗、夕月のカレー、伯水樓のチリ丼、西銀のシースケーキ、美味しいものがたくさんあります。宮崎とは地形や歴史が異なり、異国情緒が漂い、路面電車、バスを多くの人が利用しています。宮崎からは東京より遠いですが、懐かしいあの街に帰りたいなあと思っています。

(石田)

* * *

先日、アニメキャラクターのカレンダーを頂きました。お子さんが喜びそうだし、後でイラストだけ飾ることもできるし、使い始めるのが楽しみです。今年の院内のカレンダーは実用性重視のシンプルなものでしたが、来年は、診察の合間に明るい気分になるようなものもいいなと考えています。みなさんのお勧めのカレンダーはありますか？

(横山)

* * *

長男が結婚することになりました。現在3年目の後期研修医ですが、お相手は初期研修先の病院で知り合った看護師さんです。お相手のお父さんも医師で、以前私が鹿児島にいたころに一緒に仕事をしていましたので、びっくりしました。ちなみにお相手のお兄さんも医師で、初期研修のときに長男がお世話をなつたそうです。さらにお相手の妹さん、私の妻は看護師、私の次男は臨床検査技師と医療スタッフ勢揃いの両家となりそうです。

(高橋)

私はいわゆる“推し”がいません。俳優や歌手に心酔することもなく、ただ20年ほど前から、デザイナーで居酒屋探訪家の太田和彦さんの著書が好きです。居酒屋の暖簾をくぐり、酒と人と風土を味わう。その世界には静けさの中に確かな温もりがあり、そんな世界を自分の足で確かめたくて、居酒屋を巡っています。

先月、長野県松本市の「あや菜」を訪れました。太田さんの著書『ニッポンぶらり旅2』に登場する店で、おかみさんは松本深志高校女子山岳部の創設者。山を愛し、20年にわたり娘さんと店を支えてこられましたが、昨年亡くなつたと伺いました。

今は娘さんが一人で暖簾を守つておられます。「太田さんの本を読んで、おかみさんにお会いしたかったのです」とお伝えすると、穏やかに微笑み、太田さんが訪ねた日のことや母の登山の思い出を語ってくださいました。

肴は塩イカ胡瓜に、昼に採れた山のキノコ——雑きのこおろし、猪のジンギスカン。中でも“虚無僧”という名のキノコが印象に残りました。香り高く、土の力を感じる滋味でした。カウンターの端にはおかみさんの遺影が置かれており、手を合わせ盃をあげました。真澄と大雪渓、ともに柔らかく穏やかな余韻を残すお酒でした。

この日、太田さんのご実家跡の公園にも立ち寄りました。さすがに少しきストーカーチックかなと思いましたが、憧れの人の足跡をたどるのも、また一つの“推し活”なのかもしれません。松本の夜風は少し冷たく、しかし心は不思議と温かくなりました。

(永野)

1か月東京で実習を行うことになりました。東京慈恵会医科大学はアルファベットで棟の名前がつづかれているほど複雑なので、実習中に慣れるか心配です。また、大学外でも人の多さと街の活気に圧倒されています。勉学はもちろんですが、東京滞在中の裏ミッションとして有名イルミネーション制覇と山手線徒步1周を計画しています。巡りたいスポットが山のようにあるので一日一日を大切に過ごしたいと思います。

(宮本)

* * *

節約のためにお弁当作りを始めました。レシピどおりの簡単なものしか作れませんが、5日分をまとめて作って冷凍しているので意外と楽です。筋トレにも役立つと思い、これから忙しくなる実習中でも続けたいと思っています。先々週から3週続けてやきとり弁当だったので、今週は気分を変えて三色そぼろ丼を作りました。

* * *

急峻な山肌に広がる多様な植物や、青く透き通った淵、奇岩を眺めながら、晩秋の加江田渓谷を歩いてきました。脳の自律神経中枢が疲弊して生じる疲労感の回復には、微妙に変化する“ゆらぎ”に身をさらすことが有効だといわれます。ホトトギスの花を揺らす風や木漏れ日、川面の光とせせらぎの音、セグロセキレイの揺れ動く尾など、たくさんの“ゆらぎ”に包まれ、心身ともにリフレッシュするひとときとなりました。

(田畠)

今月のトピックス

会長のページ 気温と人体

気温と人体についてです。気温が原因となる死亡として、真夏の熱中症と真冬のヒートショックによる例が多いそうで、年間の気温に関連した死亡者数は交通事故によるものを上回るそうです。びっくりです。

3ページ

日州医談 女性医師の管理職登用について～多様な視点での意思決定につなげるために～

上山貴子理事による「女性医師の管理職登用について」です。県内基幹型臨床研修病院医師で管理職の男女比は91.5%/8.5%だそうです。2021年度雇用均等基本調査結果（厚生省）によると、課長相当職以上の女性管理職がいる企業の割合は53.2%で男女比は87.7%/12.3%のようで、一般企業とはまだ差がありそうです。

4ページ

身近なお困りごと相談室

一般内科診療の際のセクハラ問題について解説いただいております。法的リスク回避（予防法務）の観点に限れば、服の上からの聴診が無難との回答です。時代ですかね。

19ページ

診療メモ 非心原性脳梗塞の二次予防：抗血小板薬はこう使い分ける

河野朋宏先生による「非心原性脳梗塞の二次予防」での抗血小板薬の使い分けについての解説です。適応と期間を個別化して使い分けることが最重要とのことです。

70ページ

(文責：菊池 英維)

日 州 医 事 第916号（令和7年12月号）（毎月1回10日発行）

発行人 公益社団法人 宮崎県医師会 会長 河野 雅行

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550
<http://www.miyazaki.med.or.jp/> E-mail:office@miyazaki.med.or.jp

編集 宮崎県医師会広報委員会

委員長 菊池 英維

副委員長 石田 康行

委員 横山 晃子, 下窪 徹, 高橋 聰,
國枝 良行, 永野 元章, 高村 一紘

学生委員 家村 和奈, 宮本貴由樹, 野間 貫太, 安丸 佳苗

担当副会長 金丸 吉昌

担当理事 荒木 早苗, 高木 純一, 佐々木 究, 田畠 直人

事務局 学術広報課 弓削 圭介, 久永 夏樹

印刷所 有限会社 中川印刷 落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定価 350円（但し、県医師会員の購読料は会費に含めて徴収しております）